國中央政府ノ地租ニ比スレハ四割若クハ五割ヲ加フト云フヘキナリ

顧ミテ墺地利ノ形況ヲ見ルニ中央政府ノ地租ハ千八百七十三年特ニシスライタニーニ於テ三千七百萬「フローリン」即チ九千二百五十萬「フランク」ヲ收入シ外ニ家屋稅ノ收入高二千百萬「フローリン」アリ余輩ハ今トランスライタニーニ於ケル地租收入高ヲ詳ニスルヿ能ハスト雖盖シシスライタニーノ地租收入高五分ノ二即チ凡ソ三千七百萬「フランク」ヲ下ラサルヘシ然ラハ則チ墺地利帝國ニ於テ農地稅ノ中央政府收入高ハ一億二千九百萬「フランク」ニ下ラサルヘシ是レ已ニ佛國ノ農地ニ課スル所ノ正稅收入高ヨリ多シ墺地利ニ於テモ佛國ニ於ケルカ如ク其他ニ地方稅アリ而シテ墺地利帝國ノ農業ノ富ハ佛國農業ノ富ノ五分ノ四ニ過キタリト云ヒ難シ故ニ中央政府ノ地租ハ農產收入高ニ比例スレハ佛國中央政府ノ地租ニ過クルヿ二割五分トナルヘシ加之ス近年墺地利帝國ニ於テハ歲入稅ノ制ヲ設ケ土地ノ所有產ヨリ得ル所ノ歲入モ亦他ノ歲入ト共ニ之ヲ課ス然ルニ其收入高ハ地租ノ收入高ニ算入セサル者トス右ノ歲入稅ヲ課スルニ農地ノ所有產ニハ地租ノ三分ノ一ヲ以テ

スルヲ法トス故ニ其歲入稅ヲ通算スル時ハ墺地利帝國中央政府ノ地租ハ土地ノ純歲入ニ比スル時ハ佛國中央政府ノ地租ヨリ多キヿ五割ニ過キン

我佛國ノ隣邦白耳義荷蘭普魯士ノ諸國ニ於テハ農地ノ地租ノ負擔ハ殆ト佛國ト異ナルナキカ如シ白耳義ハ佛國ト均シク家屋ノ稅ヲ以テ地租ト相混ス千八百七十三年中央政府ノ豫算表ニ載スル所ヲ見ルニ兩稅ノ收入高二千三十六萬「フランク」トナス白耳義ノ幅員ハ僅カニ佛國ノ十七分ノ一ニ過キスト雖地味ノ豐饒ナル耕耘ノ上達セルカ爲メニ農業ノ富ハ凡ソ佛國ノ七分ノ一ニ達ス然ラハ則チ土地家屋ノ稅二千三十萬「フランク」ハ佛國ニ於ケル一億四千二百萬「フランク」ニ當ルヘクシテ少シク佛國ノ土地家屋ノ稅ヨリ輕シ

荷蘭モ亦家屋稅ヲ以テ地租ト混ス千八百七十三年ノ豫算表ニ於テハ其收入高千二十四萬六千「フローリン」即チ凡ソ二千三百萬「フランク」アリト稱ス該國ノ幅員ハ佛國ノ十六分ノ一ニ過キスト雖農業大ニ進歩セルヲ以テ農業ノ富ハ蓋シ佛國ノ九分ノ一ニ達セン故ニ土地家屋ノ稅二千三百萬「フランク」ハ佛國ニ於ケル一億八千四百萬「フランク」ニシテ殆ト相ヒ同シト云フヘシ

普魯士ノ地租ハ判然家屋ノ税ト區別スル者ニシテ中央政府ノ地租收入高ハ千三百五萬五千「ターラ」即チ凡ソ四千九百萬「フランク」ナリ普魯士ハ人口二千五百萬ヲ有シ幅員ハ三十五萬二千方「キロメートル」佛國幅員ノ三分ノ二ニ過キス地味ノ豐饒ナルハ佛國ニ及ハサルヲ以テ農産ノ純收入ハ佛國農産ノ純收入ノ半ニ過クヘカラス是故ニ該國地租ノ收入四千九百萬「フランク」ハ佛國ニ於ケル九千八百萬乃至一億萬「フランク」ニ當ルト云フヘシ是ヲ以テ之ヲ見レハ普魯士ノ地租ハ土地ノ收入ニ比例シテ佛國ノ地租ニ及ハサルヿ凡ソ五分ノ一乃至六分ノ一ナルヘシ然リト雖普魯士ハ歳入税等級税ノ制アリテ一般ノ歳入ニ税シ土地ノ歳入モ亦均シク負擔スルヲ以テ遂ニ農地ノ負擔ハ佛國ニ過キン

本文ノ以太利墺地利白耳義荷蘭普魯士ノ收入表ハモーリス、ブロック氏ノ經濟統計年表(千八百七十四年分)ニ據ル

次テ英國ノ景況ヲ見ン余輩ハ佛國ノ地租ヲ以テ重カラスト稱シ右ニ歴舉スル諸國ノ例証ヲ見レハ頗ル其言ノ當レルカ如シ然ルニ今一歩ヲ進ンテ英國ノ形況ヲ見レハ佛國獨リ地租ノ輕キニアラサルヲ知ヲン抑英國ノ中央政府ニ收入セル所ノ地租ハ常ニ一定シテ會計豫算表ニ揚クル所ハ百十萬四千「ポンド」即チ二千七百五十萬「フランク」ニシテ家屋税ヲ合算セス之ヲ以テ佛國ノ地租ニ比スレハ其相去ルヿ甚タ遠キヲ以テ農業ノ保庇者ハ此比較ヲ以テ無識ノ撿査官ヲ迷ハシムルヿヲ得ヘシ然リト雖只專ラ中央政府ノ收入高ヲ比較シテ其他ヲ問ハサレハ恐クハ過チヲ免レサラン英國地租ノ制ハビット氏ノ時ヨリグラッドストーン氏ニ至ル迄財政上ノ一奇法ヲ行ヒシ者ト云フヘシ其制タル被税者ヲシテ望ニ從ヒ政府ニ資本ヲ拂ヒ毎年ノ租税ヲ免ルヿヲ得セシムル者ニシテ即チ租税ヲ買ハシムル者ナリ該法ヲ以テ悉ク全國ノ地租ヲ賣ルニ至ラサリシト雖之ヲ買フ者モ亦少カラスシテ大ニ地租ノ收入ヲ減セリ若シ斯ノ如キヿナカラシメハ全英國地租ノ收入高ハ方今ノ收入高ニ倍スヘキヤ明カナリ千七百九十八年前即チ地租賣買ノ行ハレシ前ハ中央政府地租ノ收入高五千百萬「フランク」アリ(内地租税取調委員ノ報告第二卷百五十九葉ヲ見ルヘシ)加フルニ英國ニ於テハ歳入税ノ法アリテ土地ノ歳入モ亦

均シク他ノ歳入ト共ニ之ヲ負擔ス英國歳入税ノ二種即チ甲種乙種ハ土地ノ歳入ニ關ス乙種ハ農民ノ利益ニ課スル者ニシテ千八百七十二年度ノ收入高ハ三十二萬九千「ポンド」即チ八百餘萬「フランク」アリ甲種ハ家主地主ノ歳入ニ課スル者ニシテ同年度ノ收入高二百五十三萬九千「ポンド」即チ凡ソ六千四百萬「フランク」ナリ然ルニ英國ニ於テハ土地ノ歳入價格ハ家屋ノ歳入價格ニ及ハサルヲ以テ右收入高七分ノ三即チ二千八百萬「フランク」ヲ以テ鄉村地主ニ課セシ者トナスヘシ(千八百七十三年統計年表ニ於テ歳入税ヲ課シタル土地家屋ノ歳入表(第十七葉)ヲ見ルヘシ)此ニ於テカ英國ノ中央政府ニ收入スル地租二千七百五十萬「フランク」歳入税ノ目ヲ以テ農民ノ利益ニ課スル者八百萬「フランク」鄉村ノ地主ニ課スル者二千八百萬「フランク」通計六千三百萬「フランク」ナルヲ知ルヘシ

ピット氏ノ時ヨリグラッドストーン氏ノ時ニ至ル迄地租ノ一部ヲ購買セシメタルカ爲メニ非常ニ收入ヲ減セリト云ヒ難シト雖亦顧ルニ足ラスト云フヘカラス然リト雖此ニ最モ注意セサルヘカラサル者ハ土地カ地方税ヲ負擔スル丁是ナリ英國ニハ入市税ノ法ナク郡市邑宗邑皆其經費ヲ直税若クハ市場税等ノ如キ諸税若クハ瓦斯費用水費ノ如キ獨占事業ニ取ルト雖就中直税ヲ以テ最要ナル財源トス千八百七十三年調製ノ統計年表ヲ見ルニ千八百七十一年度ニ於テ地方直税ノ收入高ハ全英國ニ於テ二千百七十八萬六千四十八「ポンド」即チ凡ソ五億四千五百萬「フランク」ニシテ地方ノ諸間税幷諸費ノ收入高ハ僅ニ四百六十五萬八千八十八「ポンド」即チ凡ソ一億千百萬「フランク」ナリ(千八百七十三年統計年表第六葉ヲ見ヘシ)右ノ直税五億四千五百萬「フランク」ハ農地ニ課スル者アリ家屋ニ課スル者アリ今前ニ擧クル所ニ從ヒ其七分ノ三ハ農地ニ課スル者トセハ二億三千三百五十萬「フランク」ハ農地ノ負擔ニシテ餘ハ悉ク家屋ノ負擔ナルヘシ

由是觀之ハ英國農地ノ負擔ハ國費六千三百萬「フランク」地方費二億三千三百萬「フランク」ニシテ合計二億九千六百萬「フランク」ナリ佛國農地ノ負擔ハ已ニ論述セシ如ク國費一億二千二百萬「フランク」副税一億千六百萬「フランク」合計二億三千八百萬「フランク」ナリ只其總額ヲ對比スル時ハ英國農地ノ負擔ハ佛國

ヨリ多キヿ凡ソ五分ノ一トナル蓋シ英佛兩國農業ノ富ハ相均シト云フモ妨ケナカルヘシ如何トナレハエングランドノ耕耘ハ概シテ佛國ニ優ルト雖ア

イヤランドハ大ニ之ニ異ナリスコットランドノ一方ハ地味貧瘠ナリ全英國ノ幅員ハ僅カニ佛國幅員ノ五分ノ三ニ過キス加フルニ佛國南部ノ農利ハ英國ノ企及フ能ハサル所ノ者アレハナリ然ラハ則チ英佛兩國農業ノ富ハ敢テ異同ナカルヘキヲ以テ英國農地ノ負擔ハ少シク佛國ヨリ重シト云ハサルヘカラス

右ニ歴舉比較スル所ヲ以テ之ヲ見レハ以太利墺地利農地ノ負擔ハ實ニ佛國ヨリ重ク英國モ亦然ルヲ知ル荷蘭白耳義普魯士ノ地主ノ位置ハ佛國ノ地主ト殆ト異ナルナシ佛國ノ地主獨リ不滿ヲ抱クノ理アランヤ

今佛國ノ地租ヲ以テ諸國ノ地租ニ比較スルヲ止メ現今ノ地租ヲ以テ佛國ニ於テ百年以來土地ニ課セシ所ノ直稅及ヒ他ノ數稅ト相比較セハ亦地主カ不滿ヲ抱クヘキノ理ナキヲ証セン

佛國現今ノ地租ハ實ニ委員總會ニ始マルト雖爾後數回ノ變遷ヲ經タリ委員總會ハ千七百九十年十一月二十三日及ヒ十二月一日ノ法令ヲ以テ從來不動產ニ課セシ所ノ租稅ヲ廢シテ現法ノ地租ヲ設ケ土地ノ歲入即チ農地ノ地代幷ニ家屋ノ貸賃六分ノ一ヲ徵收スヘキヲ定メタリ當時家主地主ノ純歲入ハ十四億四千萬「フランク」アリ之ニ六分ノ一ヲ課スルヲ以テ二億四千萬「フランク」ノ收入ヲ得ヘシト豫算セリ而シテ州ノ經費トシテ一「フランク」毎ニ副稅五「スー」ヲ課セリ之ヲ以テ其全租稅ノ高ハ三億「フランク」トナリ千八百七十五年ニ於ケル地租ノ正稅副稅ノ收入ニ及ハサルヿ僅カニ三千三百萬「フランク」ノミ此ニ注意スヘキ一點ハ革命ノ際ニ設置セシ所ノ地租ハ二種ノ租稅即チ農地ニ課スル者家屋ニ課スル者ヲ混合セシニアリ而シテ此法タル今日ニ至ルマテ尙其別ヲナサヽル所ニシテ余輩ハ殊更ニ意ヲ用ヒテ之カ別ヲナセシハ讀者ノ記スル所ナラン

革命政府ハ不動產ノ純歲入十四億四千萬「フランク」ト豫算セシヲ以テ其收入ハ三億「フランク」ヲ得ヘクシテ歲入ノ五分ノ一ニ過クル者ナリ豈ニ重シト云ハサルヘケンヤ然ルニ茲ニ參考セサルヘカラサル事實アリ第一當時政府ノ

豫算セシ純歳入十四億四千萬「フランク」ハ蓋シ未タ其實ヲ得サルヘシ之ヲ以テ農地所有産ノ歳入價格ノミトセハ當然ナルヘシト雖家屋ノ歳入ヲ合算スル時ハ必ス此額ニ止マラサルヘシ已ニ論述セシカ如ク方今英國ニ於テハ家屋ノ歳入即チ住處、荷庫、製造處等一切ノ建物ノ歳入ハ土地ノ歳入ニ過ク佛國ニ於テ革命ノ時ニ當テハ斯ノ如クナラスト雖家屋ノ純歳入ハ土地ノ純歳入ノ凡リ三分ノ一ニアリシト云フモ敢テ大過ナカルヘシ然ラハ則チ土地ノ歳入ハ僅カニ十二億「フランク」ナリト假想スルモ全不動産ノ歳入ハ十六億「フランク」トナル故ニ革命政府ノ不動産税ハ副税ヲ合セテ其實不動産歳入ノ五分ノ一ニ達セサルモノナリ

佛國ノ委員總會ニ於テ決定セシ地租實際ノ輕重ヲ見ルニ參考スヘキ一他ノ點アリ即チ舊制ナル複税法ヲ廢止セシヿ幷ニ從前租税ヲ免レタル貴族寺院ニ租税ヲ課セシヿ是ナリ舊制ニ於ケル土地ノ負擔ヲ精算スルニ由シナシト雖其總額ハ委員總會ニ於テ設置セシ所ノ地租幷ニ其副税ノ高ニ過クルヤ疑ヲ容レサルナリ千七百八十九年五月一日ヲケル氏カ國會ニ出セシ歳入表ヲ見ルニ總歳入高五億四千四百萬「フランク」ニ於テ直税一億九千百萬「フランク」トス其他多カラスト雖地方ノ地租アリ然ルニ其一億九千百萬「フランク」ハ悉ク土地家屋ノ税ニアラス其一部ハ動産ニ課セシ者ニシテ不動産ノ税ハ實ニ一億五千萬「フランク」ニ過キサルヘシ之ニ十一ノ税一億三千三百萬「フランク」ノ加フヘキアリ其他數種ノ租税アレトモ一々枚擧精算スルニ由シナシ然レトモ右ノ二項ヲ以テ既ニ舊制ニ於テハ中央政府及ヒ寺院ノ收入高二億八千三百萬「フランク」ニ達スルニアラスヤ而シテ當時是等ノ租税ヲ負擔セシハ僅カニ全國三分ノ二ニシテ寺院貴族ノ如キハ往々毫モ之ヲ負ハス偶々之ヲ負フモ僅々タル税額ニ過キサリシ者ナリ然ルニ委員總會ハ寺院貴族ニ特惠ヲ許サヽルヘケレハ千七百九十年ニ於テハ舊税法ニテモ土地ニ課スル租税ノ收入高ハ三億千四百萬「フランク」ヲ得タルヘシ由是觀之ハ委員總會カ全國ノ不動産ニ正税副税トシテ三億「フランク」ヲ課セシハ却テ土地ノ負擔ヲ減セシ者ト云フヘキナリ然ルヲ舊租税ノ煩雜苛刻ナリシハ人又之ヲ記セス現制ノ地租ハ却テ其薄價ナルヲ知ラサルヲ如何セン

革命政府ノ地租ハ斯ノ如クナリシヲ以テ若シ國家ニ騒亂ナク政府動搖セス行政愼密ナラシメハ國民ハ敢テ其負擔ニ堪ヘ難キニアラスト雖戰亂相續キ人馬ノ召募度ナク紙幣ノ增發アリ定價條例ノ令アリ社會一般秩序ヲ失ヒ人民塗炭ニ苦ミ爲メニ地租ノ收入停滯セシ者少ナカラス又其地租ヲ以テ行政區ニ配賦セシヤ當時未タ地租ノ原簿即チ人民所有地明細帳ナカリシヲ以テ從前負擔ノ割合ニ應シテ之ヲ配賦シ大ニ不平均ヲ致セリ

其不平均ヲ改メ地租ノ負擔ヲシテ偏重ナカラシメ且ツ其收入ヲシテ大不同ナカラシメンヿヲ欲シ負擔最モ重キ諸州ノ賦課ヲ輕減シ共和政府ノ末年ヨリ千八百二十一年ニ至ルマテ陸續地租正税ノ收入高ヲ減シ二十五年ノ間ニ於テ殆ト四割ヲ減セリ千七百九十年ノ條例ヲ以テ地租正税ノ額ヲ定メ二億四千萬「フランク」トナセシヨリ以來之ヲ減少セシ者左ノ如シ

千七百九十七年	二一八、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千七百九十八年	二〇七、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千七百九十九年	一八九、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百二年	一八三、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百四年	一七四、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百五年	一七二、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百十九年	一六八、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ
千八百二十一年	一五四、〇〇〇、〇〇〇フランクニ減シ

爾後地租ノ正税ハ千八百三十五年ノ條例ヲ以テ家屋ノ税ハ動搖スル者トナシ家屋ヲ廢スル時ハ共ニ税ヲ廢シ新タニ家屋ヲ建ル時ハ税ヲ課スヘシトシ少シク舊法ヲ加減セリ今日ニ至ルマテハ新築家屋ノ數及ヒ其歲入常ニ廢毀家屋ノ數ニ超ヘ從ツテ地租正税ノ收入ハ年々增加シ千八百三十五年ノ條例發行以前ハ一億五千四百萬「フランク」ナリシニ千八百七十五年ニハ增シテ一億七千百萬「フランク」トナレリ由是觀之ハ家屋税ヲ動搖スルカ爲メニ地租ノ正税ハ每年平均凡ソ八十萬「フランク」ヲ增加スト雖農地ニ課スル所ノ地租正税ニ至リテハ千八百二十一年以來毫モ變動スル所ナシ

地方税ナル副税ニ至リテハ常ニ增加スルヲ以テ農地幷ニ鄕村ノ財産ニ課ス

ル所ノ地租ハ千八百七十五年ニハ増シテ三億三千三百萬「フランク」トナリ爾後モ年ニ増加ノ勢アリ然ルニ副税ニ注意スヘキモノアリ第一副税ハ少ナクモ其一大部分ハ土地ノ價格ヲ増加スル所ノ道路建築若クハ他ノ起業費ニ供スル者ト云フヘク第二方今ノ地租ハ正副ヲ合セテ委員總會ニ於テ設置セル所ノ地租正副ノ額ニ超ユルヿ僅カニ三千三百萬「フランク」ニ過キス然ルニ當時ヲ以テ今日ニ比スレハ土地ノ價格歳入兩ナカラ大ニ増加セリ第三副税ノ一部分ハ永久ナル者ニアラス早晩廢業ニ屬スヘキ者ナリ如何トナレハ方今ハ公債ノ元利仕拂ノ爲メニ用ヒラルヽ所アルヲ以テナリ然ルニ或ハ云ン假令ヒ官公債ヲ償却シ終ルト雖副税ヲ廢スルニ至ラサルヘシト蓋シ其レ或ハ然ラン然リト雖公債ヲ償還シ終ル時ハ之ヲ以テ公益事業ヲ起シ一層土地ノ歳入ヲ増加スルヿヲ得ン

千七百九十年佛國不動産ノ純歳入十四億四千萬「フランク」ナリトセリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ村地ノ歳入ヲ以テ市地ノ歳入ニ合算スル時ハ僅ニ此額ニ止マラサルヘシ千八百二十一年ニ於テハ全不動産ノ歳入十五億八千萬「フランク」トセリ是レ前計ニ比スレハ稍々精密ナルヘシト雖未タ遥カニ實額ニ及ハサルヘシ

千八百五十一年ニ於テ佛國政府カ調製セシ新表ハ前年ノ計算ニ比スレハ遥カニ精密ナルヘシ該表ニ據レハ佛國不動産ノ純歳入ハ二十六億四千五百萬「フランク」ナリトス蓋シ其實ニ近キ者カ千八百六十二年ニ至リ政府ハ更ニ價格ヲ調査シ土地ノ歳入三十二億千六百萬「フランク」トセリ千八百七十四年大藏卿ノ計算ニ據レハ其歳入ハ方今三十九億五千九百萬「フランク」ニ達セリト云フ右ノ計表ノ額ハ農地ノ歳入ハ勿論一切ノ建物ノ歳入ヲモ合算スル者ト知ルヘシ故ニ一切ノ不動産ニ課スル所ノ地租正副ヲ合セテ三億三千三百萬「フランク」ハ純歳入ノ八分四ニ當ル者トス千八百五十一年ニハ地租正副ノ收入二億五千九百萬「フランク」ニシテ歳入二十六億四千五百萬「フランク」ナリシヲ以テ九分八ノ徴課トナル千八百二十一年ニハ地租正副ノ收入二億四千百萬「フランク」ニシテ歳入ノ算定高十五億八千萬「フランク」ナリシヲ以テ一割五分二ニ當ル尤モ千八百二十一年ノ歳入價格ハ遥カニ其實ニ及ハサリシヤ疑

ヲ容レサル所ナリト雖千八百二十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄ノ間佛國ノ地租ハ正稅副稅ヲ合セテ僅カニ九千二百萬「フランク」即チ四割ノ增加ニ過キスト雖鄕村市府不動產ノ歲入ノ增加ハ一倍ニ過キタリト云フモ敢テ大過ナカルヘシ

レオン、セーヌ氏カ千八百七十六年三月二十三日下院ノ會議ニ於テ論議セシ地租ノ徵收法改正ニ關スル條例ノ議案ヲ見ルニ佛國土地ノ歲入額幷ニ地租正稅ノ收入額ニ付五時代ノ形況ヲ載セリ則チ左ニ

價格定算時	土地ノ純歲入高	正稅徵課高	歲入ト徵收高ノ比例
千七百九十一年	一、四四〇、〇〇〇、〇〇〇	二四〇、〇〇〇、〇〇〇	一割六分六六
千八百二十一年	一、五八〇、五九七、〇〇〇	一五四、六七八、一三〇	九分七九
千八百五十一年	二、五四〇、〇四三、〇〇〇	一五五、〇六四、三六六	六分〇六
千八百六十二年	三、〇九六、一〇二、〇〇〇	一五九、四九二、六六三	五分一五
千八百七十四年	三、九五九、一六五、〇〇〇	一六七、九六九、〇二八	四分二四

表中前章ニ擧クル所ノ數ト異ナル者アルハセーヌ氏ハ千八百五十一年千八百六十二年ノ配賦高ニ於テアルサースロレーン二州ノ配賦高ヲ除算セシヲ以テナリ

實ニ佛國政府ハ千七百九十七年ヨリ千八百二十一年迄ノ間大ニ地租正稅ノ額ヲ減シ千八百五十一年ニ至リ又中央政府ノ經費トシテ二千七百萬「フランク」ヲ得シ所ノ十七「サンチーム」ノ副稅ヲ廢セリ又右ノ表ヲモ合セ考フル時ハ其全体ニ於テハ歲入ニ比較シテ其負擔漸次輕減スルヲ見ル然ラハ則チ佛國ノ不動產所有主ハ國稅若クハ地方稅ヲ以テ重シトスルノ理ナカルヘシ

然ルニ佛國ニ於テ地租ノ徵收割合ニ輕シト云フ者アラハ頗ル輿論ノ意ニ逆フ者ニシテ不動產ノ所有主ハ皆自ラ以爲ラク方今ノ地租ハ重シト何ヲ以テカ斯ノ如ク輿論ト學理ノ探究ト相背馳スルヤヲ考フルニ其理由二アリ一ハ第十九紀ノ初凡ソ二十五年ノ間數々地租ノ改正ヲ計リシト雖方今尙未タ大ニ不平等ノ配賦ヲ免レサルニアリ(後章ニ於テ其不平等ヲ論明スヘシ)然ルニ其重ナル理由ハ地主等カ現今ノ地租ノ格段ナル起因ヲ問ハスシテ政府ノ公

債證書所有主若クハ他ノ動產所有主ノ負擔ヲ比較シ其負擔ノ均シカラサルヲノミ注目スルニアリ獨リ各種財產ノ負擔ヲ顧ル時ハ地主等ノ言亦理アルカ如シ如何トナレハ諸動產ノ稅ハ僅カニ其歲入ノ三分ニ過キス政府公債證書ノ利子ハ租稅ナク而シテ地主ハ平均八分五ヲ拂フヲ以テナリ然リト雖其比較ハ未タ當レリト云ヒ難シ請フ之ヲ陳セン方今ノ地租正稅ハ千七百八十九年前ニ於テ中央政府、某公會、及ヒ某一個人ノ經費トシテ地主ニ賦課セシ所ノ數多ノ租稅ニ比スレハ遙カニ輕ク且ツ動產稅ハ近年ノ設置ニヨル者ニシテ當時未タ一ノ負擔ナカリシニ地主ハ之ヲ顧ミスシテ只管ラ現況ニ注目シ又土地ハ一種ノ財產ニシテ社會ニ對シテ格段ナル義務ヲ有スル者ナルニ地主ハ之ヲ忘ルカ如シ何ヲ以テカ社會ニ義務ヲ負フト云フ曰ク永世ニ土地ヲ私有スルハ天理ニアラスシテ政治上ノ制度ナリ而シテ地主タル者ハ勞力ヲ費シタル報酬ヲ得ルニ止マラス天功ヲ合セテ其利ヲ得ルカ故ニ土地ノ所有者カ得ル所ノ純歲入ハ往々國內一般相當ノ勞力ノ報酬及ヒ實際耕耘ニ用ヒ或ハ土地ノ開墾改良等ニ用フル資本ノ利子ニ過ルヲ以テナリ加フルニ地主等ハ動產ト云フ者ハ農業若クハ工業ニ使用スル所ノ資本ノ代表證書ニ過キス而シテ其動產トナリ三分ノ租稅ヲ負擔スル以前已ニ地租若クハ營業稅ヲ負擔セシヲ思ハサル者ニアラスヤ

地主等カ往々忽カセニスル所ノ者ハ只ニ此ニ止マラス抑地租副稅ヲ以テ收入スル者ハ公益事業ノ經費ニ給シ又ハ直接ニ若クハ間接ニ地主ヲ利スル所ノ公益事業ノ爲メニ募集セシ公債ノ元利仕拂ニ供スル者ナリ故ニ地主等ハ宜シク地租副稅ノ一部分ハ道路橋梁ノ建築修繕費ニシテ己レノ利益ノ爲メニ費ヤス所ノ者ト見做スヘク一概ニ租稅ト思フヘカラス然ルニ動產稅ニ至リテハ此ト異ナリ而シテ又副稅ノ一部ハ公益事業ノ爲メニ募集セシ公債ノ償却ニ供スルヲ以テ十五年乃至三十年ヲ出スシテ右ノ副稅ハ減セラルヲ得ヘク若シ之ヲ減セサレハ新事業ニ用フル公債ノ仕拂ニ充ルヲ得ヘキ者タルヲ考ヘサルヘカラス是等ノ事實ニ於テハ獨リ地主ニ云フヘクシテ動產ノ所有主ニ云フヘカラサル者ナリ

地主等或ハ云ン方今ノ勢地方副稅年ニ增加スルモ毫モ之ヲ減スルノ色ナシ

ト曰ク既往ニ於テハ然リ然リト雖將來ニ於テハ州邑ノ公債減少スルニ從フテ副稅モ亦減スルヲ得ヘシ茲ニ又一言セサルヘカラサル者ハ地方濫費ノ弊是ナリ某州某府ニ於テハ往々無用ノ修飾驕侈ヲ事トシ土木ヲ起ス者少ナカラス然ルニ斯ノ如キヿアラシムル者ハ地主等カ自ラナセル者ナリ何爲ソ地方會議ニ於テ費目ノ節減ヲ力メサルヤ

思フニ方今農地幷ニ市地ニ課スル所ノ正稅副稅ハ平均八分四ナリト雖之ヲ以テ一割トナスモ毫モ不便ナク殆ト七千萬「フランク」ノ收入ヲ增加スルヲ得ヘシ又增加シテ一割二分トナスモ强テ危險ナク不正ナク而シテ其收入ハ一億五千萬「フランク」ヲ增加スヘシ然ルニ被稅者ヲシテ其增稅ヲ甘受セシメント欲セハ同時ニ大ニ間稅幷ニ動產ノ讓與稅ヲ減セサルヘカラス余輩ハ後篇ニ於テ不動產遺傳稅ヲ減シテ百「フランク」ニ付五十「サンチーム」トナスノ大便益アルヲ論明セン之ヲ減スル時ハ政府ノ收入ヲ減スルカ故ニ其償補トシテ地租ヲ增加スルヲ要ス加フルニ地租ノ配賦ヲシテ宜キヲ得セシメサルヘカラス其徵收領ハ一定不動ニセスシテ不動產ノ富ノ發達ニ應シテ增加スルヲ

得セシメサルヘカラス請フ今ヨリ其方法ヲ講究セン

已ニ論セシ如ク佛國ニ於テ始テ地租ヲ設置セシニ當リテヤ實驗論ヲ以テ配賦法ヲ施行セリ此制タル一時ノ便法トシテ之ヲ行フヲ得ヘシト雖政法漸ク進ムニ至リテハ決シテ固守スヘキノ制ニアラサルナリ又其配賦ヲナセシヤ既往ノ賦課ニ比例セシヲ以テ之ヲ永遠ニ行フヘカラサルハ自然ノ勢ナリ當時委員惣會ハ國家ノ財政ヲ以テ正平ニシテ學理ニ適セシメ地租ノ賦課ヲシテ一層法式アラシメンヿヲ力メ遂ニハ取分稅法タラシメント欲スルノ意アリ故ニ令ヲ發シテ曰ク被稅者ニシテ地租正稅ノ負擔土地歲入ノ五分ノ一以上ニ至ル者アリテ昭然事實ヲ明証セハ其負擔ヲ減シテ五分ノ一トナスヘシト之ヲ以テ多少配賦法ノ弊ヲ矯メンヿヲ計レリ

凡ソ地租ヲ課スルニハ其基礎トシテ據ルヘキ所ノ原簿ヲ製セサルヘカラス地租原簿ニ二種アリ一ヲ略分原簿ト云ヒ一ヲ精分原簿ト稱ス精分原簿ヲ調製スルニハ數多ノ歲月ヲ要スヘシ略分原簿ハ只ニ配賦ヲシテ稍々不平均ヲ免レシムルニ過キス獨リ精分原簿ヲ以テ眞ニ分收稅法タルヲ得セシムル者

トス

略分原簿ハ土地ノ廣狹作物ノ品種ニ基キ各邑ノ土地歳入ノ惣高ヲ調査セシ者ニシテ各地主ノ歳入ニ及ハス故ニ政府カ行政區ニ配賦ヲ行フニ當リテ少シク不平均ナカラシムルニ過キサルノミ精分原簿ヲ製スル時ハ常ニ無用ノ者トナルナリ

佛國ニ於テ千七百九十一年ノ條例ヲ以テ初テ精分原簿ヲ製スルノ意ヲ示メシ千八百七年ノ條例ヲ以テ之ヲ實施スヘキヲ令シ千八百五十年ニ至リカンタル州ニ在テ成ルヲ告ケ初メテ其功ヲ終レリ其間實ニ四十三年ニシテ一億五千萬「フランク」ノ費用ヲ要セリト云フ何ヲ以テカ斯ノ如ク數十歳月ヲ要スル者ナルヤ

精分原簿ハ初メテ以太利ニ於テ行ハレミラン府ヲ以テ其最トス後チ佛國ニ入リ王政ノ時初メテモンタウバンノ州ニ行ハレタリ精分原簿ノ義解ハ左ニ如クモノナカルヘシ

精分原簿ハ耕地ノ類別、性質、價格、ノ明細帳ニシテ各地主ノ反別、耕植ノ種別、

若クハ天爲人造ノ區畫ニ至ルマテ其著シキ者ハ悉ク之ヲ記載スル者ナリ

右ノ義解ハ簡單ナリト雖説キ得テ盡セリト云フヘシ其帳簿ハ常ニ修正補綴シテ止ム時ナカルヘシ若シ之ヲ以テ地租ノ原簿トナシ地租ヲシテ常ニ歳入ニ比例セシメンヿヲ欲セハ左ノ二事ヲ守ラサルヘカラス第一常ニ土地ノ賣買讓與并ニ分割合併ニ注意スルヿ第二土地價格ノ變動若クハ歳入ノ增減ニ由リテ制定價格ヲ折衷スルヿ是ナリ然ルニ方今ニ至ル迄第一條ノ點ニ於テ僅カニ注意セシノミ第二點ニ至リテハ毫モ顧ミル處ナシ

斯ノ如ク地租原簿ハ土地ノ類別、性質、價格、ノ明細帳ナルヲ以テ廣狹區畫ノ測量(測量順序)ト生産力負擔力ノ調査(經濟財政ノ順序)ヲ經テ始テ成ル測量順序ニ由テ各部ノ測量圖ヲ製ス各部トハ天然ノ地形人造ノ區畫所有主ノ類別耕植ノ性質ニ由リテ別ツ所ノ土地ノ區分ヲ云フ而シテ後各部ノ地圖ヲ縮小シ各邑ノ全圖ヲ製ス其方法左ノ如シ

先ツ各邑ノ境界ヲ定メ(此事ハ容易ニナシ得ヘキ者トス)之ヲ小部ニ分チ三角分形ノ法ヲ施コシ然ル後每部ノ測量ヲナシ地圖ヲ製ス其事務ヲ任スル者ハ

直稅ノ官吏ト測量師ニアリ地主ハ其際ニ於テ事務ヲ討議斟酌スルヲ得ヘキ者トス右ノ測量地圖成ル時ハ一本ヲ製シテ各邑ニ備ヘ又各部ノ地圖ヲ縮小シテ一萬分一ノ全圖ヲ製シテ卷首ニ附シ其邑ノ疆界小部ノ區分道路山川森林ノ位置ヲ示メス然ル後其全圖ノ寫ヲ製シ州ノ知事及ヒ陸軍ノ編纂課ニ呈シ此ニ於テ測量順序全ク終ル

測量地圖成ル ノ後ハ地租ヲ賦課スルカ爲メニ歲入ヲ算定セサルヘカラス之ヲ如何セハ則チ可ナランカ佛國ノ制ニ從ヘハ各部ノ歲入ハ精密ニ計算スルヲ要セス各邑共ニ算定ノ原則ヲ同フスレハ足ル者トセリ各部ノ歲入ヲ算定スルニ當リ二割乃至五割ヲ減視スルノ意ヲ以テ之ヲ行ヒ敢テ非常ノ不便ヲ見サリシ所以ノ者ハ佛國ノ地租ハ配賦法ニシテ取分法ニアラサルニ由ル故ニ各部歲入ノ價格算定ノ事務ハ專ラ其邑內ノ地主ヲシテ之ヲ司トラシメ或ル事務ニ於テ他邑ノ地主ヲシテ共ニ事ヲ執ラシメタリ其方法左ノ如シ

歲入價格ヲ算定スルニ事務ヲ分ツテ三次トナシ次ヲ逐フテ之ヲ定ム即チ分級定級定格是ナリ

分級トハ不動產ノ良否ノ度ニ從ツテ數箇ノ種類ヲ分ツヲ云フ五名ノ地主ヲシテ其事ニ當ラシム其二名ハ他邑ノ地主ヲ以テ之ニ任スル者トシ邑會ノ議員之ヲ撰定ス階級ノ數ハ農地ハ五級ヨリ多カラス鄉村ノ邑ノ家屋ハ十級ヨリ多カラサル者トシ市府ノ邑ノ家屋ハ級ヲ分タスシテ各々別ニ價格ヲ定ム右ノ階級ヲ定ムルニハ先ツ最上等最下等ノ兩點ヲ定メ餘ハ之ニ準シテ級ヲ分ツ

第一次ニ於テ其大体ヲ立テ地主等ハ次テ各部ノ地ヲ以テ其階級ニ配賦ス之ヲ定級ト云フ右ノ順序ヲ經タル時價格ノ算定ヲナシテ土地ノ大小ニ從ヒ每級其純歲入ノ額ヲ定ム之ヲ決定スル者ハ邑會議員ニシテ地租ノ最大額ヲ拂フ所ノ地主ト相議シテ之ヲ決ス其地主ノ人員ハ議員ノ數ト均シフス右ノ定格ニ於テハ農地ノ性質ニ由リ各級ノ歲入ヲ決スルヲ以テ各種各級ノ價格ヲ定ムル時ハ各部法律上ノ純歲入ヲ知ルヲ得ヘク從ツテ邑ニ於ケル各地主ノ法律上ノ純歲入及ヒ全邑ノ土地ノ歲入ヲ知ルハ容易ナリ地主ノ階級ヲ定ムルニ不當ナリト考フル時地主ハ法廷ニ訴ヘ改正ヲ請求スルヲ得ヘシト雖分

級ト定格ニ至リテハ其不當ヲ訟フル所ナシ只行政府ヲシテ其不當ヲ悟ラシムルニアルノミ

斯ノ如ク各部歳入ノ價格ヲ定メ邑中ニ於テ同地主ニ屬スル者ハ地租原簿ノ同項ノ下ニ記載スルヲ法トス而シテ右ノ原簿ハ直税局ニ出シ一本ヲ邑廳ニ備フ

地租ヲ以テ邑ノ居民ニ配賦スルハ甚タ容易ナルヘシ若シ其邑ニ於テ出スヘキ總高幷ニ其土地ノ總歳入ヲ知レハ税額ヲ以テ歳入ニ配賦スルヲ以テ足レリトス例ヘハ其邑ニ於テ拂フヘキ地租ノ額ハ總歳入ニ比較シテ一割〇分五ナル時ハ地主ヲシテ各々其土地ノ歳入ノ一割〇分五ヲ拂ハシムルカ如シ地租ノ原簿ハ地主ノ變更アル毎ニ之ヲ修正スヘキ者トシ直税局ノ吏員(コントロールル)ヲシテ之ヲ司トラシム右ノ吏員ハ財産受渡ノ約定書地主ノ申告收税吏ノ扣帳ニ基キ之ヲ修正補綴ス又「コントロールル」ハ租税ノ配賦ヲ司トル吏員ト共ニ各邑ニ於テ土地變更ノ事ヲ檢察シ或ハ新築ノ建物ヲ調査シテ建築後三年ニ至レハ租税ヲ課スヘキカ故ニ其價格ヲ算定ス是等ノ事務取扱ノ順序ヲ書シテ直税局長ニ出シ直税局長ノ認可ヲ經テ然ル後地租原簿ニ之ヲ記載ス然ルニ同時ニ測量地圖ヲ改ムルヲ要セス之ヲ以テ一旦土地ノ形勢ヲ變更スル時ハ其地圖ハ實勢ヲ表セサル者トナル

余輩カ此ニ右ノ方法ヲ細述スル者ハ其方法ノ頗ル奇巧ナルカ如シト雖欠點ノ甚シキ者アルヲ以テナリ請フ之ヲ陳セン

右ノ方法ニ由リテ地租ヲ課スル時ハ邑ノ賦額ヲ以テ地主ニ配賦スルニ原簿調製ノ初メハ其當ヲ得ヘク敢テ不可ナルヿナシト雖租税ヲ以テ州ニ郡ニ邑ニ配賦スルニ至リテハ毫モ平均ヲ得ヘキ者ナシ如何トナレハ其價格ヲ定ムルヤ各地方ハ勿論隣地ト雖必スシモ同時ニ同吏員ノ算定セシ所ニアラサレハナリ只同吏員カ同一ノ思考ヲ以テ定メタル部分ノミ價格ノ比例ヲ同フセリト雖其他ハ各々相異ナリ甲地方ノ分級者定格者ハ乙地方ノ分級者定格者ト綴嚴其度ヲ均シフセス概シテ定級定格ノ際之ヲ緩ニシテ多クハ遥カニ眞實價格ノ下ニアラシムルノ傾向ヲ有セリ況ヤ原簿調製ハ實ニ千八百七年ニ始リ千八百五十年ニ至リテ漸ク成ルヲ告ケシ者ニシテ各地方同時ニ着手セ

サリシニ於テヲヤ

斯ノ如ク各區ノ地租原簿ハ互ニ其基礎ヲ同フセスシテ相比較スルヿヲ得ス加之ス方今ニ至リテハ一邑ノ中ニ於テ原簿ニ載スル所ハ其實ニ當ラス如何トナレハ土地ノ定級定格ヲナセシハ已ニ數十年ノ昔ニアリ而シテ爾來耕植ノ變更價格ノ變動各部區畫ノ伸縮アリト雖毫モ改正補修セサルヲ以テナリ」然ラハ則チ地租ノ不平均ナル所以ノ者二アリ第一初メ三次ノ配賦即チ州ニ分チ郡ニ分チ邑ニ分ツハ臆算ニアルヿ是ナリ如何トナレハ原簿ノ用ハ獨リ邑內ニ止マレハナリ第二邑內ニ於ケル各地主ノ配賦ハ原簿調製以來土地耕植ノ變化歲入ノ變動アリテ已ニ其當ヲ失ナヘルヿ是ナリ

右ノ欠點ハ實ニ小少ナラス政府モ亦之ヲ知リ種々ノ法ヲ以テ之ヲ救治センヿヲ力メ先ツ諸州ノ負擔最モ重キ者ハ其正稅ノ配賦高ヲ減セリ然ルニ政府ハ此減少ヲ施コスニ至リテ何等ノ主義ヲ以テセシヤヲ見ルニ只ニ推量若クハ諸地方ニ於ケル土地ノ貸借賣買ノ約束ヲ比較シテ重シト考ヘシマテノヿニシテ千八百二十一年ニ當リ五十二州ノ租稅ヲ輕減セシハ實ニ之ニ由ル

右ノ法ニ由リテ多少大不平均ヲ減セシニアラスト雖只ニ諸州間ノ不平均ヲ修正セシニ過キス故ニ諸郡邑ノ不平均ヲ改正セシムルカ爲メニ各州ノ議員ニ委スルニ修正ノ權ヲ以テシ郡邑ノ配賦高ヲ折衷シテ既往ノ過チヲ補正スルハ各州議員ノ權ニアリトセリ然ルニ議員ハ此權ヲ活用スルヿ甚タ稀ナリ」千八百五十年ノ條例ヲ以テ邑ノ原簿三十年前以上ノ調製ニ屬スル者ハ邑會議員ノ請求ト州會議員ノ承認ニ由リテ原簿改正ヲ行フヿヲ得ヘシ但シ其經費ハ必ス邑ノ自辨タルヘキ者トセリ

由是觀之ハ地租ノ不平均ヲ憂ヒ之ヲシテ土地ノ歲入ト比例ヲ得セシメンヿヲ計リ三條ノ方法ヲ施コセシヲ知ル即チ貧擔最モ重キ州ノ正稅ヲ減セシヿ各州ニ於テ州會議員ト郡會議員ノ意ヲ以テ諸邑ノ配賦高ヲ折衷スルヿ原簿調製ノ後三十年ヲ過クレハ分級定級定格ヲシテ現況ニ適セシムルカ爲メニ各邑限リ原簿改製ヲ行フヿヲ得ルヿ是ナリ

右ノ方法ハ以テ地租ノ不平均ヲ改正スルニ足ルカ或ハ之ヲ改正スルニ至ラサルモ將來ニ於テ其不平均ヲ大ニスルヲ防クニ足ルカ恐クハ未可ナリ先ツ

第一負擔最モ重キ州ノ正税ヲ減セシハ土地ノ歳入増加スルニ際シテ政府ノ財源ヲ削減スル者ナリ豈ニ大ニ誤ラスヤ誰カ今日ニ於テ政府ノ地租收入高ヲシテ革命政府ノ地租收入高ヨリ少ナカラシムヘシト云フ者アラン往年諸州ノ正税ヲ減セシニ當リテヤ宜シク同時ニ負擔ノ最輕ナル諸州ノ地租ヲ増課スヘキナリ然ルヲ政府ハ調査ノ精密ナルヲ得サルト人心ノ動搖セントヲ恐レテ遂ニ之ヲ舉行スル能ハサリシ州會議員ハ常ニ姑息ヲ事トシテ郡ノ配賦邑ノ配賦ヲ折衷セス邑會議員ハ因循ニシテ原簿ノ改正ヲ斷行セス是レ他ナシ之レヲ決行セントト欲スレハ紛議激論必ス四方ニ起リ容易ニ舉行スヘカラサルヲ知リ畏縮シテ徒ニ苟安ヲ偸ムノミ

斯ノ如キ形情ハ官民ノ爲メ兩ナカラ不幸ナリト云フヘシ中央政府ハ勿論諸邑モ亦巨額ノ地租ヲ收入スルヿヲ得ス而シテ某地方ニ於テハ地租ノ負擔非常ニ重ク不平均年ニ益甚タシ

中央政府ノ爲メニ巨額ノ收入ヲ得サルハ余畫略ホ已ニ之ヲ論セリ元來佛國ノ地租ハ不動産純歳入ノ五分ノ一ヲ徴收スル者ニシテ實際(副税ヲ合セテ)僅カニ其百分ノ九ヲ課ス若シ委員總會ノ意ヲ承テ税率ヲ改メント欲セハ平均地租ヲ一倍セサルヘカラス然ル時ハ嚴急ナルヘシト雖別ニ他ノ一税即チ門窓税ヲ設クルニ比スレハ却テ害ナカルヘシ(該税ハ委員總會カ計畫セシ法ニアラス後世ノ設置スル所ニシテ亦改正セサルヘカラサル者トス)若シ今千八百二十一年ニ於ケル地租ト純歳入ノ比例ヲ回復セント欲セハ正税副税共ニ凡ソ四割五分ヲ増加セサルヘカラス如何トナレハ千八百二十一年ニ於テハ地租正税副税ノ收入高ハ二億四千百萬「フランク」ニシテ純歳入僅カニ十五億八千萬「フランク」ト算セシヲ以テナリ當年ニ於ケル價格ノ算定ハ家屋ヲ算入スル時ハ其タ其實ニ及ハサルヘシト雖今暫ク之ニ據リ爾來土地ノ純歳入ハ凡ソ一倍ニ達セリトナスモ敢テ過チナカルヘシ殊ニ市地ノ發達ヲ考フル時ハ決シテ過算ニアラサルヘシ然ラハ則チ千八百二十一年ノ比例ニ從ヘハ方今ノ地租ハ正税副税ヲ合セテ四億八千二百萬「フランク」ヲ得ヘシ今日ノ收入高三億三千三百萬「フランク」ニ對シテハ一億五千萬「フランク」ヲ増加スルモノナリ

佛國ノ地租ハ(正稅副稅ヲ合セテ)平均一割二分ヲ課シ四億八千萬「フランク」ヲ徵收スル者トセハ純歲入ノ額ハ凡ソ四十億「フランク」トナルヘシ四億八千萬「フランク」ヲ徵收ストナスモ尙千八百七十五年ノ地租收入高ニ比スレハ一億四千七百萬「フランク」ヲ加フル者ナリ若シ其歲入四十億「フランク」ニ課スルニ一割ヲ以テセハ四億「フランク」ヲ得ヘクシテ三億三千三百萬「フランク」ニ對シテハ六千七百萬「フランク」ヲ增加スルモノナリ

現今地租ノ收入多カラサルヿ殊ニ配賦法ノ爲メニ其屈伸力ナキハ財政上一大不便ヲ生ス如何トナレハ政府ハ之カ爲メニ間稅ニ由テ收入ヲ大ニセンヿヲ力ムレハナリ然ラハ則チ寧ロ少シク地租ヲ增加シ土地賣買ノ稅ハ百「フランク」ニ付五「フランク」五十「サンチーム」ヲ止メテ百「フランク」ニ五十「サンチーム」トナサハ又善カラスヤ況ヤ土地賣買ノ稅ハ戰時ニアリテハ更ニ五分乃至一割ヲ加フルニ於テヲヤ

佛國現今ノ地租ト歲入ノ比例ヲ失ナヘルハ已ニ非常ノ度ニ達シ衆皆刮目シテ其改正ヲ待ツ今ヲ去ル凡ソ二十五年前即チ千八百五十一年ニ於テ政府カ調査セシ處ニ據レハ當年地租正稅ノ徵收高ハ平均純歲入ノ六分〇六ニ當ル然ルニ其配賦ノ不平均ナルヨリ諸州ノ間大ニ異同アリ其最モ重キ者ハ歲入ノ九分〇七ニシテ最モ輕キ者ハ三分〇七四ノ割合ナリ而シテ四十八州ハ正稅ノ負擔平均率即チ六分〇六以上ニアリテ三十七州ハ其以下ニアリ

然ルニ右ノ比例ハ特ニ各州ノ平均率ニシテ全州ノ負擔ヲ以テ其歲入ニ比較セシ者ニ過キス州ヨリ郡邑人民ニ配賦スルニ至ルマテニハ地租ノ不平均次第ニ甚タシク遂ニ云フヘカラサルノ結果ヲ致スヘシ

請フ今地租正稅ノ負擔最モ重フシテ歲入ノ九分〇七ニ達スル所ノ一州ノ形況ヲ論究セン抑一州ノ負擔ヲ以テ諸邑ニ配賦スル時ハ又必ス其平均ヲ得スシテ某邑ノ負擔ハ其歲入惣額ノ一割二分若クハ一割三分ニ達シ或ハ之ニ超ユルヿアルヘク次テ邑ニ於テ其負擔ヲ人民ニ配賦スルニ又不平均アルヘク其不平均ハ原簿ノ新古ニ由リテ大小アリ原簿ノ古キ者ハ不平均益甚シトス是故ニ一割二分若クハ一割三分ノ地租正稅ヲ拂フ所ノ邑ニ於テ原簿調製以來歲入ヲ減セシ所ノ地主ハ一割八分乃至二割ヲ拂フ者アルヘシ之ニ副稅ヲ

加レハ或ル場合ニ於テハ其負擔ヲ倍シ歳入ノ三割五分若クハ四割ヲ拂フ者アルヘシ余輩カ此ニ擧クル所ハ其極度ヲ云フ者ニシテ斯ノ如キ場合ハ甚タ稀ナルヘシト雖地租ノ正稅副稅ヲ合セテ土地若クハ家屋ノ歳入ノ二割或ハ二割五分ヲ拂フ所ノ地主ハ敢テ少ナカラサルヘシ

顧ミテ地租正稅トシテ平均其土地家屋ノ歳入ノ三分〇七四ヲ負擔スル所ノ一州ヲ見レハ諸邑ノ間ニ不平均アリテ地租正稅ノ負擔其全歳入ノ僅カニ二分若クハ二分五ヲ拂フ者アルヘシ次テ人民ニ配賦スルニ至リテ又不平均アルカ爲メニ原簿調製ノ後土地ノ耕植ヲ變シ其歳入ヲ增加セシ者ハ一分若クハ一分五ヲ拂フ者アルヘシ然ラハ則チ副稅アルカ爲メニ負擔之ニ倍スト見做スモ正稅副稅ヲ合セテ地租ヲ負擔スルヿ僅カニ歳入ノ二分若クハ三分ニ止マル者アルヘシ之ヲ他ノ三割五分乃至四割ヲ拂フ者ニ比スレハ其差モ亦甚シカラスヤ

斯ノ如キ場合ハ其極度ナルヲ以テ例外ト見做シ小事ハ措テ問ハサルノ格言ヲ守ル者地主ノ負擔正稅副稅ヲ合セテ其歳入ノ四分若クハ五分ヲ超エサル者ハ敢テ少ナカラサルヘシ然ルニ他ノ地方ニ於テハ已ニ論述セルカ如ク二割乃至三割ヲ拂フ者少ナカラス此大不平均アルヲ以テ事アルノ日ニ當リ政府ヲシテ全國ノ地租ヲ增加スルヿ能ハサラシム如何トナレハ僅カニ四分若クハ五分ノ增課ト雖平素二割三割ヲ負擔スル者ニ至リテハ其重キニ堪エサルヘケレハナリ假令ヒ政府ハ愼ンテ地租ノ正稅ヲ增加セスト雖現今ノ不平均ハ日ニ益甚シキヲ致ス如何トナレハ地方政府ニ於テ副稅ヲ增課スル每ニ某地主ノ負擔ハ常ニ隣人ニ加倍スル者アルヘケレハナリ

千八百七十六年三月二十六日下議院ノ會議ニ於テレオン、ゼー氏カ討論セシ地租原簿改正案ノ末ニ記載セル表ニ據リテ方今諸州ニ於ケル地租配賦ノ不平均ナルヲ見ルヘシ千八百七十四年地租正稅ノ平均率ハ純歳入ノ四分二四ニ當リ五十一州ノ配賦高ハ其平均率ニ超エ三十二州ハ其下ニアリ其中最モ重キ者ハ左ノ如シ

	純歳入ノ六分五一
タールン、エ、ガーロン	仝　六分〇九
ロゼール	

モールビアン	仝	六分〇六
カンタル	仝	五分九〇
ユール	仝	五分八五
ゼール	仝	五分七九
マンジ	仝	五分六四
アウド	仝	五分六二
アウト、アルプ	仝	五分五四
ロット	仝	五分四七
オルン	仝	五分四三
コートドル	仝	五分四三
ドルドンギュ	仝	五分三三
タールン	仝	五分三二
セーン、インフェリオル	仝	五分二九
バス、アルプ	仝	五分二七
カールヴハードス	仝	五分二六
コレーズ	仝	五分二〇
セーン、エ、マールン	仝	五分一八
サールト	仝	五分〇三

右ノ二十州ニ於テハ平均率四分二四ヲ超ルヿ頗ル著ルシ之ニ加フルニ副税ヲ以スル時ハ殆ト之ヲ倍スヘキカ故ニ被税者ハ國費地方費ヲ合セテ實ニ一割二分若クハ一割三分ヲ拂フヘシ然ルニゼールアウドロットコートドルドルドンギュタールン諸州ハ半ハ平原小丘ニシテ半ハ高山大嶽ナリ其山間地方ニ至リテハ地租原簿調製ノ後僅カニ少シク發達セシノミ之ニ反シテ平原小丘ハ變シテ富榮ナル葡萄園トナリ二三十年來大ニ其地方ノ富ヲ增加シ四倍若クハ五倍ニ達セシ者少ナカラス然ルニ州政府カ各邑ニ配賦スル所ノ租額ハ敢テ增減折衷セス之ヲ以テ例ヘハアウドノ如キ地租正税ノ負擔歳入ノ五分六二ニ達スル者ニ於テハ或ル山間地方ノ地主ハ正税一割一分若クハ一割二分ヲ拂ヒ副税ヲ加フレハ二割若クハ二割四分トナリナールホン近方

ノ平原ヲ有スル者ハ正税ノ負擔僅カニ二三分ニシテ副税ヲ加フルモ漸ク四分若クハ六分ヲ拂フ者アルヘシ斯ノ如キ州ノ政府ニ於テ正税ノ高ニ應シテ地租副税ヲ微課スル時ハ非常ノ不公平ヲ免レサル者ナリ如何トナレハ十「サンチーム」ノ副税ハ山間地方ニ於テ歳入百分ノ一若クハ千分ノ五ニ當ル時平原地方ニ於テハ其千分ノ一若クハ一萬分ノ五ニ過キサルヿアルヲ以テナリ然ル時ハ山間地方ノ地主ハ州費ヲ負擔スルヿ平原地方ノ地主ニ十倍スル者ト云ハサルヲ得ス

地租正税配賦高ノ平均率ニ及ハサル諸州ハ左ノ如シ

	純歳入ノ二分八二
アウト、ビレネー	仝 二分八三
バス、ピレネー	仝 三分〇五
セーン	仝 三分二〇
シエール	仝 三分二六
アン	仝 三分三〇
アールデシ	仝 三分二五
ヴオークルース	仝 三分三六
ヴハール	仝 三分三六
ブーシ、ヂユ、ローン	仝 三分三六
ヴオーズ	仝 三分三八
ニエーヴル	仝 三分五〇
アーレエー	仝 三分五三
アーレエーズ	仝 三分五五
ノルド	仝 三分五五
ハーデカレー	仝 三分五六
ルワール、インフェリオル	仝 三分五九
マールン	仝 三分六二
アールデン	仝 三分七〇
ローン	仝 三分七三
ゼーロンド	仝 三分七四

右二十州ノ中ニ於テハ最モ富裕ナル諸州ヲ包有シ巴里マルセーユリルナントレームリオンボルドーノ諸大府皆其州中ニアルヲ見ルヘシ

方今諸國皆租稅ヲ以テ歲入及ヒ財產ニ比例シテ不平均ナキノ制度ヲ設ケ消費品製造品ニ課スル所ノ租稅ノ負擔ヲ減セサルヘカラサルノ時ニアリテ斯ノ如ク不平均ノ稅法ヲ存シテ可ナランヤ佛國ニ於テハ宜シク地租ノ配賦法ヲ改メテ取分法トナシ不動產歲入ノ進步ニ從テ收入ヲ增加スヘキノ制ヲ設クヘシ其新法ノ大意ハ已ニ前章ニ論究セシカ如ク土地歲入價格ノ改定ハ年毎ニ之ヲナサス凡ソ十年ニ一回之ヲ修正シ排植ノ進步土地ノ開墾等ヨリ土地ノ歲入ヲ發達セシ者ハ直チニ租稅ヲ增課セス五六年ノ間ハ人民ヲシテ全利ヲ專ラニスルヲ得セシムルニアリ然ルニ原簿改正ノ費用事業ノ困難ヲ訴ル者アリ又定期ノ修正實功ナキヲ唱ル者アリ果シテ然ルヤ否ヤ請フ今ヨリ之ヲ論究セン

原簿新製ノ困難歲月費用ニ至リテハ敢テ憂フルニ足ラス新タニ地租原簿ヲ製ストハ云ヘ舊原簿ヲ離レテ悉ク之ヲ改製セスシテ可ナリ假令ヒ悉皆之ヲ改製ストナスモ今回ノ原簿調製ハ往時ニ比スレハ頗ル容易ナルヘシ如何トナレハ往年ノ經驗アリ測量家モ方今ハ其數餘リアリ且ツ技術ニ熟スルヿ往年ノ比ニアラス又舊製ノ原簿ニ據リ改メスシテ可ナル者頗ル多カルヘケレハナリ加フルニ租稅ヲ賦課スルニ當リテ舊製原簿ハ大ニ補益スル所アラン如何トナレハ理事者ハ舊例アルヲ以テ自ラ信スルヿ厚ク土地歲入ノ價格ヲ定ムルヿ亦速カナルヲ得ヘケレハナリ

抑地租原簿ハ國中土地ノ類別、性質、價格、ノ明細帳ナリ之ヲ製スルニ測量順序經濟財政ノ順序ヲ經サルヘカラストハ前章ニ說ク所ノ如シ

地租原簿ノ類別性質ノ部即チ測量順序ニ於テハ必スシモ悉ク改測ヲ要セス新築道路各部區畫ノ變更ヲ見テ之ヲ修正增補セハ可ナラン

測量順序ヲ分ツテ五次トナスハ吾人ノ共ニ知ル所ニシテ各區ノ疆界ヲ定メ之ヲ細分シ三角分形ヲ施コシ各部ノ測量ヲナシ各部ノ地圖ヲ製シ之ニ附スルニ邑ノ全圖ヲ以テシ道路山川森林ノ位置ヲ示スヿ是ナリ

第一次第二次ノ手續キハ往年ノ測量家カ非常ノ誤測ヲナセリト考フルニア

ラサレハ敢テ之ヲ再測セスシテ可ナリ三角分形ヲ施スニ至リテハ往年ノ遺跡又記錄等ノ存スルアルヘシ故ニ重ニ手ヲ下スヘキ者ハ各邑ニ於ケル新道開墾地ノ測量幷ニ製圖ニアリ

各部ノ測量製圖ト雖悉ク之ヲ再爲セスシテ可ナラン只新道ヲ開キ若クハ讓與買又耕植ノ變化ニ據リテ土地ヲ分割シ若クハ從前分離セシ土地ヲ合一セシカ爲メニ多少舊形ヲ變セシ者ヲノミ修正セハ可ナリ斯ノ如キ場合ハ頗ル多シト雖各地方皆然リト云ヘカラス市府ノ近傍或ハ大路ニ沿フテハ區畫ノ舊形ヲ變セシヿ最モ著シト雖曠漠タル農地ニ於テハ其區畫ヲ變セシ者甚タ稀ナリトス本書ノ論者モ亦相隔離セル諸州ニ土地ヲ有スルカ故ニ自ラ實驗スル所アリ敢テ疑フヘキ者ナシ其賣買讓與耕植ノ變化道路ノ開築等ノ爲メニ舊來區畫ヲ變動セサル者ハ從來ノ測量製圖ニ從ツテ敢テ改ムルヲ要セサルヘシ然トモ若シ往年ノ測量ヲ以テ誤テリト見做ス時ハ此限ニアラス例ヘハ地主自ラ其不當ヲ訴フルカ如キアラハ之ヲ改測スヘシ但シ斯ノ如キ場合ニ於テハ地主ヲシテ其經費ヲ自辨セシムルモ可ナリ

故ニ能ク之ヲ討究玩味セハ原簿改定ノ事業ハ世人カ考フルカ如ク難事ニアラサルヘシ決シテ之ヲ遂クルニ往時ノ如ク四十三年ノ長キ歲月ヲ要セス其經費モ亦一億五千萬乃至二億フランク」ノ多キヲ要セス其歲月ハ二三年經費ハ四千萬「フランク」平均一邑一千「フランク」ニシテ足ラン然ルニ其四千萬「フランク」ハ能ク用フル處ヲ得ル者ト云フヘシ且ツ賣買讓與ノ爲メニ區畫ヲ變セシ者ハ通例受取人ノ測量アリ彼レニ非常ノ嫌疑ナク舊原簿ニ照ラシテ大差ナキ時ハ其測量ニ據ルヲ得ヘシ故ニ區畫ノ變動近年ニアル者ハ經費ヲ減スルヿ益多カラン

次テ第二ノ順序ニ於テ各部ノ純歲入ヲ決定スルヲ論セン財政ノ點ニ於テハ之ヲ以テ最要ノ事業トス抑往年定格ノ法ハ甚タ其當ヲ失フ者ナリ如何トナレハ之ヲ行フニ全國一致ノ法ヲ以テセス分級定級定格ノ事務ヲ以テ舉テ地主若クハ邑會ノ議員ニ委シ其定格ハ一般ニ實際ノ價格ニ及ハサルヿ遠ク加フルニ其差ノ大小各地方ニ由テ大ニ異同アリシヲ以テナリ

是等ノ失錯ヲ修正スルハ却テ測量順序ニ於ケルヨリ簡易ナルヘシ政府ハ直

税局ノ「コントローラル」二人收税吏數人記錄局ノ吏員一人ヲ以テ政府ノ委員トシ副フルニ地方ノ吏員一二名ヲ以テセハ速カニ之ヲ辨スルニ足ン方今吏員カ新築家屋ノ價格ヲ定ムルヲ見ルニ頗ル其容易ナルヲ知ル

各部歲入ノ價格ヲ定ムルニ舊制ノ如ク之ヲ直接ニスルヲ止メ分級定級定格ノ三次序ヲ細分シ間接ニ同一ノ結果ヲ得ント欲セハ其容易ナル恐クハ之ニ過クル者ナカルヘシ例ヘハオーヂノ地方ニ於テハ秣草地ノ最上等ナル者ハ一「エクタール」能ク二百八十乃至三百二十「フランク」ノ純歲入ヲ得ヘク上等ハ二百二十乃至二百八十「フランク」次ハ百八十乃至二百二十「フランク」中等ハ凡ソ百八十「フランク」下等ハ百二十「フランク」最下等ハ六十乃至八十「フランク」ヲ得ヘキハ衆皆之ヲ知ル何レノ地方ニ於テモ農地ノ貸借賣買等ノ事ハ世ノ明カニ知ル所ナリ故ニ分級ノ事ハ二三時間ニシテ成スヲ得ヘク定格ノ事ト雖敢テ日月ヲ要セサルヘシ獨リ定級ノ事ニ至リテハ各部ヲ諸級ニ配賦スルカ爲メニ少シク時日ヲ要スヘシト雖之カ爲メニ特ニ審査官ヲ置テ事ニ參セシメハ數月ニシテ功ヲ奏スルヲ得ン

由是觀之ハ原簿ノ改製ハ至難ノ事業ト云フヘカラス又今後ノ改正ハ五年若クハ十年ニ一回之ヲ行ナハヽ遙カニ簡易ナルヘシ改正期限益短カケレハ其間土地ノ變更益少ナカルヘシ又將來ニ於テハ政府ニ於テ大ニ測量ノ勞ヲ減却スルヲ得ルノ路アリ例ヘハ賣買讓與ノ際從來ノ區畫ヲ分割スルヿアレハ其領收人ノ自費ヲ以テ其分割セル部分ヲ測量スヘキ者トナスカ如キ制ヲ設ケハ大ニ政府ノ勞ヲ省減スルヲ得ン

又原簿ヲ用ヒサルモ能ク土地變換ノ景況ニ注目セハ地租ノ平均ヲ失ハサルヿヲ得ヘシ元來土地ノ歲入若クハ價格ニ就テハ其實ヲ知ルニ足ル者アリ即チ土地ノ貸借賣買ノ約束遺傳分與ノ事是ナリ側國ニ於テ土地貸借ノ約束ヲナス時ハ必ス之ヲ記錄局ノ帳簿ニ記載スル者トナレリ勿論國中ニ貸借セサル所ノ地多カルヘシト雖數十年間ニ賣買讓與若クハ遺傳分與若クハ夫妻財産ノ持寄ノ爲メニ所有産ノ調算ヲナス等ノ事ナキ者ハ殆ト稀ナリ賣買地價若クハ遺傳分與又夫妻財産ノ持寄ノ際ニ定メタル地價ニ由リテ其歲入ヲ知ルハ難キニアラス然ルニ若シ其賣買分與若クハ夫妻財産ノ持寄等ノ數十

年ノ昔ニアリテ爾後景況ヲ變シ信ヲ置キ難キ者アラハ之ヲ調査シ其近傍ニ於ケル同格ナル不動產ノ歲入ニ比較シテ其平均歲入ヲ知ルハ容易ナルヘシ」此ニ論究スル所ヲ以テ之ヲ見レハ地租原簿ノ改正即チ其實ヲ云ヘハ地租ノ配賦法ヲ改メテ取分法トナスハ決シテ無窮ノ業ニアラサルナリ方今ノ勢副稅ノ增加ニ從ツテ地租ノ不平均益甚タシ早ク之カ計ヲナサヽレハ其不幸云フヘカラサルニ至ラン今之ヲ改メテ取分法トナス時ハ中央政府地方政府ヲシテ漸次ニ地租ノ收入ヲ增加シ不動產賣與讓與ノ稅酒類稅ノ類ハシキ者ノ如キ間稅ノ最害アル者ヲ減少シ若クハ廢棄スルヿヲモ得セシムヘシ

英國中央政府ノ地租ハ一定ノ額ヲ定ムト雖一大部分ハ人民ノ買フ所トナリ收入高甚タ少ナク僅カニ二千七百五十萬「フランク」ニ過キス然ルニ土地歲入ノ負擔ハ之ニ止マラス別ニ歲入稅アリ地方稅ノ土地ニ課スル者アリ地方ノ地租ハ頗ル多ク農地ノ負擔スル所ハ凡ソ二億三千三百五十萬「フランク」ニ達ス然レトモ英國ニ於テハ佛國ニ於ケルカ如ク中央政府ノ地租ニ比例シテ之ヲ課セス全ク其制ヲ異ニシ美ニシテ且ツ平カナリ其賦課ヲ定ムルハ地方官吏ニシテ定期ノ定格ニ基キテ之ヲ課ス故ニ取分ノ法ヲ行フ者ナリ然ルニ直稅ノ賦課ヲ以テ地方官吏ノ手ニ委スルニ至リテハ至良ノ法ト云ヒ難シ余輩ハ寧ロ中央政府ノ吏員ヲシテ之ヲ司トラシムルヲ良トス如何トナレハ中央政府ノ吏員ハ眼ヲ全体ニ注キ一方ニ偏スルノ患少ナク不公平ノ嫌多カラサルヲ以テナリ然レトモ是等ノ細目ハ今敢テ喋々之ヲ論スルニ足ラス余輩カ眼目トスル處ハ租稅ヲシテ取分法トスヘシ配賦法トナスヘカラスト云フニアリ

フヒスコーソハン、デル、ストレテン兩氏ノ卓絕ナル英國全島地方政治及ヒ租稅論六十八葉以下并ニ同書ノ二百六十七葉以下ニ於テ定期改正ニ次テスコツトランドニ原簿ノ改製ヲ令セル千八百五十四年ノ條例ヲ見ルヘシ

財政ニ老練ナル政治家オーヂフレー侯ハ地租ノ配賦法ヲ改メテ取分法トナスニ簡單ナル法ヲ論シ記錄局直稅局不動產書入質記錄ノ局ヲ合セテ一トナスヘシト云ヘリ斯ノ如クスル時ハ七地ノ財產ニ屬スル一切ノ記錄ヲ各州ノ一局ニ聚集スヘキヲ以テ究問探求ヲ待タスシテ土地ノ價格并ニ歲入ヲ知ル

ヲ得ヘシ

佛國ニ於テ原簿改製地租平均ノ議數々起リ國會ニ於テ之ヲ議シ或ハ少シク議決セシ者アリト雖常ニ鋭意斷行ノ精神ニ乏シク之ヲ擧行セスシテ止メリ千八百七十四年三月二十一日ノ條例ヲ以テ往年地租原簿調製ノ際荒蕪地ニシテ爾後耕地トナリシ者或ハ當時耕地ニシテ後其用ヲ轉セシ土地ノ價格ヲ再定スヘキヲ令セリ又千八百七十五年八月三日ノ條例ヲ以テ千八百七十六年ノ歳出入豫算ヲ發セシ第四條ヲ見ルニ云ヘルアリ千八百七十七年ノ會計豫算ニ際シテ中央政府ハ諸州ニ地租正税ヲ配賦スルヿニ付新法議案ヲ呈出スヘシト

大藏卿レオン、セ―氏ハ其條例ヲ奉シテ地租原簿及ヒ土地所有産ノヿニ付キ數條ノ計畫ヲナセリ然ルニ議論毫モ取分法ニ及ハス專ラ原簿改正ノ議ニ止マリ其眼目トスル處ハ建物ナキ土地ノ税ト建物アル土地ノ税ヲ分離セントスルニアリ(余輩ハ已ニ前章ニ於テ此二種ヲ分ツヘキヲ説ケリ尚詳ニ後篇ニ論スヘシ)之ニ從ツテ州會議員ニ委スルニ原簿改製ノ權ヲ以テシ其經費ヲ補

助センヿヲ欲セリ而シテ千八百七十四年ノ條例ヲ廢シテ原簿調製以後開墾セシ土地ノ價格再定ノ議ヲ止メンヿヲ請ヘリ

セ―氏ノ計畫ハ以テ地租改正ヲ行フニ足ラス只各州ニ於テ邑若クハ人民ニ配賦スル者ヲ修正シ少シク不平均ヲ減スルヲ得ルノミ眞ニ地租ノ不平均ヲ修正セント欲セハ全國同一ノ處分ヲ施コシ配賦法ヲ廢シテ取分法トナスニアリ且ツ其計畫ハ以テ國庫ノ財源ヲ增加スルニ足ラサルヘシ元來佛國ハ實任ヲ恐レ勤勞ヲ憚ルノ氣アリ故ニ斯ノ如キ大事ヲ企ツレハ則チ曰ク何ソ好ンテ被税者ノ心ヲ動カスヲ要センヤト之ヲ以テ數百年ノ間財源ヲ消費物ニ取リ其不便ヲシテ年ニ增加セシムルヲ致セリ

余輩ハ此篇ニ於テ終ニ默シテ過クル能ハサル者ハ某國ニ於テ人民ヲシテ地租ヲ買ハシムルヿ是ナリ或ハ云ハン地租ハ地主カ政府ニ拂フヘキ地代ナラハ何カ故ニ國計欠乏ノ際ニ當リ政府ハ之ヲ地主ニ賣ラサルノ理アラン之ヲ賣ルニ相當ノ價ヲ以テセハ賣手買手共ニ損失ナカルヘク地主ハ向後ノ負擔ヲ免レ政府ハ欠乏ヲ補フヲ得ヘシ然ラハ則チ是レ一種ノ國債ニシテ只政府

ハ現在ノ租稅ヲ廢棄スルニ止レリ又利子ヲ拂フヲ要セサルナリ豈善カラスヤト是レ古今ノ奇巧ナル財政家カ諸國ニ於テ唱フル所ノ者ナリ其言タル理アルカ如シト雖余輩ヲ以テ之ヲ見レハ大ニ不可ナリ若シ論者ノ言ノ如クナラシメント欲セハ政府ハ人力ノ及ハサル所ノ事ヲナシテ其誠實ナル確証ヲ示メシ人民ハ之ニ信依スルヿ赤子ノ父母ニ於ケルカ如クナラサルヘカラス政府ハ人民ニ地租ヲ賣リ日ナラスシテ復タ他ノ名稱ヲ以テ租稅ヲ課スルヿナキカ政府ハ果シテ能ク最モ昭明較著人ノ羨望スル所ノ富ノ一大部分ヲ措テ當ニ稅セサルヘキカ政府ハ能ク他ノ被稅者ノ要求ニ抗シテ常ニ地主ニ特權ヲ許スヲ得ヘキカ佛國ノ農民ハ恐クハ之ヲ知ラスシテ地租ヲ買フカ如キ者ニアラサルヘシ之ヲ買フモ決シテ其利ヲ期スヘカラス小心謹愼ナル者ハ必ス斷然之ヲ拒絕セン顧ミテ政府ヲ見ルニ之ニ由リテ巨額ノ收入ヲ得ルニ足ラス寧ロ國家ノ艱難ニ際シ非常ノ國費ヲ要スルニ當リテハ尋常ノ國債ヲ募集スルニ如クハナシ(國債ノ部ニ於テ詳論スルヲ見ルヘシ)之ヲ他ニ求ムルモ決シテ益ナキナリ

英國ニ於テ地租ノ拂下ヲ始メシハ實ニ第十八紀ノ終ニシテ延テ方今ニ及ヘリ該法タル千七百九十八年ピット氏ノ考案ニ出シ者ニシテ頗ル奇巧ナリト云フヘシ當時英國ノ永世据置公債証書大ニ其價ヲ失ヒ三分利ノ証書ハ額面ノ半價トナリ年利ノ十六七倍ノ價ヲ以テ賣價セラルピット氏以爲ラク方今土地賣買ノ價ハ其歲入ノ三十倍ニアリ地租ハ土地歲入ノ一小部分ニシテ且ツ先取ノ權ヲ有ス然ラハ則チ少ナクモ租額ノ二十倍若クハ二十五倍ヲ以テ賣買スルヲ得ヘシト然ルニピット氏ノ推理ハ未タ當然ナラサルナリ夫レ土地カ斯ノ如ク良價ヲ有スル所以ノ者ハ只ニ十全ノ歲入ヲ得ルカ爲メニアラス將來其歲入ト價格ヲ增加スルノ期望ヲ有スルニアリ地租ハ其安全ナルハ土地ヲ所有スルト異ナラスト雖價格ヲ增加スルノ期望ヲ持スルニ足ラサルヲ如何セン土地ノ歲入ト地租ノ別アルヿ斯ノ如シト雖ピット氏ノ計畫ハ理ナキニアラス其方法ヲ見ルニ氏ノ意ハ地租ヲ賣リテ三分利公債証書ノ年利高ノ差ヲ政府ニ利シ政府ノ歲出ヲ減セント欲スルニアリ故ニ人民ニ永世地租ヲ賣渡シ之ヲ拂フニ三分利ノ公債証書ヲ以テセシメ其比例ハ地租額十ニ

付証書ノ年利高十一トセリ是レ地租ノ賈價ヲ以テ租額ノ十九倍乃至二十倍トナス者ナリ之ニ由テ若シ果シテ十分ノ功ヲ奏スルヲ得ハ英國政府ノ利タルヤ敢テ疑ヲ容レサルヘシ如何トナレハ英國地租ノ額ハ五千萬「フランク」ナリシヲ以テ人民カ拂フ處ノ公債証書ノ年利高ハ五千五百萬「フランク」ニ當ル是レ政府ハ五千萬「フランク」ノ財源ヲ捨テ永世據置公債證書ノ利子五千五百萬「フランク」ヲ減スル者ナレハナリ加フルニ政府ハ此方法ヲ以テ一方ニハ三分利公債証書ノ需要ヲ起シ其價ヲ恢復センコヲ計リシ者ナリ

右ノ計畫ヲ以テ政府ノ目的ヲ達セシハ特ニ公債証書ノ爲貴ニアリ然リト雖是レ亦敢テ專ラ地租拂下ケノ效驗ト云フヲ得サルヘシ地租拂下ケノ法ハ七十餘年ノ間依然トシテ存セリト雖方今ニ至リテ拂下ケノ高ハ未タ地租ノ半額ニ達セス其間屢地租拂下ケノ細則ヲ變セリト雖常ニ之ヲ拂フニ三分利ノ公債証書ヲ以テシ其年利高ハ少シク租額ヨリ多カラシメタリ初メ其法ヲ設クルニ當リテヤ地租ヲ負擔スル所ノ地主ニアラサレハ之ヲ買フ能ハサル者トセリ然ルニ千八百三年以來ハ衆人皆之ヲ買フヲ許セシヲ以テ地租ノ買手

ハ永世先取ノ權ヲ有シタル地代ノ所有主トナレリ

該法新布ノ初年(千七百九十九年)人民カ地租ヲ買ヒシハ凡ソ其五分ノ一即チ地租ノ歳入高四十三萬五千八百八十八「ポンド」(凡ソ千百萬「フランク」)ニ達セリ然ルニ翌年即チ千八百年ニ於テハ僅ニ四萬四百十八「ポンド」(百一萬五百「フランク」)ニ過キス爾後英國政府ハ能ク信義ヲ守リ敢テ間接ニモ又一小部分ナリトモ既ニ賣拂ヒタル租稅ヲ再置セサルヿヲ示セリト雖之ヲ買フ者年ニ減少シ千八百六十八年度ノ終リニ於テハ千七百九十八年以後ノ拂下ケ高ヲ通計シテ僅カニ八十萬二千四百四十八「ポンド」(二千六萬「フランク」)ニシテ其代價トシテ納メタル公債証書ノ年利高ハ八十六萬七千百六十七「ポンド」(凡ソ二千百七十萬「フランク」)ナリ

歳入報告第二卷二百九十六葉二百九十七葉ヲ見ルヘシ

由是觀之ハ七十年間此法ヲ施コセシト雖尚地租總額(二百三萬七千六百二十七「ポンド」)ノ半額餘(百二十三萬五千百七十九「ポンド」)ヲ餘セリト云フヘシ英國政府カ之ニ由リテ利セシ所ノ者ハ地租ノ拂下ケ高ト其代價トシテ得タル所

ノ公債証書ノ年利高ノ差ニアリ地租ノ賣高二千六萬「フランク」公債證書ノ年利高二千百七十萬「フランク」ナルヲ以テ之ヲ見レハ政府ハ毎年凡ソ百六十萬「フランク」ノ歳出ヲ減セシ者ナリ

然ルニ一方ニ於テハ英國政府ハ之ヲ課スルニ至當ナル地租ヲ捨テヽ被課物ノ發達ニ從ヒ收入ヲ增加スヘキ一路ヲ失ナヘリト云フヘシ英國ノ例豈ニ倣フニ足ランヤ

埃及ニ於テハ「ムーカバラ」ト稱シテ之ニ均シキ法ヲ設ケリ埃及王ハ大ニ國庫ノ欠乏ヲ憂ヒテ地租ノ半ヲ賣リ之ニ拂ハシムルニ租額ノ十二倍ヲ以テシ地主ノ富ヲ奪フニ如カストナセリ若シ埃及政府ヲシテ誠實ニ之ヲ行ハシメ地租ヲ賣リテ一割二分ノ公債償却ニ用フルニ止マラシメハ敢テ尤ムヘキニアラス然ルニ埃及政府ハ内心他意ヲ包藏シ虚名ヲ以テ民財ヲ收歛シ「ムーカバラ」ノ期限終ル時ハ再ヒ異名同實ノ税ヲ課セント欲セシヤ疑ヲ容レサルナリ故ニ千八百七十五年及ヒ千八百七十六年ニ於テ財政改革ヲ行ハントセルヤ第一着手ハ地租拂下ケノ法ヲ停止スルニアリシ

政府ハ決シテ現存ノ地租ヲ廢スヘカラス又之ヲシテ土地ノ歳入ニ比例セシムルヿヲ怠ルヘカラス然ラサレハ只ニ國庫ノ利ヲ失フノミナラス國家ノ一大財源ヲ棄ルヲ以テ人心ヲシテ安ンセサラシムルモノアラン

第七篇

家屋税、門窓税、烟筒税等　動産税即チ家賃税

前篇ニ於テ余輩ハ殊更ニ意ヲ用ヒテ家屋ニ課スル所ノ租税ト純然タル地租ノ別ヲナセシ所以ノ者ハ二税ノ性質タル其負擔ノ歸スル所大ニ相異ナレハナリ佛國ニ於テハ行政上ノ便易ヲ計リ方今ニ至ル迄此二税ヲ合セテ概シテ地租ト稱スト雖毫モ相類スル所ナシ故ニ諸國ハ殆ト皆之ヲ分テ二項トナス」佛國地租正税ノ收入高ハ一億七千百五十萬「フランク」ニシテ農地ニ課スル所ノ者ハ一億二千二百五十萬「フランク」一切ノ建物ニ課スル所ノ者ハ四千九百萬「フランク」トス故ニ其四千九百萬「フランク」ハ常ニ之ヲ別視セサルヘカラス」世人或ハ云ン土地ニ課スル所ノ税ト建物ニ課スル所ノ税ヲ別視スルハ少ク故造ニ似タリ家主カ拂フ所ノ地租ト雖純ラ建物ノ負擔スル所トナラス其一部分ハ土地ノ負擔スル所トナルヘシ如何トナレハ土地ハ家屋アルカ爲メニ敢テ其價格ヲ失フニアラス大府ノ如キハ却テ巨大ノ價格ヲ有スル者ナレハナリト」

其言ヤ理アリ決シテ輕視スヘキニアラス然リト雖經濟上財政上ヨリシテ之ヲ見ル時ハ家屋ノ稅ト農地ノ稅トハ之ヲ別タサルヘカラス如何トナレハ二稅負擔ノ歸スル處ト其效驗トハ毫モ相同シカラサルヲ以テナリ

農地ニ課スル所ノ地租ハ全ク地主ノ負擔トナルヘク之ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルヲ得ス又農民ニ負擔セシムルヲ得ス若シ之ヲ以テ農民ニ負擔セシメ耕植ノ利減シテ國內普通ノ利益ニ及ハサルニ至レハ農業ニ從事スル者忽チ減スヘシ故ニ地主カ地租ヲ以テ農民ニ負擔セシムルヲ得ルモ只ニ一時ニ過キサルナリ消費者ニ至リテハ地租ノ增減甚タ大ニシテ耕地ヲ減スルカ若クハ農業資本ヲ增加シテ新地ノ開墾ヲ盛ニセシカ爲メニ農產品ノ供給ヲ變動スルニアラサレハ地租ノ增減敢テ其休戚ニ關セサルハ已ニ前篇ニ論究セシ所ナリ然ルニ地租增減ノ爲メニ斯ノ如キ效驗ヲ生スルハ特ニ開明國ニアルマシキ暴變急革ヲ行フ時ニアリ例ヘハ一朝地租ヲ增課シテ三倍四倍若クハ五倍トナリ多數ノ地主其地ノ耕植ヲ廢棄スルカ如キ是ナリ然ルニ斯ノ如キ際ト雖國ヲ開キテ外國農產品ノ輸入ヲ自由ニセハ農品ノ價ハ蓋シ敢テ變動セサルヘシ如何トナレハ內地ノ耕植ヲ減スト雖外品ヲ以テ國民ノ需要ニ供スルヲ得ヘケレハナリ地租ヲ減スルカ爲メニ農業ノ資本增加シテ新地ヲ開墾スルカ如キニ至リテハ只ニ假想ノ說ニ過キス假令ヒ地租ヲ全廢スルモ決シテ斯ノ如キ景況ヲ生セサルヘシ方今佛國ノ地租ハ配賦法ニシテ原簿調製以來土地ノ改良開墾等ニ用ヒラレタル資本ハ毫モ租稅ヲ負擔セサル者ナリ如何トナレハ地租ヲ以テ農地ニ配賦スルヤ原簿調製以來土地ノ價格ヲ增加セシ者アリト雖敢テ之ヲ問ハサレハナリ故ニ是等ノ土地ハ租稅ヲ全廢セシ者ト見做スモ敢テ不可ナル所ナカラン

由是觀之ハ非常ノ場合ニシテ租稅ノ增加甚シク地主ノ地代ヲ全沒スルカ若クハ農業ノ發達ヲ退歩セシムルカ如キニアラサレハ農地ニ課スル所ノ租稅ハ地主ノ負擔ニ歸スヘクシテ之ヲ以テ消費者ニ負ハシムルヿ能ハス又農民ニ擔ハシムルヿ能ハサルナリ

家屋稅ハ大ニ此ニ異ナリ其負擔ノ理モ亦斯ノ如ク簡單ナラス之ヲ負擔スル者ハ家主ナルヿアリ家屋ノ借主ナルヿアリ場合ニ由リテ之ヲ異ニスヘシ國

歩日ニ發達シテ人口增加シ營業繁榮シ人民ノ幸福增進シ新家屋ノ需要盛ナル時ハ家屋ノ稅ヲ負擔スル者ハ借主ニアルヘシ實ニ資本家カ家屋ノ建築ニ資本ヲ投スルハ諸營業ニ比較シ其安危及ヒ價格ノ增減ヲ考ヘテ少クモ此ト同一ノ利益ヲ得ルニアラサレハ新タニ家屋建物ニ資本ヲ入ルヽヲ欲セス故ニ家屋稅アレハ之ヲ以テ悉ク借主ニ負擔セシムルカ假令ヒ悉ク借主ニ負擔セシメサルモ他ノ營業ニ用フル所ノ資本カ負擔セサル者ハ以テ悉ク借主ニ負擔セシムルニアラサレハ決シテ家屋ヲ建築セサルヘシ

是故ニ世運隆盛ノ國營業繁榮人口增殖ノ市府ニ於テ家屋ニ課スル所ノ租稅ハ假令ヒ直ニ借主ノ負擔トナラサルモ歲月ヲ出スシテ遂ニハ借主ノ負擔スル所トナルヘシ借主カ實際家屋稅ヲ負擔スルハ租稅設置ノ後ニ建築スル所ノ家屋ニ係ル者ノミニアラス從前建築セシ家屋ニ係ル租稅モ亦均ク借主ノ負擔スル所トナルヘシ假令ヒ從前建築セシ家屋ト雖其便否美惡新築ノ家屋ニ異ナラサレハ敢テ家賃ヲ異ニスル者ニアラス夫レ家賃ハ家屋ノ良否ニ據リテ之ヲ決シ其品位價格相同ケレハ家賃ノ多少モ亦異同ナカルヘシ故ニ租稅設置後ニ建築セシ家屋ノ稅ハ借主ノ負擔トナリ其以前ニ建築セシ家屋ノ稅ハ家主自ラ之ヲ負擔スルカ如キ者ニアラサルナリ

國家ノ富人口營業依然トシテ增進セサルカ若クハ退歩スル者ハ新家屋ノ需要盛ナラスシテ家屋稅ヲ以テ借主ニ負擔セシムルヿ前章ニ說ク所ノ如クナラス假令ヒ家主ハ之ヲ以テ借主ニ負擔セシメント欲スルモ如何トモスルヿ能ハスシテ自ラ之ヲ負擔セサルヘカラス然レトモ數歲月ヲ經テ營屋破壞シ家屋ノ供給需要ニ應スルニ足ラスシテ新タニ家屋ノ建築ヲ要スルヿアレハ漸次該稅ヲ以テ借主ニ負擔セシムルヲ得ヘシ

由是觀之ハ家屋稅負擔ノ歸スル處ハ家屋ノ需要ト供給ノ形況ニ據リテ經スル者ナリ而シテ其需要ト供給ノ形況ハ全國一般ノ需要供給ニアラス各地方ノ需要供給ニアリ只ニ各地方ノ需要供給ニアラス一府一村內ノ需要供給ニアリ

是故ニ一定ノ規則ヲ定ムルヿ能ハスト雖概シテ家屋稅ハ借主ノ負擔ニ歸スルノ傾向アリト云フヲ得ヘシ實ニ國家ノ富人口營業依然トシテ進歩セサル

者ト雖舊家屋破壞シテ家屋ノ供給減スル時ハ往々新家屋ノ需要起ル然ルニ家屋ニ資本ヲ費ス者ハ相當ノ利益報酬ヲ得ルニアラサレハ新タニ家屋ヲ建築セサルヘシ故ニ曰ク家屋稅ハ概シテ借主ノ負擔トナルノ傾向アリト

或ハ家屋稅ヲ以テ家主若クハ地主ノ負擔スル所トナル者ナリトシ余輩ノ言ヲ駁スル者アラン其說ニ以爲ク若シ家屋稅ヲ課スルニ當リテ家屋建築地ノ價格ヲ減セサレハ其租稅ヲ以テ家屋ノ借主ニ負擔セシムルヿアラン然トモ凡ソ家屋ニ租稅ヲ課スル時ハ常ニ其地ノ價格ヲ低減シ新タニ家屋ヲ建築スル者ヲシテ從前ト均ク利益ヲ得セシムルニ足ラント曰ク然リ一朝家屋稅ノ增加甚シケレハ一時家屋建築地ノ價格ヲ減スヘク又多少家屋ノ新築ヲ減縮スルヿアルヘシ故ニ暫時ノ間ハ論者ノ云ルカ如キ效驗ナシト云ヒ難シ然ルニ繁榮ニシテ富人口營業日ニ發達增進スル所ノ地方ニ於テハ斯ノ如キ效驗ハ只ニ少時間ニ過キサルヘシ如何トナレハ家屋幷ニ土地ノ需要ハ其供給ニ超越シ到底借主カ其稅ヲ負擔セサルヘカラサルニ至ルヘケレハナリ

余輩ヲ以テ之ヲ見レハ家屋稅ハ一種ノ艮稅ト稱スヘシ佛國ノ如キハ一層該

稅ヲ擴張スルモ可ナリ元來家賃ハ最モ能ク人民ノ財產若クハ歲入ノ多少ヲ表スル者ナルカ故ニ家屋稅ハ間接ニ被稅者ノ財力ニ應シテ租稅ヲ課スルノ一法ト云ヘシ是故ニ大ニ消費稅ヲ減シテ之ニ代ルニ家屋稅ヲ以テセハ輕易ニシテ宜キヲ得ン英國及ヒ合衆國ノ如キ入市稅ヲ施サヽル國ニ於テハ家屋稅幷動產稅ノ徵賦頗ル重シ然リト雖消費稅ノ煩多ニシテ營業ヲ束縛シ交換ヲ牽制シ商賈ニ食品ノ僞造ヲ奬誘スルニ比スレハ遙ニ勝レリト云ヘシ

佛國家屋稅ノ賦課ハ區々ニシテ甚タ平均ナラス千八百三十五年ノ條例ヲ以テ州郡邑ノ配賦高ハ家屋ノ增減ニ從ツテ每年增減スヘキ者トナセリト雖該條例以前ノ建築ニ屬スル所ノ家屋ハ千八百二十一年ニ決定セシ正稅ノ配賦高ニ結算シ總テ一億五千四百萬フランクトナシ是等ノ舊家屋ハ其價格若クハ歲入ノ變動アルモ斷シテ價格ヲ改定セス故ニ當テ算定セシ原簿ノ歲入ハ中央政府州郡邑皆常ニ增減セサル者トス

千八百三十五年以後ノ新築ニ屬スル所ノ家屋ハ其建築成ルヤ否ヤ將來ニ得ヘキ歲入ノ價格ヲ算定シ建築後第三年ヨリ租稅ヲ課ス

革命政府ハ其第七年三月ノ條例ヲ以テ十年毎ニ建物アル土地ノ歳入價格ノ改定ヲナスヘシトセリ然ルニ政府ハ其事務ヲ挙テ地方ノ議員ニ委托セシヲ以テ實際之ヲ行ナヘル者甚タ稀ニシテ法律ハ遂ニ書餅ニ歸セリ然リト雖建物アル土地ノ所有主ハ其不動産ヲ破壞セシカ若クハ其歳入ヲ減スル時ハ勿論其所有不動産ノ負擔重キニ堪ヘサルヿヲ明証スレハ常ニ政府ニ請求シテ租額ヲ減スルヲ得タリ

斯ノ如ク法律上ニテハ建物アル土地ノ價格ハ建物ナキ土地ノ如ク邑ノ地租原簿ノ改製ヲ待テ始テ變更スルカ如ク一定セル者ニアラサルナリ

然ルニ右ノ法律ハ甚タ不完全ニシテ之ヲ適用セシヤ益不完全ヲ極メリ地方ノ議員ハ法律ニ從ツテ十年一回ノ歳入調査ヲ行ハス是カ爲メニ甚シキ不平均ヲ生スルニ至レリ例ヘハ千八百七十年ヨリ千八百七十五年ノ間ニ於テ人口繁殖營業發達シ繁榮ナル市街ニ建築セシ家屋ノ如キハ現今實際ノ歳入ニ從ツテ租税ヲ課シ之ニ反シテ四五十年前ニ建築セシ家屋ハ四五十年前ニ算定セシ歳入ニ由テ之ヲ課ス然ルニ實地ノ景況ヲ見ルニ舊屋ハ重ニ市街ノ中央或ハ市街ノ最モ繁盛ナル部分ニアルヲ以テ概シテ其價格ヲ增加セルヿ最モ大ナリト雖新家ハ多ク場末外郭ニアリ是ヲ以テ市府ノ家屋ニシテ最大ノ價格ヲ有スル者ハ新築ニシテ位置モ亦最上ナラス通例價格ノ及ハサル家屋ニ比スレハ却テ租税ノ負擔割合ニ輕シ只ニ割合ニ輕キノミナラス其税額實ニ此ヨリ少ナシ故ニ佛國ニ於テハ建物アル土地ニ課スル所ノ地租ノ不平均ハ建物ナキ土地ニ課スル者ヨリ甚シ

又一方ニ於テ收入ノ如何ヲ顧レハ佛國ノ家屋税ハ定期ノ改正ナキカ爲メニ其收入甚タ少ナシ千八百二十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄五十餘年ノ間建物ノ增加ニヨリテ地租ノ正税ヲ增加セシ者僅カニ千七百萬「フランク」ニ過キス若シ佛國ニ於テ五年ニ一回若クハ十年ニ一回家屋ノ歳入ノ價格ヲ改正シ舊家屋ノ歳入ノ發達ニ應シテ正税ヲ增加セシメハ其增加ハ必ス此小額ニ止マラサルヘシ

今此不幸ヲ治セントスルニハ家屋ノ税ト農地ノ税ヲ分離スルニ如クハナシ方今ハ建物アル土地ノ價格ヲ定メテ地租ヲ課スルニ分テ二部トナス一ハ一等

耕地ニ準シテ土地ノ價格ヲ定メ地面ニ課スル者一ハ其家賃ヨリ土地ノ價格ヲ減シタル者ヲ以テ建物ノ價格トナシ之ニ課スル者是ナリ而シテ建物ノ保存修繕費トシテ居住家屋ハ其家賃ノ四分ノ一ヲ減シ製造處ハ三分ノ一ヲ減ス

佛國政府ハ宜ク建物ナキ土地ニ課スル所ノ租稅ヲ以テ專ラ地租ト稱シ建物アル土地ニ課スル所ノ租稅ハ別ニ之ヲ家屋稅ト稱スヘシ而シテ配賦法ヲ改メテ取分法トシ土地貸借ノ記錄ニ據リテ五年ニ一回價格ノ改正ヲ行ハヽ事業ハ輕易ニシテ國家ノ收入ハ年ニ增加スルヲ得ヘク又之ヲ以テ消費稅ヲ減スルヲ得ヘキナリ

近年レオン、セー氏ハ議院ノ法案ニ於テ家屋稅ト地租ヲ分離センコヲ論セリト雖ヽ建物アル土地ノ價格ノ改定ニ及ハス尙配賦ノ法ニ由テ新築家屋ノ歲入ニ正稅トシテ五分ヲ課スルヲ以テ足レリトセリ氏ノ計畫ハ未タ完全ナリト云ヘカラス

佛國ノ地租正稅ノ收入高ハ一億七千百萬「フランク」ニシテ農地ノ徵收ニ屬スル者ハ凡ソ一億二千二百萬「フランク」ナルヲ以テ建物アル土地ニ課スル者ハ四千九百萬「フランク」ナリトハ已ニ陳述セシ所ニシテ吾人ノ知ル所ナリ千八百二十一年ニ於テハ建物ニ課スル租稅ノ收入高三千二百萬「フランク」アリ故ニ五十四年ノ間ニ於テ增加セシ者僅ニ千七百萬「フランク」即チ五割ノ增加ニシテ每年一分ノ增加ニ至ラサル者ト云ヘシ然ルニ實際此年間ニ於テ建物アル土地ノ歲入ヲ增加セシハ決シテ斯ノ如ク微少ナル者ニアラサルヤ明カナリ余輩ハ前篇ニ於テ英國ノ例ヲ擧ケ十一年間ニ歲入稅ノ微課原額ニ於テ家屋ヨリ得ル歲入ノ增加四割一分ニ達セリト云ヘリ其額ヲ見ルニ千八百六十二年ニ於テハ六千百九十二萬四千百七十八「ポンド」即チ十五億五千萬「フランク」ニシテ千八百七十二年ニハ八千七百七十二萬千「ポンド」即チ二十一億九千三百萬「フランク」ニ至レリ(千八百七十三年ノ統計年表十八葉ヲ見ルヘシ)由是觀之ハ佛國ニ於テハ千八百二十一年ヨリ千八百七十五年ニ至ル迄家屋ノ價格三倍若クハ四倍ニ達セリト云フモ妨ケナカルヘシ然ラハ則チ家屋稅ノ收入千八百二十一年ニ於テ三千二百萬「フランク」ナリシ者ハ今日一億乃至一億

二千萬「フランク」ヲ收入セサルヘカラサルナリ

佛國ニ於テハ國稅地方稅トシテ家屋ニ課スルニ其純歲入ノ一割五分ヲ以テシ七分ヲ國庫ニ收入シ八分ヲ諸邑ニ收入スルモ敢テ堪ヘ難キノ負擔ニアラサルヘシ佛國家屋ノ歲入ハ居住家屋製造處等一切ノ建物ヲ合シテ二十億「フランク」ニ下ラサルヘシ

本文ノ算定價格ハ遙カニ實際ノ高ニ及ハサルハ明カナリ千八百六十年巴里府ノ商法會議所ノ調査ニ據レハ巴里府ノ居住家屋ノ家賃ハ一ケ年三億「フランク」ヨリ少カラス商業工業ニ用フル家屋ノ家賃ハ一億七百萬「フランク」ナリト云フ(千八百七十五年十月三十日刊行ノ「レゼコノミスト、フランセー」ニ於ケルデフォウイル氏ノ稿ニ由ル)是ヲ以テ之ヲ見レハ巴里一府ノ家賃ニテ四億「フランク」以上ニ達スル者ナリ蓋シ殆ト五億「フランク」ニ達スト云フモ大過ナカルヘシ

千八百七十二年英國全島ニ於テ歲入稅ヲ課セシ所ノ家屋ノ歲入ハ凡ソ二十二億「フランク」ナリトス然ルニ右ノ額ニ漏ルヽ者甚タ多カルヘシ殊ニ小家屋

ヲ有シテ其歲入二千五百「フランク」ニ足ラサル者ハ歲入稅ヲ課セサルヲ以テ皆此ニ算入セス然リト雖小財產家ニシテ其歲入二千五百「フランク」ノ家賃ナル借家ヲ有スル者巨大ノ數ニアルハ昭明較著又爭フ能ハサルヘシ現ニアイヤランドノ如キハ千八百七十二年ニ於テ歲入稅ヲ拂ヒシ所ノ家賃ノ價格ハ實ニ一億「フランク」ニ達セサリシ(三百七十一萬五千六百九十一「ポンド」)

佛國家屋ノ家賃價格ヲ以テ二十億「フランク」ト推算スルモ少シク英國本部(スコットランド及アイヤランドヲ除キ)ノ歲入稅ヲ課セシ家屋ノ歲入(七千六百四十七萬五千百九十四「ポンド」即チ十九億千二百萬「フランク」)ニ過ルノミ若シ二十億「フランク」ノ家賃價格ニ課スルニ國稅トシテ七分地方稅トシテ八分ヲ以テセハ中央政府ハ一億四千萬「フランク」地方政府ハ一億六千萬「フランク」ヲ得ヘシ方今ニ於テハ建物アル土地ノ地租正稅ノ收入高ハ四千九百萬「フランク」門窓稅(後篇ニ評論スヘシ)四千萬「フランク」通計八千九百萬「フランク」ナルヲ以テ中央政府家屋稅ノ收入一億四千萬「フランク」ヲ得ル時ハ五千百萬「フランク」ヲ增加スル者ナリ地方政府ノ收入ハ八分ナルヲ以テ其得ル所益大ニ

少ナクモ八千萬「フランク」ノ增加ニ至ラン然ラハ則チ之ヲ以テ入市稅ノ殆ト五分ノ二ヲ減スルヲ得ヘシ

門窓副稅ノ地方稅收入高ハ千八百七十六年ニ於テ僅カニ二千三百萬「フランク」ナリ建物アル土地ノ副稅收入高ハ推算シ難シト雖多キモ五千五百萬「フランク」ニ達セサルヘシ

家賃價格ニ一割五分ノ稅ヲ課スルハ重キニ過クト云ヘカラス如何トナレハ營業繁榮ナル國ニ於テハ家屋ノ財產ノ價格歲入共ニ增加シテ常ニ止マス加フルニ家屋稅ヲ負擔スル者ハ通例早晩家屋ノ借主ニアリテ家主ハ只ニ收稅委員ノ職ヲナスニ過キサレハナリ況ヤ之ヲ以テ入市稅ヲ廢シ消費稅ヲ輕減スルヲ得ヘキニ於テヲヤ

斯ノ如ク家屋稅ヲ以テ取分法トナス時ハ政府ハ巨額ノ收入ヲ得ヘキノミナラス年ニ其收入ヲ增加スルヲ得ヘキノ利アリ如何トナレハ繁榮ノ國ニ於テハ家屋ノ數常ニ增加シ價格ノ增加ハ其數ヲ增加スルヨリ盛ナレハナリ千八百六十二年ヨリ千八百七十二年ニ至ル迄十一年間ニ英國ニ於テハ家屋ノ歲

入四割一分ヲ增加セリ試ニ平均五年間ニ一割五分ヲ增加スル者トセハ佛國ハ五年一期ノ改正每ニ家屋稅ノ收入中央政府ニ二千百萬「フランク」地方政府ニ二千四百萬「フランク」ヲ增加スルヲ得ヘシ

以太利ハ地租家屋稅ヲ別テ二項トナス千八百七十三年ノ會計豫算表ニ據レハ家屋稅ノ收入高凡ソ五千三百萬「フランク」ナリト云フ該國ノ人口ハ凡ソ佛國ノ七分ノ五ニアリト雖其富ハ遙カニ佛國人民ノ下ニアリ工業ノ盛ナル亦佛國ノ比ニアラス故ニ以太利ノ家屋ノ歲入價格ハ佛國ノ家屋ノ歲入價格ノ五分ノ二ニ過キスト云フヲ得ヘシ由是觀之ハ佛國ニ於テ家屋稅一億四千萬ヲ課スルモ敢テ重シト云ヘカラス

澳地利(シスライタニーヲ云フ)ノ家屋稅ハ千八百七十五年刊行ノモーリスブロック氏ノ統計年表ヲ見ルニ千八百七十四年ノ收入豫算高ハ二千百萬「フローリン」即チ五千二百五十萬「フランク」トストランスライタニーノ豫算高ハ七百五十六萬八千「フローリン」即チ殆ト千九百萬「フランク」アリト云フ故ニ澳地利全帝國ノ家屋稅收入高ハ七千百萬「フランク」ナリト云ヘシ之ニ反シテ佛國

ニ於テハ建物アル土地ノ地租正税門窓ニ課スル正税ヲ合セテ僅カニ八千九百萬「フランク」ニ過キス然ルニ墺地利ノ富ハ決シテ佛國ノ五分ノ三ニ過キサルヘシ然ラハ則チ佛國家屋税ノ負擔ノ割合ヲ以テ墺地利ニ均シカラシメント欲セハ凡ソ一億千八百萬「フランク」ヲ課セサルヘカラス是レ尚今日ノ家屋税門窓税ノ收入高ヨリ多キ一二千九百萬「フランク」ニ當ル

顧ミテ亞米利加合衆國ノ景況ヲ見レハ家屋税ノ收入ヲ得ヘキヲ知ルヘシ該國ニ於テハ直税ヲ以テ上下一般ノ人民ニ課シ佛國ニ於テ間税ヲ以テ得ル所ノ者ハ多ク直税ヲ以テス故ニ其效驗ハ家賃ノ騰貴トナレリ然ルニ家賃騰貴スト雖日用必需品ヲ低價ニ購ヒ得ハ却テ可ナルヘシ況ヤ純粹ノ食品ヲ得ルニ於テヲヤ

英國ノ外國駐劄公使領事カ各國勞力社會ノ形況并ニ各國貨幣ノ購買力ヲ探究セシ報告ヲ見ルニ大ニ余輩ヲシテ覺ル所アラシム請フ諸國ノ家屋税ニ關スル珍報ヲ擧ン其家屋税ハ佛國ニ於ル建物アル土地ノ地租ト同一ナル者ニ止ラス動産税ヲモ合ス者ニシテ市府ニ於テハ家賃ノ三割若クハ四割家屋賣

買價格ノ三分若クハ四分ヲ徵收スル者少カラスパクハロー府ニ於テハ賣價六千「フランク」ノ家屋ノ家賃ハ凡ソ六七百「フランク」ニシテ毎年直税二百「フランク」ヲ拂フ加之ス嘗テ府會ニ於テ市街ノ下水道ヲ建築セシニ當リ右ノ家屋カ分擔セシ費用ハ三百十「フランク」ニ至レリト云フ

斯ノ如ク重課セル租税ヲ負擔シ其償補ヲ得ルヿ甚タ難カラス英國領事ノ報告「ブハルザリポルツ、ブロム、ホル、マヂエスチース、ヂプロマチック、アンド、コンシユラル、エーヂエンツ、レスペクチング、ゼ、コンヂシヨン、オブ、ゼ、インダストリアル、クラセス、アンド、ゼ、ポル、チェース、パワル、オブ、モヂーイン、ブオーレン、カントリーズ」千八百七十一年ロンドン刊行)ヲ見ルニ合衆國工夫ノ住家ノ形況ヲ擧ケ漢望ニ堪ヘサルモノアリ該國ノ市街ハ多クハ周圍甚タ廣ク家屋多クハ小ニシテ二三階ニ過キサル者諸方ニ散在シパフハロー府ノ如キハ十二萬ノ人口ヲ以テ殆ト四十方英里ヲ擁ス即チ一方英里ニ三千八ニ過キスニエーオリエンスノ人口ハ二十五萬ニシテ三十六英方里ヲ擁シミスシスシツピー河岸ニ沿フテ十二英里ニ連ナルフヒラデルフヒヤ及ヒ

其他ノ市府皆其大小ヲ論セス市書廣フシテ居民散在スルヲ以テ工夫ノ爲メニ賃家借屋ヲ建ルニ甚タ便ナリ又地價ハ決シテ歐洲市街ノ如ク巨大ナラサルナリ之ヲ以テ勞力者ノ力アル者ハ一舍ヲ私有シテ獨リ家族ト共ニ住スル者少カラス是等ノ住家ハ皆客室アリ庖厨アリ其他二三ノ寢室アリ時トシテハ聊カ庭園ヲ有スル者アリ然ルニ是等ノ家賃ハ又決シテ小少ニアラスパフハロー府ニ於テハ是等ノ家賃ハ一ケ月十弗乃至十二弗即チ一ケ年六百「フランク」乃至七百二十「フランク」ナリガルヴェストンニ於テハ寢室二箇庖厨一ケ所付ニテ一ケ月二十弗即チ一ケ年千二百「フランク」寢室四箇ニ庖厨付ナレハ殆ト之ニ倍スメーン州ニ於テハ家賃少シク低ク一ケ年三百五十「フランク」ヨリ七百五十「フランク」ノ間ニアリ七百五十「フランク」ニ近キ者多シフヒラデルフヒヤニ於テハ最下ノ借家賃ニテモ一ケ年七百五十「フランク」ニシテ少シク綴カナル工夫ノ家賃ハ千「フランク」時トシテハ千「フランク」以上ニ達ス泥工ノ下働キ人足ニテ僅カニ一室ヲ借ル者ト雖其拂フ處ハ一ケ年五百「フランク」ヲ下ラス斯ノ如ク家賃ハ甚タ貴ク通例資本ノ

一割二分ニ當ルヲ以テ少シク貯財ヲ有スル者ハ一舍ヲ私有セハ甚タ利アリ合衆國ノ諸府ニテハ工夫ノ住居ニ適シタル家ハ通例賣價四千「フランク」乃至一萬「フランク」ノ間ニアリテ勞力者ノ有餘アル者ハ自己ノ家屋ヲ所有スル者少カラス(ポール、レルワ、ポリユー氏ノ千八百七十一年十二月一日刊行「レヴィユ、デ、デュー、モンド」ヲ見ルヘシ)由是觀之ハ合衆國ニ於テ家賃ノ貴キハ特ニ直稅ノ重キニ由ルニアラス一ハ金利ノ高キト勞銀ノ高キニアルヲ知ルヘシ尙茲ニ注意スヘキ者アリ合衆國ハ當時不交換紙幣ヲ發行シ千八百七十年千八百七十一年ノ際ニ於テハ二割乃至二割三分ノ下落アリ今茲ニ舉クル所ノ貨幣ノ數ハ皆其紙幣ノ價格トス假令ヒ是等ノ「アルニモセヨ家屋稅家賃稅ノ重キハ食品稅ノ重キニ比スレハ勞力社會ノ利タルハ斷シテ疑ハサル所ナリ

由是觀之ハ佛國ニ於テ國費地方費ヲ合セテ家屋稅トシテ家賃價格ノ一割五分ヲ徵收スルモ之ヲ以テ極度トセハ決シテ非理ノ收斂ト云ヘカラス加之スル余輩ハ又動產稅ヲ存シ大府ニ於テハ家屋稅ト同格ノ稅率ヲ課セント欲ス而

シテ後門窓税廢スヘク入市税止ムヘシ酒類ノ税ハ悉ク廢棄スル能ハサルモ葡萄酒林檎酒ノ税ハ廢スルヲ得ヘキナリ

租税ヲ課スルニ當リテハ諸國皆深ク慮ハカル所ナク微課ノ勞ヲ省クヲ主トスルカ爲メニ家屋税ノ如キモ家屋ノ價格若クハ歲入ニ課セスシテ門戸窓牖若クハ烟筒ニ課スル者アリ時トシテハ是等ノ税ヲ行ヒ家屋税ヲ課セサルモノアリ時トシテハ兩ナカラ之ヲ行フ者アリ佛國ノ如キ即チ是ナリ

或ハ云ン家屋ノ家賃價格ヲ知ルニ容易ナラサル時ハ政府ハ其實ニ近キ者ヲ取リテ斯ノ如キ方法ニ據ルモ敢テ不可ナルヿナカルヘシト元來門窓烟筒多キ家屋ハ價格貴重ニシテ家主ノ爲メニハ收入多ク又之ニ住スル人民ノ歲入多キヲ表スル者ナリト考フルノ理ナキニアラス然ルニ門窓烟筒ノ數ハ或ハ其實ヲ表スヘシト雖其實ニ適セサルヿ少カラス第一市外ニアル所ノ家屋ハ門窓烟筒ノ數ハ甚タ多カルヘシト雖市府ノ中央繁華ノ地ニアリテ門窓烟筒少キ者ノ價格ニ及ハサルヿアルヘク次テ卑賤ナル住居ト雖只ニ便利ノ爲メノミナラス衛生ノ爲メニ殆ト欠クヘカラサル所ノ門窓烟筒アルヘシ加之ス

一家屋ヲ分畫シテ室ヲ小ニシ其數ヲ多クスル時ハ價格ハ大ナラサルモ門窓烟筒ノ數ヲ要スルヿ却テ多カルヘシ

然ラハ則チ門窓烟筒ノ數ハ以テ家屋ノ實格ヲ表スルニ足ラサルナリ。又門窓烟筒ノ税ハ一他ノ不便アリ即チ世上ノ節儉家ヲシテ或ハ家屋ノ門窓烟筒ノ數ヲ減セシムルヿアルヘシ斯ノ如キヿハ勿論少カルヘシト雖必ス免レサル所ニシテ租税法ノ不當ナルカ爲メニ公衆ノ衛生ニ害ヲ生スル者ト云フヘキナリ加ルニ一方ヨリ之ヲ見レハ門窓税ハ空氣及ヒ光明ニ課スル者ト云フヘク烟筒税ハ火ニ課スル者トナスヘク頗ル人心ニ適セサル者ナリ若シ之ヲ以テ政府ヲ攻擊スル者アラハ大事トナラン此不便豈ニ少少ナランヤ

門窓税烟筒税ノ厭フヘキヤ如此シ我佛國ノ如キハ何ヲ以テカ門窓税ヲ行フヤ實ニ解スルヲ得ス之ヲ廢シテ家屋税ニ合シ其家賃若クハ賣價ニ應シテ專ラ家屋税ヲ行フハ敢テ難キニアラサルヘシ其家賃價格ニ從ンカ將タ賣買價格ニ從ンカニ至リテハ之ヲ斷スルヿ容易ナラス

英國ニ於テハウイリアム第三世ノ時ヨリ千八百五十一年ニ至ル迄門窓税ヲ

行ヒ賤舎農小屋ヲ除クノ外一切ノ家屋ニ各々二「シルリング」ヲ課セリ後増加シテ九窓以上ノ家屋ハ六「シルリング」十九窓以上ハ八「シルリング」トセリ而シテ窓ヲ數フルハ戸外ヨリシ官吏ハ敢テ屋内ニ入ラス英國ノ門窓税ハ斯ノ如キ方法ヲ以テ課セシ者ニシテ毫モ平等ナリト云ヘカラス

英國政府ハ數々之ヲ改正シ第十八紀ノ終リニ於テ二級ヲ改メ窓數ニ應シ分ツテ十四級トセリ

英國ノ門窓税ハ各家屋ニ二「シルリング」ヲ課シ窓數九箇ヨリ十九箇ヲ有スル所ノ者ハ六「シルリング」十九窓以上ハ八「シルリング」ヲ課セシヲ以テ實際三級トス然ルニ窓數ヲ算フルハ只二級ナリシヲ以テ英國人民ハ常ニ稱シテ二級ト云フ

右ノ改革ヲ論シテ國會議員ノ一人グレンヴィル氏ハ左ノ言ヲ發セリ

方今家屋ノ階級ハ只ニ二級ニ止ラス分テ十四級トセリ家屋ヲ所有スル者多クハ窓ヲ塞キテ下級ニ列センヿヲ欲ス如何トナレハ之ヲナス時ハ窓ニ屬スル費用ヲ減スルノミナラス他ニ得ル所甚タ大ナレハナリ

右ノ改革ニ據レハ二窓ヲ有セル家屋ニ二「ペンス」(二十「サンチーム」)ヲ課シ漸々増加シテ二十五窓ヲ有スル者ニ至リ二「シルリング」ヲ課セリ英國政府ハ此累進法ヲ以テ該税ヲ平等ニスルヲ得ヘシト信セリト雖大ニ誤レリト云ヘシ如何トナレハ二十五窓ヲ有スル所ノ家屋ニシテ數多ノ賤民ノ借屋タル者アルヘク必スシモ富民ノ住家タラサルヘケレハナリ

千八百五十一年ニ至リ英國ハ英明ノ見ヲ以テ斷然窓税ヲ廢シ之ニ更フルニ家屋税ヲ以テセリ

佛國ノ門窓税ハ革命ノ餘殃ナリ革命ノ時ニ當リ財政困難ヲ極メ國會議員ハ委員總會ニ於テ決定シタル合理ノ計畫ヲ遵守スルヿ能ハス第七年三月ノ條例ヲ以テ始メテ該税ヲ置テヨリ爾後數々徵課ノ方法ヲ改正セリ

佛國門窓税ハ凡テ住家製造所ノ道路庭園ニ臨ム所ノ入口窓口ニ課スヘキ者トシ内庭ヨリ内庭ニ通シ若クハ内庭ヨリ園圃ニ達スル所ノ内部ノ入口并ニ内部ニアル樓梯各室ノ入口ニハ之ヲ課セス公務ニ使用スル所ノ家屋ハ之ニ住スル吏員カ私用スル部分ノ外ハ租税ヲ課セス又農業ノ負擔ヲ重フセサル

カ爲メニ物置、羊舍、牛馬舍穴藏等居室ニアラサル者幷ニ屋上ノ窓ニハ一切租稅ヲ課セス然ルニ千八百三十二年四月二十一日ノ條例ヲ以テ屋上ノ窓ト雖居室ノ明リ取リトナル時ハ免稅ノ限リニアラストナセリ

議院ハ尙モ農工二業ノ利ヲ計リ一切農地ノ車門ハ其數ニ拘ハラス地所一箇每ニ一門ト見做シ人口五千以下ノ市邑ニ於テ商店ニ用ヒサル家屋ノ窓數五箇ニ過キサル者ノ車馬ノ入口ハ皆通常ノ入口トシテ之ヲ算シ製造處ニ於テハ製造家ノ居室及ヒ番人手代等ノ居室ノ窓ニアラサレハ租稅ヲ課セサルヘシトセリ

由是觀之ハ佛國ニ於テ門窓稅ヲ免ル者ハ甚タ少ナキヲ知ルヘシ元來佛國門窓稅ノ徵課法交、取分法トナリ配賦法トナリ一定セス方今ニ於テハ頗ル配賦法ノ性質ヲ負フト雖取分配賦混合ノ法ト云フヘキナリ

初メ門窓稅ヲ置クヤ取分法ヲ以テ之ヲ徵セリ然ルニ該稅ノ賦課ヲ以テ地方ニ委ヲ地方政府ハ大ニ其任ヲ怠リ徵收ノ事ヲ力メスシテ收入年ニ減セリ之ヲ以テ遂ニ中央政府ハ一定ノ稅額ヲ收入セントヽ欲シ革命ノ第十年八月十三日ノ條例ヲ以テ改メテ配賦法トナシ是ヨリ該稅ノ收入高ヲ一定シテ千八百三十一年ニ至レリ同年三月二十六日ノ條例ヲ以テ佛國政府ハ門窓稅ヲ以テ取分法ニ復セリ

抑租稅ノ配賦法ハ決シテ平等ナルヲ得ス又政府收入ノ增加ヲ妨クル者ニシテ良法タルヲ得ス故ニ千八百三十一年ノ條例ハ過ヲ改ムル者ト云フヘシ當年ノ改正ハ頗ル美果ヲ得テ急ニ政府ノ收入ヲ倍スルニ至レリ革命ノ第十年初メテ配賦法ヲ行フヤヨリ中央政府門窓稅ノ收入高ハ僅ニ千二百八十一「高二千八百四「フランク」ニ止レリト雖千八百三十一年ニハ急ニ增加シテ二千五百六十六萬七千三百三十六「フランク」トナレリ然ルニ稅率ニ至リテハ敢テ增加セシニアラス皆ニ依リテ之ヲ課セリト雖只州邑ノ惣額ヲ以テ之ヲ見ル時ハ某州ハ從前ノ三倍ヲ出シ某邑ハ從前ノ六倍ヲ拂ヒシヲ見ル之ヲ以テ苦情百方ニ起レリ當時政府新タニ定マリ根據未タ固カラス頗ル難ヲ忍フノ氣ニ乏シク遂ニ千八百三十二年四月二十一日ノ條例ヲ以テ門窓稅ノ法ヲ改メ尙分頭稅ニ於ケルカ如ク配賦法トナシ正稅ノ徵收高ヲ定メテ二千二百萬「フラ

ング」トセリ千八百三十七年ニ至ル迄右ノ徴收高ハ依然トシテ增減ナク此年ニ至リテ初メテ千八百三十五年八月十七日ノ條例ヲ實施シ爾後毎年ノ徴收高ヲ增加スルヲ得タリ該條例ニ據ル時ハ門窓稅ノ徴收高ハ毎年新築家屋ノ門窓ノ數ニ由テ增加スヘク又廢毀家屋ノ門窓ノ數ニ由テ減少スヘシ又千八百三十八年七月十四日ノ條例ヲ以テ千八百四十二年ノ國會ニ於テ門窓稅ノ配賦法ヲ再議シ爾後十年毎ニ國會ニ於テ其新策ヲ討議スヘシトセリ千八百四十四年ニ於テハ右ノ條例ヲ實踐セリト雖同年八月四日ノ條例ヲ以テ毎十年ノ改正ヲ止メ門窓稅ノ各州ニ配課スヘキ高ハ官ノ人口調査ニ由リ各邑ノ負擔スヘキ稅額增減ニ從テ常ニ增減スヘシトセリ(本文條例ノ詳カナルハヴイギユ氏「トレーテー」デザムポー」アンフランス」第一卷四十七八葉ヲ見ルヘシ)元來該稅ノ徴收ハ種々ノ事情ヲ斟酌シテ稅率ヲ定ムル者ニシテ就中各邑人口ノ多少ニ從フ者ナリ

斯ノ如ク各州ノ配課高ハ家屋ノ增減各邑人口ノ變動ニ由テ左右スル所ノ稅率ノ增減ニ由リ毎年多少アルヲ以テ門窓正稅ノ收入ハ地租ニ比スレハ屈伸力ヲ有シ年々增加スルヲ得ル者トス

千八百三十二年門窓正稅ノ收入高ハ二千二百萬「フランク」ナリシト雖千八百四十二年ニハ增シテ二千三百二十五萬千十二「フランク」トナリ千八百五十二年ニハ二千五百五十五萬九千四百八十一「フランク」千八百五十六年ニハ二千六百七十四萬九千五百十四「フランク」千八百六十年ニハ二千八百四十五萬千三百十三「フランク」千八百六十九年ニハ三千三百三十七萬八千八百七十二「フランク」トナレリ而シテ千八百七十五年ニハ二州ヲ失ナヘリト雖尙三千四百十五萬六千二十九「フランク」ニ達シ副稅ノ中央政府ニ收入セシ者ヲ合ス時ハ三千九百八十四萬二千「フランク」ニ上レリ千八百七十五年門窓副稅ノ總收入高ハ實ニ二千百六十五萬五千五百四十八「フランク」ナリ千八百七十六年ニ於テ正副稅ヲ合セテ中央政府ノ收入高四千三十萬「フランク」地方ノ收入凡ソ二千三百萬「フランク」ナルヲ以テ門窓稅收入高ハ國稅地方稅ヲ合セテ六千三百萬「フランク」ナリト云フヘシ

佛國ノ門窓稅ハ配賦法ナリト雖之ヲ徴收スルニ稅率アリ千八百三十二年ノ

條例ヲ以テ稅率ヲ分テ二部トセリ第一ハ門窓一箇ヨリ五箇ニ至ル迄ノ家屋ニ關スル者ニシテ該部ノ租稅微課法ハ左ノ如シ

邑ノ人口五千以下ニアル者ハ門窓一箇ニ付三十「サンチーム」ヲ課シ二箇ニ付四十五「サンチーム」三箇ニ付九十「サンチーム」四箇ニ一「フランク」六十「サンチーム」五箇ニ二「フランク」五十「サンチーム」ヲ課ス人口五千ヨリ一萬ニ至ル迄ノ邑ハ同數ノ門窓ニシテ課稅少シク多ク一萬ヨリ二萬五千二萬五千ヨリ五萬五萬ヨリ十萬ニ至ル迄ヲ分テ各々一級トシ一級ヲ上ル毎ニ次第ニ稅額ヲ增シ最後ニ十萬以上ノ人口ヲ有スル邑ヲ一級トシ稅額最モ重ク門窓一箇ニ付一「フランク」二箇ニ一「フランク」五十「サンチーム」三箇ニ四「フランク」五十「サンチーム」四箇ニ六「フランク」四十「サンチーム」五箇ニ八「フランク」五十「サンチーム」ヲ課ス

小家屋ニ課スル所ノ門窓稅ハ常ニ重カラスト雖副稅ヲ以テ之ヲ增加ス各邑人口ノ多寡ニ應シテ階級ヲ定ムルハ家屋ノ價格ハ人口ノ多少ニ由リテ異ナレハナリ而シテ其形ハ累進タリト雖實際累進稅ニアラサルナリ如何トナレハ五箇ノ門窓ヲ有スル家屋ハ一箇ノ門窓ヲ有スル所ノ者ニ比スレハ其價格五倍ニ過クレハナリ夫レ小家屋ノ列ニアリテ三四箇若クハ五箇ノ門窓ヲ有スル者ハ只ニ一箇ノ門窓ヲ有スル小舍ノ三四倍若クハ五倍ノ品位價格ヲ有スルハ衆ノ知ル處ナリ然ラハ則チ該稅ニ累進ノ形アル者ハ豈ニ當然ナラスヤ

第二部ハ五箇以上ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋トス右兩部ノ稅率ニ異ナル所ノ要領ハ第一部ハ累進ノ形ヲ有シ第二部ニ於テハ累進ノ形ナキヿ是ナリ五箇以上ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋ハ門窓ノ種類ヲ同フスル時ハ同一ノ稅額ヲ課シ門窓ノ數ヲ以テ家屋ノ階級ヲ分タス例ヘハ茲ニ門窓二十箇ヲ有スル家屋アリ其每箇ニ負擔スル所ノ額ハ門窓十箇ノ家屋カ每箇ニ負擔スル處ト毫釐ノ差ナシ然ルニ第一部ニ屬スル所ノ家屋ハ門窓五箇ヲ有スレハ殆ト門窓一箇ノ家屋ノ負擔ニ九倍セリ、

門窓ノ數五箇以上ノ家屋ニ於テハ門窓ノ階級ヲ分テ三トナス第一ヲ馬車荷車ノ入口及ヒ商店ノ入口トシ第二ヲ通常ノ入口幷ニ「レデショウゼー」(土地ニ

密接スル所ノ間「アントルソル」(重ニ初階ト「レデショウゼー」ノ間ニアル所ノ間ヲ云フ)及ヒ初階二階ノ窓口トシ第三ヲ三階以上ノ窓口トナス

右各級ノ税額ハ其家屋ノアル邑ノ人口ニ應シテ之ヲ異ニシ邑ハ又其人口ニ從ヒ分テ六級トス初級ヲ五千以下ノ人口ヲ有スル邑トナシ最後ノ級即チ税額最モ重キ者ヲ十萬以上ノ人口ヲ有スル市府トナス

馬車荷車ノ入口及ヒ商店ノ入口ニハ

初級	一フランク六〇サンチーム
二級	三フランク五〇サンチーム
三級	七フランク四〇サンチーム
四級	一一フランク二〇サンチーム
五級	一五フランク
六級	一八フランク八〇サンチーム

通常ノ入口幷ニ「レデショウゼー」「アントルソル」初階二階ノ窓ニハ

初級	六十サンチーム
二級	七五サンチーム
三級	九〇サンチーム
四級	一フランク二〇サンチーム
五級	一フランク五〇サンチーム
六級	一フランク八〇サンチーム

而シテ三階以上ノ窓口ニハ人口五千以下ノ邑ハ六十「サンチーム」五千以上ハ悉ク皆七十五「サンチーム」ヲ課ス然ルニ此ニ擧ル所ノ者ハ皆正税ノ額ニシテ副税ヲ加レハ殆ト之ニ倍スル者ト知ルヘシ

斯ノ如ク門窓税ハ邑ノ人口窓口ノ高低若クハ入口ノ種類ニ由リテ之ヲ賦課セシ者ニシテ不完全ノ甚キヲ見ルヘシ例ヘハ窓口大ニシテ其數少ナキ家屋ノ價格ハ窓口小ニ數多キ家屋ノ價格ヨリ大ナルヲ得ヘシ方今建築家カ巨館美屋ヲ建ルニ窓數ヲ減シテ之ヲ大ニセンヲ力ムルヿハ著キ者ナリ

大府ニ於テハ斯ノ如キヿノ爲メニ不平均ノ甚キヲ以テ中央政府ハ之ヲ避ント欲シ巴里「リオンボルドー」ノ三府ニハ特別ノ法ヲ設ケ門窓税配賦高ヲ分課

スルニ當リ家賃價格ト窓數ヲ相照シテ之ヲ定ムル者トセリ此ニ於テカ門窓稅ハ動產稅ノ附屬タル者ノ如シ

余輩ハ佛國ノ門窓稅ハ稅率ニ由テ之ヲ課シ而シテ配賦ノ法ヲ行フ者ナリト云ヘリ此二ノ者ハ其性質相容レサルカ如キヲ以テ解シ難キ者アラン請フ之ヲ說ン

州ニ配賦スル所ノ額ハ每年家屋ノ增減及ヒ諸邑ノ人口ノ變動ニ由テ左右スル所ノ稅率ノ變化ニ從テ增減セラル州會郡會ハ增減折衷ノ權ヲ有スル者ニシテ其郡ニ配賦シ邑ニ配賦スルニ各々又家屋ノ增減人口ノ變動ヲ揣酌スル者トス最後ニ人民ニ配賦スルハ配賦吏員ノ任ニシテ該吏員ハ「コントローラル」ト協議シテ每年被課物ノ變動ヲ調査ス各人一個ノ配賦高ヲ算定スルハ前記ノ稅率ニ從ヒ其邑ノ人口ノ割合ニヨルト雖之ヲ算集シテ其總額其邑ニ配賦セラレタル高ニ過不及アル時ハ各民ノ負擔スヘキ高ニ比例シテ徵收高ヲ增減スル者トス

已ニ前章ニ擧ケタル如ク佛國門窓稅ノ總收入高ハ千八百七十六年ニ於テ六千三百萬「フランク」ニシテ中央政府ニ收入セシヲ四千二十九萬八千「フランク」(正稅三千四百五十萬「フランク」副稅凡ソ六百萬「フランク」)トシ州邑ノ副稅ヲ以テ地方ニ收入セシヲ二千二百八十萬四千「フランク」トス千八百三十二年以後正稅ハ二千二百萬「フランク」ヨリ三千四百萬「フランク」トナリシ者ニシテ五割四分ノ增加ヲ致セシ者ナリ是ヲ以テ之ヲ見レハ門窓稅收入ノ增加ハ地租ニ比スレハ速カナリト云ヘシ

官ノ文書ニ據リテ被稅家屋門窓ノ數ヲ示スヿ左ノ如シ

	家屋	門窓
千八百二十二年	六、三四一、三七三	三四、一九一、八二一
千八百三十一年	六、六七七、一一一	三六、三四三、六二五
千八百三十六年	六、八〇五、四〇二	三七、二五三、八五九
千八百六十、六年	七、八一一、七四九	
千八百七十二年	七、七〇四、九一三	

千八百六十六年幷ニ千八百七十二年ニ於ル家屋ノ數ハ居住家屋ノミニ

シテ農工ノ業ニ用フル建物馬車置場商店工場ヲ除ク

表中千八百六十六年千八百七十二年ニ於テ門窓ノ數ヲ欠ク又千八百六十六年千八百七十二年ノ間ニ於テアルサースロレーン二州ヲ失ヒ佛國ノ人口ハ四分ヲ減セリト雖該表ニ由ル時ハ家屋ノ減少ハ十萬七千即チ一分三ニ過キス以テ開明社會ニ於テ居住ノ安寧康福日ニ上進發達シ家屋ノ數年ニ增加スルヲ見ルヘシ

近年ノ景況ヲ知ルニ由ナシト雖左ノ表ニ據リテ各級ノ家屋增減ノ景況ヲ見レハ一二箇ノ門窓ヲ有スル所ノ家屋ハ年ニ減シ三箇以上五箇ノ門窓ヲ有スル者ハ少シク增減シ上級ニ屬スル家屋ハ最モ增加ノ大ナルヲ証スルニ足ラン由是觀之ハ民富日ニ增加シ該稅ノ負擔重キニ過サレハ被稅者ヲシテ窓數ヲ減シテ清氣光明ヲ拒絕セシムルニ足ラサルヲ知ルヘシ

	千八百三十七年	千八百四十六年	增減
門窓一箇ノ家屋	三四六、四〇一	三一三、六九一	減 九分
門窓二箇ノ家屋	一、八一七、三二八	一、八〇五、四二二	減 〇分六
門窓三箇ノ家屋	一、三二〇、九三七	一、四三三、六四二	增 八分五
門窓四箇ノ家屋	八八四、〇六一	九九六、三四八	增 一割二分六
門窓五箇ノ家屋	五八三、〇二六	六九二、六八五	增 一割八分八
門窓六箇以上	一、八四六、三九八	二、二二〇、七五七	增 二割〇分二
總計	六、七九八、一五一	七、四六二、五四五	增 八分一

表中門窓一箇二箇ノ家屋ハ數ヲ減シ三箇四箇ノ家屋ハ增減セシト雖大ナラス最モ增加セシハ五箇以上ノ家屋ニアリ千八百四十七年以後佛國家屋ノ景況ハ駸々トシテ上進セシ者ノ如シ蓋シ當時佛國人民ノ居住セシ家屋ハ頗ル鄙賤ナル者ニシテ國中家屋ノ半ハ多キモ門窓三箇ニ過キス即チ一家二室ニ過キサリシ者ナリ然ルニ國民ノ半數ハ斯ノ如キ小舍茅屋ニ住セリト云フニアラス如何トナレハ高樓巨室ハ自ラ之ニ住スル者多ケレハナリ

千八百三十七年ノ調査ニ據レハ門窓ノ數三千六百九十八萬二百七十八箇ナリ之ヲ以テ家屋ノ數六百七十九萬八千百五十一ニ平均スレハ一家ニ門窓五箇半ノ割合トナル千八百四十六年ニハ門窓ノ數四千四百二十八萬三千三百

六十三箇ニシテ家屋ノ數七百四十六萬二千五百四十五ナリシヲ以テ平均一家ニ六箇ノ門窓ヲ有スル者トナル千八百六十年ニ於テ佛國門窓ノ數ヲ概算シテ五千萬ト稱セリ然レトモ其精確ナルヤ否ヤハ知ルニ由ナシ方今ニ於テハ門窓ノ數ハ凡ソ五千二三百萬箇ナリト云フモ決シテ過言ニアラサルヘシ然ラハ則チ千八百三十七年以後四割五分ノ增加ヲ致セシ者ナリ顧ミテ人口ノ增加ヲ見レハ同年間ニ僅カニ九分ノ增加ニ過キス

佛國ノ門窓稅ハ正稅副稅共ニ年ニ增加スルヲ以テ上下議院ニ於テハ數々該稅ノ負擔鄉村ニ重ク市府ニ輕キナカランヤヲ論セリト雖此論題タル遂ニ無益ナルカ如シ顧ミテ其稅率ヲ見レハ邑ノ人口ニ應シテ稅額ニ多少アリ家屋ノ大小ハ門窓ノ數ニ應シテ之カ階級ヲ定ムル者ニシテ二箇乃至四箇ノ門窓ヲ有スル家屋ハ鄉村ニ多ク市街ニ少ナシ然ラハ則チ鄉村ノ負擔ハ割合ニ輕シト云ヘシ又何ノ論カ之レアラン

其統計ハ昔シト雖千八百三十八年ノ財政要覽ヲ見ルニ門窓稅ノ配賦ニ關シテ精確ナル形況ヲ示ス

此緊要ナル問題ニ付テハ千八百三十八年以後ノ財政報告中ニ見ル所ナシ斯ノ如キ統計ハ少ナクモ十年毎ニハ之ヲ公發スルヲ要ス

千八百三十七年門窓稅ノ收入高ハ二千二百二十一萬五千百三十二「フランク」ニシテ其家屋ノ數ハ六百八十三萬二千四百九十七箇被稅者ノ數六百九十五萬三千四百十六人ナリ左ノ表ニ據リテ諸邑各級ノ負擔各家族ノ平均負擔ヲ見ルヘシ

人口五千以下ノ市府	人口五千以上一萬以下ノ市府	人口一萬以上二萬以下ノ市府	人口二萬以上五萬以下ノ市府	人口五萬以上十萬以下ノ市府	人口十萬以上ノ市府	巴黎
一四二五	一三五〇	一八三八	一七八四	一〇三〇	一〇七四	二三八〇

家屋ノ數	家族ノ數	平均 家屋ニ付	平均 家族ニ付	稅額
四五三	四九八	一〇五	一〇〇	八六〇
五四〇	五三〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇
四九八	八二八	一一	一〇〇	八〇〇
四五三	一〇〇四九	一〇五	一〇〇	八〇〇
六八三	六四〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇
六五三	六〇四	一〇〇	一〇〇	八〇〇
六八三	六四〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇
六九三	六四〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇
六八三	六四〇	一〇〇	一〇〇	八〇〇

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ鄉村ニ於テハ門窓稅ノ負擔甚タ輕ク居民一口ニ付正稅ノ負擔六十五サンチーム（副稅ハ國稅地方稅ヲ合セテ凡ソ一「フランク」ニ過キサルナリ

然ルニ該稅ノ賦課ハ甚タ宜キヲ得サル者ト云ヘシ已ニ論セシカ如ク家賃價格ハ決シテ門窓ノ多少ニ應スル者ニアラス却テ室ノ大小美惡精粗位置ノ良否ニ由リテ家賃價格ヲ異ニスヘシ又佛國ノ制人口五千以下ノ邑ハ其稅率ヲ同フスルヲ以テ鄉村ニ於ケル人口二三千ノ邑モ四千若クハ四千九百ノ人口ヲ有スル市街モ其窓數ヲ同フスル時ハ租稅ノ負擔ヲ異ニセス然ルニ四千若クハ四千九百ノ人口ナル市街ニ於テ門窓八九箇ヲ有スル所ノ家屋ハ其價格ノ大ナル鄉村ニ於テ同數ノ門窓ヲ有スル家屋ニ勝ルヤ明カナリ況ヤ其家屋市街ノ中央ニ位スル時ニ於テヲヤ然ラハ則チ假令ヒ負擔ニ大不平均ナケレハ足ルトナスモ二千乃至五千ノ人口ヲ以テ密接ニ建築セル所ノ家屋ハ別ニ分テ一級トナサヽルヘカラス

又門窓五箇ヨリ十箇ニ至ルマテノ家屋ヲ以テ別ニ一級トナスヘシ方今ノ法

律ハ五箇以上ノ門窓ヲ有スル者ハ概シテ一様ニ見做スト雖門窓ノ數五箇ヨリ十箇ニ至ル迄ノ家屋ハ價格ノ大ナル者ニアラス門窓十八箇ヲ有スル家屋ノ家賃ハ其數六箇ヲ有スル家屋ノ家賃ノ三倍ニ超ユルカ如シ故ニ該税累進ノ階級ヲ增加スルヲ良シトス然リト雖直チニ家賃ノ價格ニ應シテ租税ヲ課セハ容易ナルヘキニ何ヲ若ンテカ漠然タル家賃ノ標示ニ據ルヲ要センヤ元來政府ノ意ハ家屋ノ借主ヲシテ門窓税ヲ負擔セシメント欲スルモノニシテ家主ヲシテ該税ヲ納メシムルハ徵收ノ便ヲ計ルニ出ル者ナリ家主若クハ上借人等ハ家賃ヲ增シテ償ヲ家屋ノ借用者ニ取ル者トス家主カ少シク自ラ負擔スル所ノ門窓税ハ只特ニ共用ノ門窓ニアリ

門窓税ノ實際負擔ノ歸スル處ハ尙家屋税ニ於ケルカ如ク場合ニ應シテ之ヲ異ニスヘシ其負擔ハ通例家屋ノ借主ニ歸スヘシ即チ富人口營業日ニ發達進歩スル所ノ地方ニ於テ新家屋ノ需要盛ナレハ該税ヲ負擔スル者ハ家屋ノ借主ニアリ家主カ該税ノ全額若クハ其一部ヲ負擔セサルヘカラサルハ特ニ其地方ノ富衰ヘ人口減少スル時ニアリ斯ノ如キ場合ニ於テハ貸家ノ數需要ニ

超ユルヲ以テ時トシテハ政府カ租税ヲ增加スルニ當リテ家主ハ家賃ヲ減セサルヘカラサルヿアリ然リト雖斯ノ如キハ稀有ノ形情ニシテ且ツ暫時ノ間ニ過キサルモノナリ

凡ソ門窓税ハ決シテ平均ヲ得ルモノニアラス而シテ家屋税若クハ動産税ヲ復課スル者ト云フヘキナリ然ルニ家屋若クハ居住ニ租税ヲ課セント欲セハ家賃ニ基クニ如クハナシ家賃ハ之ヲ知ルニ易シ又曖昧タル標示ニ取ルヲ待タサルナリ是故ニ門窓税ヲ廢シテ家屋税若クハ動産税ニ加ヘテ其不足ヲ償ハヽ税法ノ一改良ト云ヘシ彼ノシャルワヤ氏カ以太利ノ大藏卿タルニ當リ國會ヲシテ門窓税ヲ廢セシメシハ實ニ卓見ト云ヘシ烟筒税ニ於ケルモ門窓税ヲ以テ此ニ論スル所ニ異ナルモノナシ

次テ余輩ハ直税ノ中ニ於テ最モ取ルヘキ一税ナル居住ノ家賃ニ課スル所ノ者即チ家賃税ヲ論セン佛國ニ於テ之ニ附スルニ動産税ノ名ヲ以テスルハ不當モ亦甚シト云ヘシ政府ハ一擧シテ平等ニ被税者ノ歳入ニ租税ヲ課スルヿ能ハサルニ當リ臆測ヲ以テ之ヲ賦課スルヲ欲セス去リトテ人民ノ申告ニ信

ヲ置ク能ハサレハ居住ノ家賃ニ應シテ租稅ヲ課スレハ最モ能ク其財力ニ比例スルヲ得ヘキモノトス如何トナレハ家賃ノ多少ハ最モ能ク財產若クハ歲入ノ多少ヲ表スル者ナレハナリ方今佛國ノ社會ハ居住ノ安息外見ノ驕侈ヲ飾ルヲ好ムノ風アリ故ニ財力アル者ハ必ス先ツ家屋ヲ壯大ニシ居室ヲ修飾スルヲ以テ常トナス

該稅ニ抗スル者ハ通例資本若クハ歲入ノ單稅論者ニシテ此輩ト雖一說ナキニアラス其言ニ曰ク衆人ノ中或ハ其嗜好若クハ家族ノ都合若クハ職業ノ性質ニヨリテ家賃ニ費ヤス所割合ニ多キ者アリ或ハ居住ノ臭陋ナルヲ厭ハサルカ若クハ飾儉ヲ力ムルヨリ歲入ノ一小部分ヲ以テ家賃ニ供スル者アリ然ラハ甲某ノ負擔ハ重キニ過キ乙某ハ殆ト租稅ヲ免ルノ效驗アラント

右ノ說ハ家賃稅ト雖到底平均ヲ得ヘカラサルモノニシテ財政ノ完全無缺ヲ望ム者ハ只ニ想像ニ過キサル者トナシ該稅ヲ擯斥シ得ルヲ說キ一見頗ル理アルカ如シト雖適切ナリト云ヒ難シ若シ家賃ニ由テ歲入ヲ推定スルニ實際被稅者ノ歲入ハ之ニ及ハサルヿアレハ彼ヲシテ其不當ヲ証明スルヲ得セン

ムヘシ何ノ不可ナルヿカ之レアラン醫師代言人ノ如キ職業ノ爲メニ割合ニ家賃ニ費ス所多キ者ハ幾許カ稅率ヲ減シテ之ヲ課スルヲ得ヘシ然ルニ一般ノ稅率ヲ輕フセハ斯ノ如キ輕減法ヲ行ハサルモ可ナルヘシ

月行キ星移ルニ從テ被稅者皆租稅ヲ顧ミテ各々居住ヲ定メ自カラ其費ス所ノ家賃ト得ル所ノ歲入ノ割合ハ政府カ定ムル所ノ割合ト均シキニ歸スヘシ只外飾ヲ事トスル者若クハ不注意ナル者ハ財力不相應ノ租稅ヲ拂フヿアルヘシ又客舍家アリテ非常ニ家賃ヲ節減シ租稅ノ一部分ヲ避ケンヿヲ力メハ政府ハ此輩ヲ如何トモスルヿ能ハサルヘシ然リト雖此事タル非常ノ場合ニシテ歲入稅ノ法ニ於テハ被稅者ノ申告ニ由ルモ政府ノ鑒定ニ由ルモ皆免レサル所ノ者ナリ如何トナレハ世ニハ數個ノ客舍家アリテ常ニ租稅ヲ避ンヿヲ計ルヲ以テナリ又如此ク居住ヲ節減シテ家賃稅ノ一部ヲ免ルモ早晩政府ノ徵收ヲ免レサルヘク又其家賃ニ於テ節減スル所ハ之ヲ貯蓄スヘキカ故ニ政府カ之ニ稅セサルハ貯蓄ヲ愛護奬勵スル者トモ云ヘシ加フルニ又遺傳稅ノ法アルヲ以テ是等ノ客舍家ノ歲入ハ年毎ニ一小部ヲ徵收セスト雖之ヲ貯

蓄シタル後其死スルノ日ニ於テ一時ニ之ヲ徵收スルノ實アリ然レトモ其割合ハ少ク輕カルヘシ假令ヒ是等ノ事アルモ實際ニ於テ政府ノ失フ所ハ甚タ小ナルヘシ

家賃稅ハ多數ノ家族ヲ有スル者ニ重ク少數ノ家族ヲ有スル者ニ輕シト云フニ至リテハ稍々力アルカ如シ然ルニ家族多キ者ハ政府ノ恩惠保護ヲ被ルヿハ自ラ多カルヘシ家族多キカ爲メニ租稅ノ負擔重キハ何ソ獨リ家賃稅ニ於ケルノミナラン百般ノ消費稅ニ於ケルモ亦均ク然リ只ニ一般ノ歲入稅若クハ資本稅ニ於テ云ヘカラサル者ト知ルヘシ或ハ云ン假令ヒ一市街中ニ於テモ只ニ居住ノ形狀ヲ節減スルノミナラス位置ヲ變ヘ若クハ屑ヲ更メハ敢テ衞生上ニ妨クルヿナクシテ數々家賃ヲ減シ從テ家賃稅ヲ減スルヿヲ得ヘシト曰ク然リ此ヿタル或ル場合ニ於テハ行フヲ得ヘシト雖之ヲ以テ一般ニ適用スヘカラス例ヘハ夥多ノ家族ヲ有スル者已ニ市街ノ最モ隘リタル場處ニ住シ最上階ノ室ニ居ル時ハ同地同屋ニ住シテ家族ノ少ナキカ爲メニ多數ノ居室ヲ要セサル者ニ比スレハ此輩ノ負擔ハ重カルヘシ然ラハ則チ之ヲ避ク

ルノ法如何曰ク何ソ家族ノ數ヲ計リテ稅率ヲ定メサルヤ凡ソ獨身妻ナキ者ノ家賃稅ハ家族ヲ有スル者ヨリ少ク重キモ可ナリ故ニ稅率ヲ定ムルニ幼兒ノ數ニ應シテ之ヲ減スヘシ例ヘハ妻ナキ者ニ家賃稅トシテ家賃ノ一割二分ヲ課セハ家族ヲ有スル者ニハ一割ヲ課シ而シテ幼兒ノ兩親ト住スル者アレハ一人每ニ一分ヲ減シ幼兒四人アリトスレハ四分ヲ減シテ家賃ノ六分ヲ課スルトセハ可ナラン之ヲ實行スルヿ敢テ難キニアラス又此輕減法ハ富民ニ施コサヽルモ可ナリ例ヘハ其土地ノ人口ニ應シテ千五百「フランク」若クハ三千「フランク」以上ノ家賃ハ更ニ輕減法ヲ行ハサル者トナスカ如シ

家賃稅ニ於ケル一他ノ利ハ該稅ハ概シテ自ラ永世ノ歲入ト一時ノ歲入ノ負擔ヲ區別スルニアリ元來租稅ハ國民ノ歲入ニ比例セサルヘカラスト雖一生ノ歲入若クハ一時ノ歲入ハ永世ノ歲入ニ比スレハ輕課セサルヘカラサル者ナリ然ルニ之ヲ實施スルニ至リテハ尙租稅ヲシテ偏重ナカラシメント欲スト一班ニシテ頗ル難シ家賃稅ニ至リテハ力メスシテ自ラ輕重宜キヲ得ルノ大利アリ實ニ職業勞力ヲ以テ一生若クハ一時ノ歲入ヲ有スル者ハ其家賃ニ

費ヤス所ノ歳入ノ部分ハ土地或ハ公債証書ノ如キ者ヲ有シテ永世ノ歳入ヲ有スル者カ家賃ニ費ス所ノ部分ヨリ小ナルヲ常トス例ヘハ甲某ハ毫モ資本ヲ有セス或ハ之レアルモ僅小ノ資本ニシテ勞働ヲ以テ毎年四萬「フランク」ヲ得乙某ハ財産家ニシテ坐ナカラ年ニ四萬「フランク」ヲ得ハ甲某カ居住ノ形狀ハ必ス乙某ニ及ハサルヘシ如何トナレハ甲某ハ貯蓄ヲ力メサルヘカラサルヿ乙某ヨリ大ナルヲ以テ歳入ノ一部ヲ貯蓄ニ宛ツレハナリ斯ノ如キ場合ニ於テハ甲乙共ニ四萬「フランク」ノ歳入ヲ有スト雖其歳入ノ性質ニヨリ家賃税ノ負擔ヲ異ニスヘシ若シ一生若クハ一時ノ歳入ヲ有シテ永世ノ歳入ヲ有スル所ノ隣人ト居住ノ形狀ヲ同フシ家賃ニ費スヿ異ナルナケレハ是レ輕浮ナリ淺慮ナリ何ノ功カ之レ有ラン負擔ノ重キヲ訴フヘキニアラサルナリ斯ノ如キ場合ニ於テ租税ノ重キハ一種ノ罰金ト稱スルモ可ナルヘシ

千七百九十一年ニ於テ委員憲會ノ行ヘルカ如ク家賃税ニ加フルニ馬車奴婢ノ如キ簡易ナル驕奢物ニ課スル所ノ租税ヲ以テスルモ可ナルヘシ(該税ノ得失ハ別ニ後篇ニ於テ論スル所アラン)トス該税ヲ以テ家賃税ニ附屬セシムル

ニ當リテハ奴婢ノ數車馬ノ數ニ應シテ家賃税率ヲ增加セハ可ナラン例ヘハ被税者カ車馬ヲ有スル時ハ家賃税率一割ヲ增シ奴僕一人毎ニ五分ヲ加フルカ如キ是ナリ然ルニ此法タル繁雜煩密ヲ免レサル者ニシテ余輩ハ進テ主張スル者ニアラス然リト雖歳入税甚タ重フシテ被税者ノ申告若クハ政府ノ査定ヲ以テスレハ臆測ノ弊アリ蔽匿ノ恐レアルニ當リ間税ヲ減セント欲セハ方今佛國社會ノ形況ニ於テハ是等ノ如キハ最モ能ク人民ノ歳入若クハ財産ヲ表スル者ナルカ故ニ驕奢物ノ税ヲ以テ家賃税ニ加フルモ敢テ不可ナルヿナカルヘシ

抑家賃税ハ上下ノ別ナク一般ニ之ヲ課シ税率ヲ平等ニスヘキヤ否ヤニ於テ世ノ論題ヲ免レス元來佛國ノ大府ニ於テハ小歳入ハ動産税ヲ免除スルノ習慣ニシテ巴里府ノ如キハ四百「フランク」以下ノ歳入ハ該税ヲ除ク者トス其説ニ曰ク小歳入ヲ有スル者ハ間税ノ負擔重シ故ニ之ヲ償補スル者ナリト其言實ニ理アリ然ルニ余以爲ラク家賃ニ課スル所ノ直税ハ之ヲ課スル簡ニシテ之ヲ徴收スルニ易シ故ニ舉テ之ヲ免除スルハ敢テ好ム所ニアラス寧ロ動産

稅即チ家賃稅ヲ課シテ間稅ノ最モ害多ク最モ重キ者即チ葡萄酒稅林檎酒稅麥酒稅ノ如キヲ廢スルニ如カス

家賃稅ヲ課スルハ必スシモ上下ノ稅率ヲ一ニセスシテ可ナリ家賃ノ等級ニ應シテ之ヲ課スルハ却テ當然ナルヘシ該稅ヲ課スルニ家屬ノ數ニ應シテ加減ヲ行フノ要用ナルハ既ニ前章ニ示スカ如シ或ハ云フ小歲入ヲ有スル者ハ家賃ノ爲メニ費ス所ノ者巨額ノ歲入ヲ有スル者ヨリ大ナルモノトス例ヘハ勞力者ノ家族アル者ハ一ケ年僅ニ千八百「フランク」ノ歲入ヲ有シテ三百「フランク」ヲ以テ家賃ニ宛テサルヘカラサル者少カラス然ルニ地主ノ一萬八千「フランク」ヲ有スル者ハ僅ニ千八百若クハ二千「フランク」ヲ以テ家賃ニ供シ一家三萬六千「フランク」ヲ有シテ三千若クハ四千「フランク」ヲ以テ家賃ニ費ス者アリト曰ク然リ其言ハ概シテ虛ナラス然ルニ之ヲ以テ百般ノ場合ニ言フヘカラサルモノアリ實ニ巨大ノ歲入ヲ有スル者ニ至リテハ家賃ニ費ス所ノ歲入ノ部分數々大ニシテハ中等ノ民時トシテハ下民カ費ス所ノ割合ニモ超ユルアリ即チ十五萬若クハ二十萬「フランク」ノ歲入ヲ有スル者ハ大都會殊ニ巴里府ニ於テハ通例四萬若クハ五萬「フランク」ノ家賃價格ヲ有スル所ノ巨館ニ住シ時トシテハ之ニ加フルニ四千若クハ五千「フランク」ノ家賃價格ナル村莊ヲ有スル者アリ元來巨大ノ歲入ヲ有スル者ハ其居ノ市府ト鄉村トヲ問ハス家賃ノ爲メニ歲入ノ五分ノ一四分ノ一甚キハ三分ノ一ヲ費ス者少カラス

方今ハ常居ノ家ヲ有シ別ニ村莊ヲ持スルノ風日ニ盛ニシテ八萬「フランク」以上ノ歲入ヲ有スル者皆多クハ別莊ヲ有シ其家賃ノ爲メニ費ス所ノ歲入ノ部分大ニシテ一萬五千「フランク」乃至三萬「フランク」ノ歲入ヲ有スル者ニ勝ル

斯ノ如キ景況アレハトテ巨額ノ歲入ヲ有スル者ニハ家賃稅率ヲ輕減スヘキノ理ナシト雖亦累進ヲ急ニシテ比例ヲ失ヒ實際歲入ノ大部分ヲ徵收スルカ如キニ至ルヘカラス若シ能ク其實況ヲ計リ累進ニ制限ヲ置カハ敢テ大害ナカルヘシ若シ之カ爲メニ大歲入ノ負擔ヲシテ割合ニ重カラシメハ是レ中等以下ノ歲入ハ間稅ノ負擔割合ニ重ク大歲入ノ負擔輕キカ爲メノ償補ト稱センノミ

由是觀之ハ家賃税ニ於テハ累進税ノ形ヲ用フルハ可ナリ然リト雖其要スル所ハ階級ヲ少フスル、ニアリ例ヘハ六百「フランク」以下ノ家賃ハ其六分ヲ課シ六百「フランク」ヨリ千二百「フランク」ニ至ル迄ハ八分千二百「フランク」ヨリ二千「フランク」ニ至ル迄ハ一割二千「フランク」以上ハ一割五分ヲ課スルカ如キ是ナリ二千「フランク」以上ニ至リテハ之ヲ累進スルニ至當ノ理ヲ見サルナリ如何トナレハ二千「フランク」以上ニ至リテハ家賃ニ宛ル所ノ歳入ノ部分減セスシテ却テ屢々増加スルヲ以テナリ

此ニ論スル所ヲ以テ之ヲ見レハ家賃税即チ佛國ニ於テ動産税ト稱スル所ノ者ハ佛國税中ノ最良ナル一税ト云ハサルヘカラス勿論之ヲ稱シテ完全ナリト云フヲ得スト雖該税ハ以テ大ニ歳入ノ多少否ナ國民ノ財力ニ比例スルヲ得ヘキ者ナリ臆測專斷ノ弊ヲ遊クル者ナリ又大ニ收入ヲ得ヘキ者ナリ余輩ハ前章ニ於テ已ニ佛國建物ノ家賃價格ヲ算定シテ凡ソ二十億「フランク」トセリ然ルニ製造所商店ノ家賃價格ヲ減除セサルヘカラサルヲ以テ之ヲ減スルモ居住家屋ノ家賃價格ハ十六億「フランク」ヲ下ラサルヘシ國税地方税ヲ合セテ之ニ課スルニ一割ヲ以テセハ一億六千萬「フランク」ヲ得ヘシ然ルニ方今ノ動産税收入高ハ分頭税ノ收入高ヲ除キ正税副税ヲ合セテ僅カニ凡ソ九千萬「フランク」ニ過キサルナリ

已ニ前章ニ論セシ如ク家屋税ハ正税副税ヲ合セテ一割五分ヲ課スレハ三億「フランク」ノ收入ヲ得ヘキナリ

本文ニ正副二税ヲ合セテ一割五分ヲ課スルト云フハ只平均税率ヲ云フノミ如何トナレハ副税ハ經費ノ多少ニ由テ各地方同一ナラサルハ自然ノ勢ナレハナリ

動産税ハ平均一割ヲ課シテ一億六千萬「フランク」ヲ得ヘシ然ラハ則チ家屋税家賃税ヲ合セテ四億六千萬「フランク」ヲ得ヘシ方今ノ地租ハ家屋ヨリ微收スル部分(正税副税ヲ合セテ)國税四千九百萬「フランク」アリ地方副税ノ額ハ之ニ倍ストナスモ佛國ノ地租ニシテ家屋ヨリ微收スル所ハ九千八百萬「フランク」ニ過キス又門窓税ハ國税地方税ノ收入ヲ合セテ六千三百萬「フランク」動産税ハ分頭税ノ收入高ヲ減シテ(正税副税ヲ合セ)九千萬「フランク」ヲ收入ス故ニ三

税ノ收入ヲ合セヲ二億五千百萬「フランク」ヲ得ヘシ然ルニ今余輩カ計畫スル所ニ從カヘハ四億六千萬「フランク」ヲ得ヘク即チ二億九百萬「フランク」ノ增加ニシテ方今市門税ノ收入高ニ超ユル者ナリ然ハ則チ若シ佛國ニ於テ分頭税ヲシテ勞銀ノ增加ニ應シテ税率ヲ增加セシメ且ツ少シク他ノ諸税ヲ改正セハ入市税及ヒ中央政府ノ葡萄酒税林檎酒税梨酒税ハ殆ト全廢スルヲ得ヘシ」或ハ云ン斯ノ如クスル時ハ家賃ノ負擔重キニ過キン如何トナレハ已ニ家屋税トシテ家賃ノ價格ニ一割五分ヲ課シ家主ヲシテ之ヲ拂ハシムルモ實際之ヲ拂フハ多クハ家屋ノ借主ニアリ而シテ又家賃税トシテ平均一割ヲ以テ直接ニ借主ニ課シ遂ニ借主ノ負擔ハ二割五分トナルヘケレハナリト曰ク然リ余輩モ亦敢テ重カラスト云フニアラスト雖重キニ過クト云ヘカラス其家賃税即チ動産税ト稱シテ直ニ借主ニ課スル所ノ者ハ下民ニ輕ク家族多キ者ニ減シ富民ニ至リテハ增シテ一割五分ヲ課スルヲ以テ家屋税ノ負擔ヲ加フレハ壯麗ナル居室ニ住スル者ハ、家賃價格ノ三割ヲ拂フニ至ルヘシ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ三割ノ負擔ハ敢テ堪ヘ難キノ負擔ニアラサルヘシ合衆國ノ諸州ノ如キハ之ニ超ユル者少ナカラス試ニ全國ノ人民カ家賃ニ給スル所ノ歲入ノ部分ハ全歲入ノ八分ノ一ニ居ルトセハ三割ノ家屋税家賃税ハ歲入ノ三分七五ニ過キス然ルニ實際ニ於テハ家賃ニ宛ル者多クハ皆歲入ノ八分ノ一ニ達セサルヲヤ余輩ハ佛國居住家屋ノ家賃價格ヲ製造所商店ノ家賃價格ヲ除キ算シテ十六億「フランク」ト稱セリ而シテ佛國人民歲入ノ全額ハ二百億「フランク」ニ過クルヲ以テ之ヲ見レハ佛國人民カ居住ノ家賃ニ費ス所ハ平均歲入ノ百分ノ八ニ過キサルナリ故ニ家屋税家賃税トシテ家賃價格ノ三割ヲ課スルモ平均僅ニ被税者歲入ノ二分四ニ過キス加フルニ家屋税ハ一割五分トナセリト雖家賃税ニ至リテハ平均僅ニ一割ニシテ一割五分ヲ課スルハ獨リ富民ニアルニ於テヲヤ

家屋家賃ノ二税ハ共ニ家賃價格ニ賦課スル者ニシテ前章ニ述ルカ如ク二税兩ツナカラ借主ノ負擔ニ歸スルヲ通規トナスト雖之ヲ徵收スルニ至リテハ明カニ之カ別ヲナシ相混セサルヲ要ス判然二税ノ別ヲナス時ハ一ハ家主ニ直課シテ間接ニ借主ニ負擔セシメ一ハ借主ニ直課スルヲ以テ收入ヲ得易ク

外形ニ於テ公平ナルカ如ク、人心ヲ激動スルヿ少カルヘシ一人ニシテ家主借主ヲ兼ヌル時例ヘハ都會ニ於テ貴重ナル巨館ヲ有シ自ラ之ニ住スル者ノ如キハ家屋稅家賃稅共ニ一身ニ集リ家賃價格ノ三割ヲ拂フヲ以テ負擔少シク重キノ思ヒアルヘシ即チ其價格五十萬「フランク」ノ巨館ヲ有シテ之ニ住スル者ハ家賃價格凡ソ二萬「フランク」(元來家賃ニ實際ノ家賃アリ金額上ノ家賃アリ實際ノ家賃ハ家屋ノ修繕保存費ヲ減スヘキカ故ニ金額上ノ家賃ニ比スレハ常ニ凡ソ五分ノ一ヲ減スル者トス故ニ五十萬「フランク」ノ家屋ノ家賃ハ凡ソ二萬「フランク」トナル)ナルヘキヲ以テ每年凡ソ六千「フランク」ノ租稅ヲ拂フヘク八十萬「フランク」ノ巨館ニシテ家賃價格三萬「フランク」若クハ三萬五千「フランク」ナル者ヲ有シ自ラ之ニ住スル者ハ每年九千「フランク」若クハ一萬五百「フランク」ノ租稅ヲ負擔スヘシ豈ニ重シト云ハサルヘケンヤ然ルニ若シ入市稅ヲ廢セハ決シテ堪ヘ難キノ稅ニアラサルヘシ

余輩ハ此ニ於テ將來ヲ計畫スルヲ止メ鋒ヲ轉シテ現今既往ノ制度ヲ講究セン佛國ノ動產稅ハ其實家賃稅ニシテ源ヲ革命政府ノ動產稅ニ發ス當時ノ動產稅ハ頗ル大ナル者ニテアリシ

彼ノ委員總會ハ初メテ適理公正ノ財政制度ヲ立テ後世ノ標準トナリ而シテ其制タル被稅者ヲシテ其負擔ヲ知ルニ容易ナラシムル者ト云ヘシ該總會ハ一切內地ノ消費稅ヲ廢シ記錄稅ノ外只直稅及ヒ輸入稅ヲ存セシノミ該制ヲ定ムルニ當リテヤ委員總會ハ特ニ强制若クハ臆測ノ性質アル者ヲ廢センヿヲ力メリ此事タル以テ當時ノ思想ヲ証明スル者ト云ヘシ嘗政法ニ於テハ人民ノ自由內政ノ獨立ヲ顧ミルヿ薄キヲ以テ委員總會ハ深ク其弊制ヲ矯正シ政府カ國民ノ私事ニ干涉スルノ害ヲ除キ零ロ直稅ノ配賦ニ於テ多少不平均アルモ一家一人ノ事ニ干涉シ若クハ牽制セサランヿヲ欲セリ之ヲ以テ國民ノ財產若クハ歲入ニ關シテ被稅者ノ申告若クハ政府ノ調査ニ由テ租稅ヲ徵課スルノ制ハ一切之ヲ廢セリ

委員總會ハ官吏人民ノ間ニ爭議ヲ生セスシテ國民ノ歲入ヲ推定センヿヲ欲シ其最モ實際ノ價格ヲ表スル者ヲ取リテ之カ標準トセリ

全國ノ不動產ハ其歲入ノ六分一ヲ徵收スヘキ者トナシ不動產ノ歲入ヲ算定

シテ十四億四千萬「フランク」トナシ二億四千萬「フランク」ヲ徴收セリ

千八百七十六年レオン、セーヌ氏ノ地租原簿ニ閲セル立案ニ據レハ千七百九十一年ニ算定セシ不動産ノ歳入ハ十四億四千萬「フランク」ニシテ之ニ課スルニ地租正税一割六分六六ヲ以テセリト諸ノ財政書中ニ見ルカ如ク二割ヲ以テセス其二割ニ達セシハ地方税トシテ課シタル副税五「スー」ヲ加フルニ由ル

動産ニ於テハ六千萬「フランク」ノ收入ヲ得ンヿヲ欲シテ頗ル綿密ナル動産税ノ法ヲ設置セリ上ニ擧クル所ノ二數ハ偏リ正税ニシテ地方費ノ爲メニ副税ヲ加フル時ハ之ヲ增加スル者ト知ルヘシ動産ニ課スルニ僅カニ六千萬「フランク」ヲ以テシ土地ニ二億四千萬「フランク」ヲ以テセシハ土地カ舊政ノ下ニアリテ負擔セシ所ノ租税ヲ免ルヘキヲ以テ斯ノ如ク兩財産價格ノ比例ヲ定メシニ外ナラス

委員總會ハ以爲ク動産ノ歳入ニ租税ヲ課スルハ家賃ノ多少ニ由ルニ如クハナシ其言ヤ當レリト云ヘシ衆皆常ニ以爲ク下民カ家賃ニ費ス所ノ割合ハ富民ヨリ大ナリト委員總會モ亦之ヲ以テ家賃ノ多少ニ應シテ歳入ノ價格ヲ推定シ動産歳入ノ負擔ヲシテ不平均ナカラシメンヿヲ計レリ其法タル百「フランク」ノ家賃ヲ拂フ者ハ其歳入之ニ倍スル者トシ百一「フランク」ヨリ五百「フランク」ニ至ル迄ノ家賃ハ之ニ三倍ノ歳入ヲ有スルヿヲ表シ五百一「フランク」ヨリ千「フランク」ニ至ル迄ハ四倍ノ歳入ヲ有スル者トシ家賃ノ多キニ從テ歳入ノ割合ヲ增シ一萬二千「フランク」以上ニ至リテハ非常ニ增加シ是等ノ家賃ヲ拂フ者ハ其十二倍ノ歳入ヲ有スル者トセリ

八十五年前ニアリテハ家賃ト歳入ノ比例ハ果シテ如此クナリシヤ其精確ナルヲ知ルヲ得スト雖方今ニ於テハ斯ノ如クナラス殊ニ巨大ノ家賃ト歳入ニ於テ最モ其比例ヲ得ス該税ハ家賃ノ大小ニ從テ税率ヲ異ニシ其大ナル者ニ多ク小ナル者ニ少ナキカ故ニ外形ニ於テハ累進税ナリ然ルニ其意タルヤ比例税ニシテ上下ノ歳入ヲシテ悉ク負擔ヲ均フセシメント欲スルニアリ只其階級ヲ定ムルニ當リテ家賃ト歳入ノ比例相適セスシテ最小最大ノ點ニ於テ甚タ其當ヲ失ヒ家賃ノ小ナル者ハ歳入ノ割合小ニ過キ家賃ノ大ナル者ハ歳

入ノ割合大ニ過キタリ

委員總會ニ於テ定メタル動産税ハ三種ノ税ヲ以テ成レリ第一「コートダビタシオン」ト稱シ右ニ述フル所ノ方法ニ從ヒ家賃ニ基キテ推定セル歳入ニ課スル者第二窮民ノ外一般ノ國民ニ課スル所ノ労力三日ノ價ニ均キ者第三僕婢ノ數ニ從テ課スル者私用馬ノ數ニ從テ課スル者是ナリ

右ノ動産税ハ頗ル奇巧ナル者ニシテ專ラ動産ノ歳入ニ課センカ爲メニ已ニ地租ヲ拂ヒシ者ハ家賃ニ由テ推定セシ歳入ヨリ其土地ノ歳入ヲ減除セリ例ヘハ甲某アリ其居住セル家屋ノ家賃ニ由リ歳入額二萬「フランク」ト定メ之ニ税スルニ當リ若シ某ハ已ニ一萬「フランク」ノ歳入ニ地租ヲ拂ヒシヿ明瞭ナレハ其額ヲ減シテ餘ノ一萬「フランク」ニノミ動産税ヲ拂ヒ税額ハ歳入ノ二十分ノ一トナス

斯ノ如ク動産税ノ法ハ奇巧ナリシト雖其功ヲ全フスルヲ得サリシ者ハ他ナシ階級ヲ定ムルニ歳入ト家賃ノ比例當然ナラス徵收法ハ配賦法ニシテ不便ヲ免レス又騷亂ノ時ニ際シテ政府ノ基礎數々動キ執事者事ニ習練セサルニ

當リテハ少シク該法ノ繞密ニ過キタルニ由ル

爾後動産税ノ制ハ數々變シ遂ニ其初メ制定セル家賃ノ多少及ヒ他ノ証表ニ據リテ推定セル動産ノ歳入ニ課スル所ノ租税タル性質ヲ失フニ至レリ

千七百九十一年始テ動産税ノ法ヲ定メ革命ノ第三年ニ至リ少シク改革ヲナシ僕婢税馬税ニ加フルニ烟筒税馬車税ヲ以テセリ然ルニ是等ノ驕奢税ハ收入甚タ少ナク最大收入額實ニ二百「フランク」ニ過キサリシ千八百六年四月二十四日ノ條例ヲ以テ是等ノ諸税ヲ廢シ獨リ分頭税(三日ノ労力及ヒ動産税家賃税)ヲ存セリ

革命ノ亂ニ當リ右ノ分頭税家賃税ハ動産税ノ一部分ニシテ國民ノ歳入ヲ强制スル者トナリ大ニ初年設置ノ意ニ背戻セリ

革命ノ第三年十一月七日ノ條例ヲ以テ分頭税ヲ增シテ五「フランク」トナシ第五年十一月十四日後ハ累進法ノ分頭税トナシ三十「スー」ヨリ百二十「フランク」ニ昇降シ各邑ノ審査員其階級ヲ定ムル者トセリ然ルニ第六年十二月二十六日ノ條例ヲ以テ再ヒ三日ノ労力ニ復シ一日労力ノ價五十「サンチーム」ヨリ少

ナカラス」「フランク」五十「サンチーム」ヨリ多カラサル者トセリ

第五年十一月十四日ノ條例ハ分頭税ヲ以テ累進法トナシ動産税配賦ノ權ヲ以テ一ニ各邑ノ審査員ニ委シ之ヲシテ各被税者カ負擔スヘキ額ヲ定メシメタリ故ニ各邑適宜ノ處分ヲナシ一定不動ノ基礎ナカリシ第七年四月三日ノ條例ヲ以テ凡ソ分頭税動産税ヲ配賦スルハ各邑ノ負擔額ヨリ分頭税ノ收入高ヲ減シ餘ヲ以テ動産税ニ課シ已ニ分頭税ヲ負擔セシ所ノ居民ノ家賃ニ也シテ配課スヘキ者トセリ該制タル委員總會ノ制ニ反シ家賃ノ多少ニ從テ歳入ヲ定ムル所ノ累進階級ヲ廢シ又被税者ノ歳入ヨリ地租ヲ負擔セシ部分ヲ減除セス故ニ當年ノ家賃税ハ委員總會ニ於テ設置セシ家賃税ノ如ク專ラ動産ノ歳入ニ税スル者ニアラサルナリ爾後佛國ノ動産税ハ第七年條例ノ趣意ヲ存シ或ル場合ニ於テハ今日小家賃ノ税ヲ免除シ中家賃ノ負擔ヲ輕減スル等ノ事アリト雖其大体ニ於テハ已ニ純然タル動産税ノ性質ヲ失ヘリ

是故ニ動産税ハ其初メ配賦法ニシテ其法タル頗ル不完全ノ制ト云フヘキナリ加フルニ配賦法ハ家賃税ニアリテハ其失益シ地租ニ於ケルヨリ甚シ如何

トナレハ家賃價格ノ動搖ハ土地ノ價格ヨリ甚シケレハナリ革命ノ時ニ當リテハ財政ノ改正急迫匆卒ニ出テ其配賦ヲナスヤ調査精密ナラス頗ル不平均ノ患ヲ免レス之ヲ以テ千八百二十年ニ於テ諸州ニ於ケル配賦高ノ不平均甚キ者ヲ改正セントヲ力メ同年七月二十三日ノ條例ヲ以テ全佛國居住家屋ノ家賃價格ヲ修正シ諸州ノ負擔ヲ平均スルノミナラス郡邑負擔ノ輕重ヲシテ大異同ナカラシメントヲ計レリ

右ノ改正ヲ以テ大ニ配賦法ノ過失ヲ示メセリ當年ノ調査ニヨレハ五十二州ハ負擔重キニ過キ三十四州ハ負擔輕フシテ僥倖ヲ得タルヲ證シ往々不平均ノ甚キ者アリ其營業盛ナル地方ニ於テハ人口ト富ノ發達頗ル盛ニシテ家屋ノ數大ニ增加セリ只ニ其數ヲ增加セシノミナラス其價格ノ增加ハ益々大ナリトス

デ、オック氏ハ佛國財政ノ形況ヲ論シ書中千八百五十六年ノ官報ニ就テ珍奇ナル統計表ヲ揭ケタリ(其第五表ヲ見ルヘシ)該表ニ由レハ千八百五十六年ニ於テ最貧ナル某々州ニ於ケル動産税ノ負擔ハ最富ナル某々州ノ負擔ニ倍ス

ルヲ見ルカンタル州ノ如キハ算定セラレタル家賃價格百六十一萬三千「フランク」ニシテ動產正稅(分頭稅ヲ除キ)十一萬三千「フランク」即チ七分ヲ拂ヒコレ一ヌ州ハ家賃價格百六十九萬三千「フランク」ニ動產正稅十萬「フランク」即チ六分ヲ拂ヒロゼール州ハ家賃價格ハ十一萬九千「フランク」ニ動產正稅四萬「フランク」即チ凡ソ五分ヲ拂ヒミコース州ハ家賃價格二百四十二萬八千「フランク」ニ動產正稅十五萬七千「フランク」即チ殆ト七分ヲ拂ヒタールン、エガローン州ハ家賃價格百九十五萬「フランク」ニ動產正稅十六萬「フランク」即チ八分ヲ拂ヘリ之ニ反シテローン州ハ家賃價格千六百三十一萬八千「フランク」ニシテ動產正稅分頭稅ハ常ニ除クモノト知ルヘシ僅ニ五十六萬三千「フランク」即チ三分五ヲ拂ヒアールデン州ハ家賃價格五百四十一萬七千「フランク」ニ動產正稅十三萬五千「フランク」即チ二分五ヲ拂ヘリ全佛國ニ於テ當年ノ動產正稅分頭稅ヲ除キ)ノ收入高ハ二千二百七十八萬八千「フランク」ニシテ家賃價格ノ總額五億千二百四十九萬四千「フランク」即チ平均四分四ノ微收ナリ當時家賃價格ノ算定高ハ遠カニ其實ニ達セサルヤ言ヲ待タス殊ニ人口繁殖セル諸州ヲ其シ

トス例ヘハノルド州ノ家賃價格ノ如キハ稱シテ僅ニ千八百萬「フランク」トセリ是レ則チアールデン州ノ家賃價格同表ニ於テ三百十一萬三千「フランク」トセリ)ノ六倍ニ過キサル者ト云ヘシ爾後營業ノ盛ナル地方ハ益發達シ山間地方ハ衰フルヲ以テ配賦ノ不平均益甚キハ敢テ疑ヲ容レサルナリ

千八百二十年ノ調査ニ於テハ毫モ改正ヲ行フテ該稅ノ不平均ヲ修正スルニ至ラスシテ止メリ當時該稅ヲ以テ取分法トナサンヿヲ論セシ者アリト雖之ヲ行フノ難ニアラス之ヲ施コサント欲セハ人心ヲ動搖センヿヲ憚リ遂ニ行ハスシテ止メリ千八百三十年ノ亂後專ラ該稅ノ改正ヲ計リ分頭稅動產稅ヲ分離シテ二ツトナシ分頭稅ヲ以テ取分法トシ動產稅ハ舊ニ依リテ配賦法トセリ蓋シ動產稅モ亦遂ニ取分法トナサント欲セシヤ疑ヲ容レサル所ナリト雖分頭稅ヲ以テ取分法トナシ之カ爲メニ政府ノ收入ヲ增加シ怨言四方ニ起リ議院ハ勇氣甚タ乏シク改革ヲ斷行シテ動產稅ヲ以テ取分法トナス能ハサリシノミナラス改革ヲ中止シ千八百三十二年再ヒ分頭稅ヲ配賦法ニ復シ分頭動產ノ二稅ヲ合セテ一トセリ同時ニ又負擔最モ重キ五十二州ノ微收額三

百萬「フランク」ヲ減セリ

同年即チ千八百三十二年ニ於テ佛國ノ議院ハ二稅ノ配賦ヲシテ輕重ナカラシメンヿヲ欲シ只ニ三百萬「フランク」ノ減稅ヲナセシノミナラス尙左ノ法ヲ以テ諸州ノ配賦高ヲ增減セリ

千八百三十二年ノ條例ニ據レハ分頭動產二稅ノ總配賦高ヲ三分シ一分ハ千八百三十一年分頭稅ノ取分法タリシニ當リ收入セシ所ノ分頭稅ノ收入高ニ應シテ各州ニ配賦シ一分ハ千八百三十年ノ動產稅配賦高ニ從テ各州ニ配賦シ一分ハ政府ニ於テ調査セル居住家屋ノ家賃價格ニ應シテ配賦スヘシトナセリ

斯ノ如ク稍々配賦高ノ不平均ヲ修正セリト雖政府ノ爲メニハ毫モ收入ヲ增加スルニ足ラス却テ三百萬「フランク」ヲ減セリ勿論議院ハ斯ノ如ク有名無實ニシテ且ツ國庫ニ利ナキ改革ヲ行フヿハ其意ニアラサルナリ千八百三十二年四月二十一日ノ條例第三十一條ヲ以テ千八百三十四年ノ國會開議ニ於テ之ヲ議シ爾後五ヶ年每ニ分頭動產稅配賦ノ新案ヲ議スヘシ直稅局ノ吏員ハ

被稅者ノ數居住家屋家賃ノ額ニ關シテ調査報告ヲナスヘキ者トセリ

然ルニ千八百三十八年ノ條例ヲ以テ千八百四十二年ノ國會ニ於テ配賦ノ新案ヲ討議シ爾後十年每ニ之ヲ議スヘシトナシ本條ハ遂ニ之ヲ實行セサリキ千八百三十八年ノ條例ヲ見ルニ定期ノ改正ヲ廢セサリシト雖其期年ヲ伸張セシヲ見ルヘシ凡ソ政府タル者財政ノ改革ヲナスニ當リ斯ノ如ク斷行ノ氣ニ乏シケレハ跌倒事ヲ破ルハ敢テ怪シムニ足ラス千八百四十一年配賦ノ改正ヲ行ハント欲シ調査ニ着手セルヤ人心頗ル動搖シ爲メニ政府ハ條例ヲ履行セスシテ空ク手ヲ束ヲタリ

千八百四十六年一月一日以後ハ家屋ヲ取毀ツ時ハ分頭動產ノ正稅配賦高ヨリ其家屋カ負擔セシ額ヲ除キ新タニ家屋ヲ建ル時ハ其家賃價格ニ應シテ州ノ配賦高ヲ增加スヘシトナシ其增加額ハ居住ニ宛タル部分ノ家賃價格二十分ノ一トセリ佛國政府ハ此方法ニ由リテ間接ニ該稅ノ負擔ヲ平均シ又多少屈伸力ヲ副ヘテ年每ニ收入ヲ增加センヿヲ計レリ千八百四十四年八月九日ノ布達ヲ見ルニ云ヘルアリ曰ク方今某々州ノ負擔ハ該稅率(五分)ニ超エ某々

州ハ該税率ニ及ハス宜ク其割合ニ輕キ者ハ之ヲ增シ重キ者ハ之ヲ減シ全國諸州ノ負擔ヲシテ遂ニ平均セシムヘシ云々

此言ヤ實ニ然リ然リト雖右ノ方法ニ由テ負擔ノ平均ヲ得セシメント欲セハ五十年若クハ百年ヲ要セン實ニ該法ハ家屋ノ新築ニ由テ各州ノ配賦高ヲ加減スルニ過キスシテ在來家屋ノ家賃價格ヲ變動スルモ毫モ其配賦高ヲ動搖セサルヘシ然ハ則チ諸州ノ最モ繁榮ナル者ハ在來ノ家賃價格ヲ倍スヘキモ其配賦高ヲ增加セス衰微セル諸州ノ家賃價格ハ減少スルモ其配賦高ヲ減セサルヘシ斯ノ如キ方法ニ由ル時ハ佛國ノ動産税ヲシテ輕重偏依ナカラシムルニ至ルハ實ニ測ルヘカラサル歲月ヲ要スヘシ十年若クハ五年毎ニ定期ノ改正ヲ廢シ或ハ取分法(直税ハ取分法ヲ措テ又他ニ良法アランヤ)ヲ廢スルハ是レ佛國ノ議院ハ不正ニ安ンシテ改ムルヲ力メス又收入ノ增加ヲ計ラサル者ト云フヘシ

右ニ述ル所ノ者ハ則チ動産税條例頗近ノ景況ニシテ分頭動産税配賦ノ諸州ニ於ケル不平均甚シク尙地租配賦ノ輕重偏依アルカ如シ次テ諸郡邑各人一

個ノ間ニ於ケル配賦ハ如何ン請フ之ヲ講究セン

先ツ諸郡ノ間ニ於ケル配賦諸邑ノ間ニ於ケル配賦ノ方法ヲ見ルニ又大不平均ヲ起スヤ實ニ故アリ諸郡邑ニ配賦ヲナスヤ各州ノ直税局長ハ毎年各郡各邑ノ分頭税被税者ノ數及ヒ居住家屋ノ家賃價格ノ額ヲ調査シ表ヲ製スヘキ者トス州會郡會ハ其表ニ據リテ該税ヲ配賦ス其次第左ノ如シ

州會ハ先ツ各被税者カ負擔スヘキ分頭税ニ於テ勞力一日ノ價ヲ定ム其勞力一日ノ價ハ五十「サンチーム」ヨリ少ナカラス一「フランク」五十「サンチーム」ヨリ多カラサル者ニシテ州會ハ之ヲ定ムル時ハ其三日分ヲ乘シテ總收入高ヲ算シ然ル後分頭動産税ノ配賦總高ヨリ之ヲ減シテ殘餘ヲ以テ家賃價格ニ比例シテ動産ニ課ス

右ノ法タル不便モ亦甚シト云ヘシ實ニ州會ハ一「フランク」五十「サンチーム」ト五十「サンチーム」ノ間ヲ出サレハ動産税ヲ增加スルハ只其欲スル所ニアリ故ニ州會ハ下民ノ負擔ヲ輕フセント欲スルカ若クハ中民以上ノ負擔ヲ輕フセント欲スレハ分頭動産税ノ割合ヲ以テ或ハ甲ニ重フシ或ハ乙ニ重フスルヲ

得ヘシ

千八百五十六年諸州ニ於ケル直税ノ配賦ヲ示セルデオツク氏ノ表ヲ熟閲セハ右ノ割合ニ於テ諸州ノ間大不同アルヲ見ルヘシ佛國ニ於テ最貧ナル一州オートアルプ州ニ於テ分頭税ヲ課スルニ一日勞力ノ價ハ最富ナル一州ユールル州ニ於ケルヨリ大ナリオートアルプ州ニ於テハ被税者ノ數二萬八千六百人ニシテ分頭税六萬千四百「フランク」ヲ拂ヘリ即チ一人ニ付二「フランク」十五「サンチーム」ニ當ルユール州ニ於テハ被税者ノ數十萬二千五百人ニシテ分頭税十七萬五千百「フランク」ヲ拂ヘリ即チ一人ニ付一「フランク」七十「サンチーム」ニ當ル然リト雖ユール州ノ勞銀ハオートアルプ州ノ勞銀ニ倍シタルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリオートアルプ州ニ於テハ勞力三日ノ價ヲ以テ二「フランク」十五「サンチーム」トナシタルヲ以テ殆ト動産税ヲ廢止スルニ至レリ實ニ該州ノ正税配賦高ヨリ分頭税ヲ以テ收入スル所ノ高ヲ減スル時ハ動産税ニ配賦スヘキハ被税者二萬三千三百人家賃價格八十二萬三千「フランク」ニ對シテ二萬三千八百「フランク」ニ過キス即チ動産正税ノ徵收平均一人ニ付僅ニ一「フランク」ニ過キス家賃價格ノ三分ニ及ハサル者ニシテ全國ノ平均率ニ及ハサルヿ遠シ尙オートマールン州ノ形況ハ一層著シキ者ニシテ州會カ一日勞力ノ價ヲ定ムル多少ニ由リテ能ク州ノ配賦高ヲシテ悉ク分頭税ニ負擔セシメ殆ト動産税ヲ廢スルニ至ル者アルヲ見ンヌオツク氏ノ表ニ據レハ千八百五十六年オートマールン州ニ於テ分頭税ヲ拂ヒシ者七萬三千五百人ニシテ其惣收入高二十二萬五百「フランク」ニ達セリ即チ三日勞力ノ價ヲ以テ三「フランク」トナセシ者ニシテ其富ハユール州ニ及ハサルヿ遠シト雖其徵課ハ遙カニユールニ於ルヨリ大ナリ當年オートマールン州ノ分頭動産税配賦ノ全額ハ二十七萬二千四百「フランク」ナリシヲ以テ分頭税ノ徵收高二十二萬五百「フランク」ヲ減スレハ動産税ニ於テ徵收スヘキハ僅カニ五萬千九百「フランク」ニシテ家賃ノ算定價格四百十四萬四千二百「フランク」ニ對シテ一分二五ニ過キサル者ナリ豈當然ト稱スルヲ得ンヤートマールンノ州會ハ負擔ヲ分頭税ノ一方ニ歸シ被税者ヲシテ殆ト動産正税ヲ免レシメタル者ト云ヘシ

斯ノ如ク甚シキ實例ハ又他ニ見サル所ナリ然ルニ諸州會ニ於テ分頭動産税

ノ配賦高三分ノ二ヲ以テ分頭税ニ負擔セシメシ者少ナカラスヨーン州ノ如キ正税ノ配賦高三十八萬五千七百「フランク」ニシテ其二十二萬六千五百「フランク」ヲ以テ分頭税ニ配賦セリ即チ一人ニ付二「フランク」二十五「サンチーム」ニ當ル其動産税ニ配賦セシハ僅ニ十五萬九千二百「フランク」ニシテ家賃ノ算定價格五百三十七萬四千「フランク」ニ對シテハ三分ニ達セサル者トス當時ノ平均税率四分四ナリシヲ以テ之ヲ見レハ遙カニ之ニ及ハサリシヲ見ルヘシ又ワーズ州ノ如キハ分頭動産正税ノ配賦高四十八萬百「フランク」ニシテ其殆ト半額即チ二十三萬七千三百「フランク」ヲ以テ分頭税ニ配賦セリ被税者ノ數ハ十萬五千六百八ナリシヲ以テ一人ニ付凡ソ二「フランク」二十五「サンチーム」ニ當ル故ニ動産税ノ負擔トナセシハ二十四萬二千八百「フランク」ニシテ家賃ノ算定價格八百五十八萬千「フランク」ニ對シテハ僅カニ二分八四ニ過キス由是觀之ハ一日勞力ノ價ヲ定ムルノ權ヲ以テ州會ニ委任セシカ爲メニ益不平均ヲ生スルヲ知ルヘシ最後ノ配賦即チ諸邑ニ於テ各人一個ニ配賦スルハ窮民ヲ除キ其邑民ノ姓名并ニ居住家屋ノ家賃價格ヲ記載セル租税徵收原簿ニ據リテ之ヲナス右ノ原簿ハ租税配賦吏員ト直税局ノ「コントローラル」ノ手ニ成リテ府會ニ出タシ府會ハ其税ヲ除スヘキ者又特ニ分頭税ノミヲ課スヘキ者ヲ指示決定ス邑ハ其原簿ニ從ヒ先ツ配賦高ヲ以テ分頭税ノ被税者ニ配賦シ然ル後其餘額ヲ以テ居住家屋ノ家賃價格ニ應シテ之ヲ課ス

居民ノ死去移居家賃ノ增減ニ從ヒ毎年原簿ノ修正ヲ行フ者トス

市府ノ入市税ヲ課スル者ハ分頭動産税ノ關スル所殊ニ大ナリ分頭動産税ノ配賦高ハ府會ヨリ府知事ニ請求スル時ハ府庫ヨリ其全額若クハ一部ヲ拂フ者トス府會ハ其配賦高ノ幾分ヲ以テ入市税ノ收入ニ取ルヤヲ決シ其餘ハ專ラ動産税ニ課スヘクシテ入市税ヲ行フ所ノ市府ノ居民ハ悉ク分頭税ヲ免ル其動産税ニ課スル者ハ居住家屋ノ家賃ニ比例ス近年ニ至ルマテ動産税ハ府會ノ意見ニ由リ小家賃ノ負擔ヲ輕減シ或ハ免除シタル後又等級ヲ定メ外形ノ累進法ヲ以テ大家賃ノ税率ヲシテ小家賃中家賃ヨリ重カラシムルモ可ナリトセリ凡ソ該税ニ關シ府會ニ於テ議セシ事件ハ悉ク政府ノ認可ヲ得テ擧行スル者トス

此法ヤ利害得失相半ハスル者ト云ヘシ或ハ以爲ク入市税ヲ課スル所ノ市府ニ於テハ下民等ハ消費税ヲ負擔スルヿ割合ニ重シ故ニ分頭税動産税ヲ除シテ償補セシムルノ外他ナシ是レ一理アル者ナリ然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ見レハ該税ノ免除法ヲ止メ葡萄酒税ノ如キ下民ノ爲メニ最モ有害ナル入市税ヲ廢棄スルカ若クハ大ニ之ヲ減スルノ良キニ如カサルヘシ

税率ニ於テ累進ノ形ヲ用フルニ至リテハ余輩モ或ル場合ニ於テハ家賃税ニ行フヿノ可ナルヲ説ケリ然ルニ之ヲ行フハ階級ノ數ヲ少フシ三圓級ヨリ多カルヘカラス又税率ヲシテ相當ノ比例例ヘハ家賃價格ノ一割五分ヲ超エシムヘカラス然ラサレハ富民ヲシテ其重キニ堪エサラシムルニ至ラン如何トナレハ富民カ家賃ニ費ス所ノ歳入ノ部分ハ往々中等ノ民ヨリ割合ニ大ナルヲ以テナリ

千八百七十六年七月參事院ノ判決ヲ以テ巴里府ニ於テ動産税ニ累進ノ形ヲ用ヒシハ非法ナル者トセリ其故ハ巴里府ニ一人アリ其居室ノ家賃價格ノ一割〇分七五ヲ課セラル某ハ之ヲ憤リ其不正ヲ訴タヘタリ此ニ於テ參事院ハ之ヲ判決シ千八百三十二年ノ條例ニ於テ府會ニ許スニ小家賃ニ該税ヲ免除シ中家賃ニ輕減ヲ行フヿヲ以テセリト雖之ヲ以テ大家賃ノ負擔額ヲ增加スルヿヲ許セシニアラストセリ其言ニ曰ク家賃ノ種類如何ヲ問ハス純然タル分頭税ヲ減シタル殘餘ノ配賦高ヲ以テ一切ノ被税者即チ府會カ該税ヲ免除シ若クハ輕減セント欲セシ者ヲ合セテ居室ノ家賃價格ニ比例シテ配賦シ來リシ者ハ從來ノ負擔ヲ增加スヘカラスト

是故ニ府會ハ動産税ヲ以テ小家賃ニ課セス中家賃ニ輕フセント欲セハ入市税ヲ增加スルヲ得ヘシト雖到底大家賃ノ負擔ヲシテ比例外ニ增加スルヲ得サル者ナリ

家賃税ニ累進ノ形ヲ設ルハ却テ平均ヲ得セシムル者タルハ已ニ論スル所ノ如シ

之ヲ約言スレハ家賃税ハ佛國現税ノ最良ナル者ニ位スヘシ惜イカナ其徵收法ニ於テ甚タ宜キヲ得ス又之ヲ稱シテ動産税ト云フハ當然ヲ得サル者トス如何トナレハ方今ハ昔日ノ如ク專ラ動産若クハ勞銀ニ課スルニ止マラス家

貨ニ基キテ一切ノ歳入ニ課スルヲ以テナリ

分頭稅家賃稅ノ如ク其性質相異ナル者ヲ合シテ一トナスハ不便最モ甚シ殊ニ取分法ニアラスシテ配賦法ナル時ハ益宜キヲ得ス而ルヲ況ヤ州會ニ委スルニ臆測ヲ以テ分頭稅トシテ三日勞力ノ價ヲ專決スルノ權ヲ以テスルヲヤ又動產稅ノ大過タル配賦法ニアリ元來該稅ヲ配賦スル所ノ原額ハ古來ノ算定ニ據ル者ニシテ一定ノ法ニ從ハス故ニ大不公平ヲ免レス其收入モ亦民富ノ發達ニ伴ナハス假令ヒ少ク之アルモ僅々タルモノニ過キス諸州ノ配賦ヲ定ムルニ當リテハ新築家屋ヲ加ヘ破壞家屋ヲ減スト雖到底不完全ノ算ト云ヘシ如何トナレハ舊家屋ト雖大ニ價格ヲ變スヘケレハナリ故ニ該稅ヲ改正シテ收入ヲ增加スルハ取分法トナスニ如クハナシ然ラハ則チ大ニ政府ノ歳入ヲ增加シ人市稅ヲ廢スルヲ得ヘキナリ

第八篇

工業商業及ヒ高尚ナル職業ノ所得稅　傭國營業稅　取引高稅　動產稅

租稅ノ良制ヲ設クルニ當リテ至難ナル者ハ工業商業及ヒ高尚ナル職業ノ所得ニ課スルニ正平ナル租稅ヲ以テスルヿ是ナリ此ニ於テ至正至平ノ法ヲ求ムルハ尚殆ト能クスヘキニアラサルカ如シ夫レ土地ハ其純歳入若クハ賣買價格ヲ精算シテ租稅ヲ課スヘク又動產即チ大會社ノ株式負債証書手形類ニ稅スヘク最後ニ論述セシカ如ク動產稅モ亦大不便ヲ免レスト雖之ヲ課セント欲スル所ノ立法官之ヲ施行スル所ノ行政官ハ之ヲ賦課シ之ヲ徵收スルニ當リテ未タ甚シキ障碍ニ會セス然ルニ製造家商賈及ヒ高尚ナル職業者ノ所得ニ至リテハ大ニ之ニ異ナリ其所得ハ常ニ變動甚シク之ヲ調査セントスル欲セハ人心大ニ之ヲ厭フ之ヲ以テ通例推定若クハ外標ニ據リテ之ニ課スト雖只ニ實際ニ近キ所得ヲ見ルニ過キスシテ或ル場合ニ於テハ往々實ニ反スルノ患ヲ免レサルナリ

故ニ今之ヲ論スルニ當リテ先ツ工業商業高尚ナル職業ノ營業稅若クハ所得稅ヲ課スルハ果シテ當然ナルヤ將タ要用ナルヤヲ決セサルヘカラス國ニ歲入稅ノ法アリテ一切ノ歲入ニ租稅ヲ課スル時ハ是等ノ營業者ニ稅スルハ當然ナルヘシ夫レ國ニ歲入稅ノ法アレハ工業商業ノ歲入獨リ租稅ヲ免ルノ理ナシ只是等ノ如キハ一生ノ歲入ニシテ且ツ變動アル者タルヲ以テ資本ノ利子トシテ得ル所ノ永世一定ノ歲入ニ比スレハ寬恕ノ處分ヲ受クヘキ者トス然ルニ佛國ノ如キ一般ノ歲入稅トシテ課スル所ノ租稅ナケレハ特ニ工業商業及ヒ高尚ナル職業ノ所得ニノミ租稅ヲ課スルノ理ナシ之ヲ課スル者ハ一ニ政府ノ歲入ヲ得ント欲スルニ過キサル者ナリ元來佛國ニ於テハ農業ノ所得ニ稅セス地租アリト雖地租ハ只ニ地代ニ課スルニ過キス又不動產書入若クハ無抵當ニテ貸附タル資本ニ至リテハ租稅ヲ課スル限リニアラス尤モ數十年來動產稅ノ法アリト雖一切ノ動產若クハ動產ノ歲入ニ稅スル所ノ者ニアラス現ニ中央政府ノ公債證書ハ被稅ノ限リニアラス又不動產書入質貸附證書幷ニ無抵當貸附證書等概シテ之ヲ言ヘハ賣買スル能ハサル一切ノ證書若クハ差金會社株式ノ一部モ均シク該稅ノ及ブ所ニアラス

此狀情ヨリシテ之ヲ見レハ工業商業職業ニ稅スルハ勞働進取ノ資本家ヲ若シメ逸居シテ動產稅ノ及ハサル證書ヲ有スル資本家ヲ惠ムノ效驗アリ然ラハ則チ懶民ハ却テ特利ヲ有スル者ト云ハサルヲ得ス是等ノ遊食ノ資本家カ家賃稅ヲ拂フニ至リテハ又言フヘキ者ナシ如何トナレハ製造家商賈高尚ナル職業者モ亦均ク之ヲ拂フヲ以テナリ只是等ノ營業者ハ懶民カ往々拂ハサル所ノ租稅ヲ拂フノミ佛國ニ於テ動產條例發行以來ハ懶民ノ拂フ所ノ者ヲ增セリ豈ニ大不公平ト云ハサルヘケンヤ

然ルニ凡ソ各國皆殆ト之ヲ行ハサルナク何レノ國ニ於テモ工業商業職業ノ所得ハ政府ノ注目スル所トナルヿ他ノ歲入ニ於ケルヨリ甚シ諸國ニ於テ是等ノ稅ヲ以テ一般ノ歲入稅ト相混シ歲入稅ノ一部類トナス者少ナカラス英國ノ如キハ該分類ヲ稱シテ「シエデユール」ト云フ然ルニ歲入稅ヲ以テ已ニ商工ノ利益ニ課シ又別ニ租稅ヲ置キ數種ノ名稱ヲ以テ職業營業ニ復課スル者少ナカラス

其一般ノ歳入税ニ關スル者ハ今茲ニ論セス只此篇ニ於テハ專ラ營業免許税營業税取引高ノ税及ヒ動産税ヲ論究セントス

營業税ノ最モ發達セシ者ヲ佛國トナス古來佛國ニ於テ賣買取引ノ冥加トシテ各商賈ヲシテ一定ノ租額ヲ納メシムルノ習アリ中世ニ於テ頗ル盛ニ行ハレタリ之ヲ以テ世自カラ政府ノ歳入ヲ得ル一良法ナリト信スルニ至レリ然ルニ此事タル只佛國ニ於テセシ者ニシテ近來該税ノ法ヲ整理シ一切ノ營業ニ及ホセリ其及ハサル者ハ只ニ不精巧勞力者ニ過キス

佛國ノ營業税ハ隣國ニ於テ諸營業ニ課スル所ノ「ライセンス」ト稱スル者ト相比スルヲ得ヘシ佛國ニ於テ其生産品ニ消費税ヲ負ヒ政府官吏ノ檢査ヲ受クル所ノ營業ハ一般ノ商賈ト均ク營業税ヲ負ヒ又營業免許税ヲ拂フ營業免許税ハ僅々タル一定ノ額ニシテ取引ノ高ニ比例スルヲ力メス同業ヲ營ム者ハ同額ノ税ヲ課ス故ニ該税ハ税吏ノ檢査ヲ要スル所ノ製造家ヲ確知スルカ爲メニシテ巨額ノ收入ヲ得ヘキ者ニアラス

佛國ノ營業免許税ノ法ハ營業者自ラ其賣買スル所ノ酒ノ種類ヲ申告シ成規ノ代價ヲ納レテ免許ヲ得ヘキ者トス卸賣營業蒸酒製造業ハ皆同額ヲ納メ麥酒釀造ノ免許料ハ州ニ據リテ之ヲ異ニシ小賣營業ハ邑ニ據リテ之ヲ異ニス然ルニ利益ノ大小ニ比例スルヲ力メス何レモ皆輕小ニシテ附屬税タルニ過キス骨牌製造砂糖及ヒ「グルコース」製造「シコリー」製造紙製造モ亦該税ヲ課ス左ニ擧クル所ノ税率ハ佛普戰爭後ニ增加セシ所ノ正税々率ナリ

人口四千以上ノ邑ニ於ケル酒類小賣營業

全	從四千至六千	邑ニ於ケル全	一二「フランク」
全	從六千至一萬	邑ニ於ケル全	一六「フランク」
全	從一萬至一萬五千	邑ニ於ケル全	二〇「フランク」
全	從一萬五千至二萬	邑ニ於ケル全	二四「フランク」
全	從二萬至三萬	邑ニ於ケル全	二八「フランク」
全	從三萬至五萬	邑ニ於ケル全	三二「フランク」
全	五萬以上ノ邑ニ於ケル全	邑ニ於ケル全	三六「フランク」
某州ニ於ケル麥酒ノ釀造營業		邑里府ヲ除キ	四〇「フランク」
			一〇〇「フランク」

他州ニ於ケル麥酒ノ釀造營業　六〇「フランク」
各地ノ蒸酒蒸餾營業　二〇「フランク」
酒類卸賣商　一〇〇「フランク」
骨牌製造家　一〇〇「フランク」
砂糖及ヒ「グルーコース」製造家　一〇〇「フランク」
「シコリー」製造家　二〇「フランク」
紙製造家　五〇「フランク」

右ノ稅率ハ皆輕シ酒類小賣營業ニ至リテハ佛國ニ於テハ元來其小賣店ノ數ヲ限ルヲ以テ其營業免許稅ハ政府ノ特許ニ對シテ拂フ所ノ代價ト見做スヘク不當ノ稅ト云ヘカラス都テ右ノ租稅ハ甚タ輕プシテ之ヲ拂フ所ノ工業商業ヲ害スルニ足ラサルヘシ是等ノ稅ヲ以テ政府ニ收入スル所ハ每年僅カニ九百萬乃至一千萬「フランク」ニ過キサル者ナリ

英國ノ營業免許稅ハ大ニ之ニ反シテ其區域甚タ廣ク殆ト佛國ノ營業稅ト相去ルヿ遠カラス收入モ亦頗ル大ニシテ殆ト佛國中央政府ノ營業稅收入高ニ均シ又該稅ハ常ニ一定ノ額ヲ課スルニアラス數々生產ノ多少ニ應シテ階ヲ立ル者トス千八百七十三年ノ收入高ハ殆ト一億「フランク」ニ達セリ(三百九十一萬二千四百八「ポンド」)(千八百七十三年ニ至ル英國ノ統計年表第九葉ヲ見ルヘシ)千八百五十八年ノ收入高凡ソ三千六百萬「フランク」(百四十二萬四千六百六十三「ポンド」)ナリシヲ以テ之ヲ見レハ該稅收入ノ增加ハ甚タ速カナリト云ヘシ元來英國ニ於テ內地ノ間稅ヲ課セシ所ノ物品製造家ニ課スルニ營業免許稅ヲ以テスルヿハ女王アンノ時ニ始マリ爾後漸次ニ擴張セシ者ナリ已ニ紙製造石鹼製造ノ如キ營業ハ舊時ノ內地間稅ヲ廢セリト雖某營業ハ尙該稅ヲ拂フ者アリ又公益ノ爲メニ政府ノ統轄ヲ要スヘシト見做ス所ノ職業ヲ營ナム者ハ營業免許ヲ受クヘキ者トセリ故ニ方今英國ニ於テ營業免許稅ヲ拂フ者ハ只ニ酒類製造者若クハ賣買商ニ止マラス紙製造家、石鹼製造家、烟草製造家、調藥師、競賣商、家屋仲買、骨牌製造家、金銀器賣商等頗ル多シ佛國ニ於テ印稅ヲ課スル者ニ英國ニテハ營業免許稅ヲ以テ之ニ代フル者アリ例ヘハ銀行家代言人獵夫ノ如キ是ナリ小禽獸肉商畜犬主モ亦該稅ヲ

拂フ者トス右ノ諸目ヲ合セテ千八百七十三年ニハ凡ソ一億「フランク」ノ收入ヲ得タリ又該稅ヲ負擔セシ人員ハ千八百六十九年ニ於テ二百五萬六千七百三十四人アリ然ルニ其百六萬八千二百二十一人ハ只ニ犬ヲ所有セシ者ニシテ五萬七千人ハ獵ノ爲メニ之ヲ拂ヒシ者ナリ(千八百七十年內地租稅取調委員ノ報告第一卷百五十葉ヲ見ルヘシ)然ラハ則チ佛國ノ免許稅ト相對スヘキ所ノ免許稅ヲ負擔セシ者ハ九十萬人餘ニ過キサルヘシ

英國ノ免許稅ハ左ノ三法ニ據ル者トス一ハ多少商業若クハ工業ノ大小ニ比例スル「一ハ其場處ノ美惡ニ比例スル「一ハ確定同一ノ稅率ヲ課スル「是ナリ由是觀之ハ英國ノ免許稅ハ大ニ佛國ノ免許稅ト異ニシテ寧ロ佛國ノ營業稅ニ相類スト云フヘシ

佛國ノ營業稅ハ一切ノ工業商業ニ課シ高尙ナル職業モ殆ト皆之ヲ課スル者ニシテ實ニ革命ノ時ニ始ル千七百九十一年三月ノ條例ヲ以テ都テ職業ノ特權ヲ廢シ從テ從前組合仲間ニ入社スル時ニ拂シ所ノ冥加金モ亦廢セラル此ニ於テ政府ハ令ヲ下タシ誰何ヲ問ハス其好ム所ニ從テ職業ヲ營ムヲ得ヘシ

然レトモ各々營業ノ免許ヲ得成規ノ稅額ヲ納メ警察規則ヲ遵守スヘシトセリ故ニ該稅ハ政府カ人民ニ營業ノ自由ヲ附與セシ爲メノ報酬トモ稱スヘキモノナリ右ノ營業稅ハ其初メ徵課法頗ル簡易ニシテ被稅者ノ居住家屋商店荷物藏製造處ノ家賃價格ニ比例セシ者ナリ故ニ動產稅ト重複ノ租稅ニシテ千七百九十三年三月二十七日ノ條例ニ由テ營業稅ヲ廢セシハ固ヨリ當然ノ事ナリ革命政府ノ第三年ニ至リ再ヒ某營業ニ租稅ヲ課セシハ財政ノ困難ニ際シ止ヲ得サルニ出シ者ニシテ理ノ當否ヲ問フニ暇マナカリシモノトス然ルニ一度ヒ之ヲ復スルニ及テハ忽チ延テ諸營業ニ及ヒ數次ノ變遷ヲ經テ稅法益繁密トナレリ方今ノ諸稅ニ於テ斯ノ如ク少時間ニ巨數ノ改變ヲ經過セシ「恐クハ該稅ノ如キ者ナカルヘシ今日營業稅ノ賦課未タ完全ナラス諸營業ノ負擔不平均ヲ免レス或ハ不滿ヲ唱フル者ナキニアラスト雖被稅者ハ之カ爲メニ憤懣ヲ發スルカ如キニ至ラス千八百七十五年ノ豫算表ニ據レハ佛國ノ營業稅ハ中央政府ノ收入高一億一千四百萬「フランク」地方政府ノ收入高五千四百五十萬「フランク」ニシテ通計一億六千八百萬「フランク」トス此額タル

地租ノ全收入高ノ半ニ超エ分頭動產稅ノ全收入高ニ超ユルヿ五割ナルヲ以テ之ヲ見レハ巨額ノ收入ト云ハサルヘカラス元來佛國ノ直稅ニ於テ取分法ヲ行フハ特ニ營業稅ノ外他ナシ該稅收入高ノ增加大ヒナル所以ノ者ハ稅率ノ改正稅目ノ增加ニ由ルト雖又其取分法タルニ由ル

千七百九十一年佛國ニ於テ免許營業者ノ數ハ六十五萬九千七百十二人ニシテ營業稅ノ收入高ハ二千萬「フランク」ニ及ハサリシ千八百二十二年ニハ免許營業者九十五萬五千人トナリ營業正稅ノ收入高ハ千九百七十八萬二千五百二十四「フランク」ニ止ル千八百二十九年ニハ免許營業者ノ數增加シテ百十萬千百九十人トナリ該正稅ノ收入二千二百萬「フランク」ニ及ヘリ右ノ數ヲ以テ之ヲ見レハ千七百九十一年以後該稅ノ收入高ハ殆ト高低ナシト雖被稅者ノ數ハ八割ノ增加アリ余輩ハ今ヴィギュ氏ノ表ヲ假リ合セテ政府ノ文書ニ據リ近年ノ數ヲ加ヘテ被稅物ノ數及ヒ營業正稅ノ收入高ヲ示メサン表中被稅物ノ數ハ免許營業者ニ比スレハ多キ者ハ一人ニシテ數邑ニ營業處ヲ有スル者アルヲ以テナリ

年代	被稅物ノ數	營業正稅收入高
千八百三十年	一、一六三、二五五	
千八百四十年	一、三七五、九一九	
千八百四十四年	一、五一一、一〇四	
千八百四十五年	一、三五二、九三〇	
千八百五十年	一、四三七、四三七	
千八百六十年	一、六七八、三七七	
千八百六十八年	一、七六四、八三五	
千八百七十二年	一、五九一、〇六二	
マチコー、ポテー氏ノ營業稅改正報告ニ據ル		
千八百七十二年ニ至リテ數ヲ減セシハ重ニアルサースロレーン二州ヲ失ヒシニ由ル		
年代		二一、三一四、七七〇「フランク」
千八百三十三年		

千八百三十七年	二八、九九二、六五八「フランク」
千八百四十二年	三四、一二八、六四八「フランク」
千八百五十年	三五、六一二、八七一「フランク」
千八百六十年	五二、七二〇、〇〇〇「フランク」
千八百六十九年	六一、五七二、八九四「フランク」
千八百七十五年	七〇、五六四、〇〇〇「フランク」
同年正税及ヒ中央政府ノ副税ヲ合セテ(地方政府ノ副税收入高ヲ除ク)	一一四、七四三、〇〇〇「フランク」

斯ノ如ク僅カニ數年ノ間ニ營業正税ノ增加著シク千八百三十三年以來四十二年ニシテ其收入高殆ト三倍シ千八百五十年以後即チ二十五年ニシテ殆ト之ヲ倍セリ若シ正税幷ニ通常副税臨時副税ノ中央政府ニ收入セシ分ヲ合算セハ千八百六十年以來即チ十五年ニシテ一倍ニ達セシヲ見ルヘシ然ルニ臨時ノ副税ハ以テ該税自然ノ發達ヲ示メスニ足ラサルカ故ニ之ヲ問ハスト雖該税ハ大ニ税率ヲ變動セスシテ每年收入ヲ增加スルノ傾向頗ル著明ナリ如何トナレハ該税ハ取分法ニシテ工商ノ發達ニ伴フテ增加シ且ツ被税者ヲシテ租税ヲ免レ或ハ奸策ヲ以テ負擔ノ一部ヲ避ルヲ得セシメサレハナリ

佛國營業税ノ改正論ハ常ニ輿論ノ問題ニシテ未タ人心ヲ滿足セシムルノ舉ナシト雖其日ヲ見ルヿハ遠キニアラサルヘシ今該税組織ノ要領ヲ知ント欲セハ千八百七十三年ニ當リテマチユー、ボテー氏ノ有名ナル奏議(現今ニ至ルマテ未タ舉行セラレス)ニ付テ余輩カ佛國經濟雜誌ニ掲載セシ所ノ論文ヲ舉ルニ如ク者ナカルヘシ請フ其文ヲ假リテ茲ニ之ヲ再述セン

工業商業ノ利益ニ課スルニ平等ナル租税ヲ以テセントスルハ頗ル困難ナル論題トナス此ニ只三條ノ方法ヲ以テ撰フヘキアルノミ第一政府カ營業者ノ書類帳簿ヲ點檢シテ營業ニ干涉スルヿ第二信ヲ被税者ノ誓詞ニ置キ其申告ニ據ルヿ第三多少緩漫ナル外標ニ據リ各人一個ノ利益ヲ問ハスシテ營業ノ種類ニ由リ各其利益ヲ概算シテ租税ヲ課スルヿ是ナリ

右三條ノ法タル各々短處アリ以テ完全ト稱スルヲ得ス元來佛國ノ如キ民治ノ社會ニシテ禍亂數々起リ各世間ノ羨望ヲ招クヲ恐ルヽ時ハ政府若ク

ハ官吏カ少シナリトモ一個ノ私事ニ立入ルヿヲ欲セス若シ政府ヲシテ人民ノ私室ニ一歩ヲ入ルヿヲ許サハ政府カ十歩ヲ進マンヿヲ恐ル之ヲ以テ國民ハ力ヲ盡シテ常ニ政府カ干渉統轄ノ區域ヲ限リ後害ヲ未萌ニ防ンヿヲ欲シ其初ニ於テ抗スト云フ格言ハ深ク佛國人民ノ意ヲ得タリ故ニ取引高ノ稅ノ議起ル毎ニ其主トスル處ハ只ニ營業者ノ賣上帳ヲ以テ政府ニ示メスニ過キスシテ其一事ハ非常ノ弊事ニアラサリシト雖佛國人民ハ是ヨリシテ他ノ干渉從テ生センヿヲ恐レタリ

第二法ナル被稅者ノ申告ニ據ルヿハ頗ル抗議ヲ免レス凡ソ人間社會トシテ悉ク正人君子ヲ以テ成ル者ナシ故ニ申告ノ制タル大ニ奸詐ヲ奬誘スルニ至ン或ハ云ン稅吏ノ注意ノ至レル檢閲ノ巧ミナル以テ此不便ヲ避クルヿヲ得ヘシト然ルニ此ニ至レハ又第一條ノ弊ニ歸セン斯ノ如ク國人ノ不信ヲ疑フヲ止メテ不忠ナル者ハ度外ナリト見做スモ申告ノ制ニ據ル時ハ或ハ不忠藏匿ヲ以テ正人君子ヲ疑フノ不便ヲ免レス

然リト雖余輩ハ前二條ノ制度ニ於テハ他ニ便益ノ以テ是等ノ不便ヲ償補スルモノナシト云ンニアラス不幸ニシテ佛國ニ於テハ方今ニ至ル迄便益少ナク不便多キヲ如何セン由是觀之ハ今日ノ勢ニアリテハ推定法即チ外標ニ據リテ營業者ノ所得ヲ推定シ被稅者實際ノ所得ヲ問ハスシテ組稅ヲ課スルニ如ク者ナカルヘシ該法タル其性質ニ於テ完美ナラス故ニ之ヲ修正シテ良善ナラシムヘキモ到底至良至善ナラシムルヲ得ス該法ノ一大短處タル營業者毎個ノ利益ヲ知ル能ハサルニアリ如何トナレハ該法ノ主トスル處ハ營業ノ景況ニ由リ各種ノ營業カ得ヘキ所ノ利益ヲ想像シテ平均高ヲ定ムルニアレハナリ是故ニ該法ニ據レハ如何ニ改良ヲ計ルモ只甲業ヲ惠ミテ乙業ヲ苦メサルニ止マリ各人一個ノ間ニ於テハ到底無數ノ不平均ヲ免レサルヘシ

マチユー、ボデー氏ハ其報告書ニ於テ營業稅制度ノ改進ヲ述ルヿ頗ル明瞭ナリ千七百九十一年ヨリ千八百七十二年ニ至ル迄佛國政府ハ該稅ヲシテ益被稅者ノ所得ニ比例セシメンヿヲ力メ種々ノ改正ヲ行ヘリ然ルニ此事タル改正ヲナス毎ニ改良シテ不平均ヲ減スルヲ得ヘキモ徹頭徹尾至正至

平ナルヲ得ヘキモノニアラス尚雞卵ノ方形ナランヲ望ムカ如シ政府カ改良ヲ企ル毎ニ法制益繁密トナリ區別益細密ニ渉リ只ニ該税不平均ノ甚キヲ除クニ過キス

佛國ノ營業税ハ實ニ千七百九十一年三月二日ノ條例ニ始マル當時營業ノ組合仲間ノ制ヲ廢シテ之ニ代フルニ商業工業ニ租税ヲ課スルノ法ヲ以テセリ凡ソ世ノ租税ハ其初メ簡單ニシテ且ツ不正ナルハ常ナリ佛國ノ營業税モ亦其初メハ被税者ノ職業如何ヲ問ハス皆商店居住家屋ノ家賃價格ニ從テ之ヲ課シ非常ニ簡單ナリシモ不平均モ亦甚シカリシ故ニ久シカラスシテ或ル營業ハ利益巨大ナルモ必スシモ上等ノ擔處ヲ要セスシテ如此キ營業ハ該法ニ於テ特別ノ惠ヲ被ムリシ者タルヲ發覺セリ

此ニ於テ該税ノ組織ヲ改正センヿヲ計リ革命ノ第三年十一月四日ノ條例ヲ以テ大ニ之ヲ改良シ營業ノ性質ニ從ヒ諸營業ヲ分テ數級トナシ各營業ノ大小ト其營業ヲナス土地ノ人口ニ從テ租税ヲ課セリ斯ノ如ク營業税ノ配賦ヲナスニ專ラ二箇ノ情況ニ依リシヲ以テ一市府中ニ於テ同業ヲ營ム者ハ皆同額ノ税ヲ負擔シ營業處居住家屋ノ家賃價格ノ大小ハ毫モ之ヲ問ハサリシ者ナリ

右ノ法ハ久シカラスシテ大ニ不完全ナルヲ見テ第四年十二月六日ノ條例次テ第五年三月九日第六年一月七日第七年一月一日ノ數條例ヲ以テ配賦ノ基礎ヲ擴張シ一ニハ第三年ノ條例ヲ以テ定メシ所ノ情況即チ營業ノ大小人口ノ多寡ニ據リ定額税ヲ課シ一ニハ千七百九十一年ノ條例ヲ以テ定メシ所ノ情況即チ被税者カ使用スル所ノ家屋ノ家賃價格ヲ斟酌シテ比例税ヲ課スヘシトセリ爾後營業税ハ右ノ二部ヲ幷行シ今日ニ至ルマテ變動アルナシ此制ヲ用ヒテヨリ營業税ハ兩足備ハル者ト云ヘク又疵ニアラス定額税ヲ以テ同處ニ同業ヲ營ナム者ノ負擔ヲ同フシ而シテ比例税ヲ以テ被税者ノ營業處居家ノ家賃價格ノ變動ニ從ハシムル者ナリ

然ルニ種々ノ營業ノ間ニ於テ營業税負擔ノ不平均ハ尚頗ル甚シ其定額税ヲ定ルヤ右ノ法律ニ於テハ生産ノ平均高幷ニ各職業カ得ラルヘキ利益ノ多少ヲ斟酌スルニ足ラス又一方ニハ比例税ハ一般ニ被税者ノ居家及ヒ營

業處ノ家賃價格ノ十分一ヲ徴收シ某營業ハ陸屋師巷ニ於テ五利ヲ射ル者アルヲ聞ハサルナリ

右ノ如キ不平均ヲ生スル原因ヲ察センカ爲メニ千八百十七年千八百十八年千八百十九年ニ於テ種々ノ條例ヲ以テ漸次ニ改正ヲ行ヒ某營業ニ於テハ大ニ定額稅ノ性質ヲ變セシモノアリ製造家ノ如キハ其地ノ人口ノ多寡ヲ問ハスシテ器械ノ多少ニ從テ稅額ヲ異ニスル者トナシ定額稅ノ性質ヲ變シテ定額稅ノ實ナシト雖尙其名ヲ存セリ其他數種ノ生產家ニ於ケルモ類似ノ改正ヲ行ヘリ然レトモ比例稅ノ部分ニ至リテハ依然トシテ動カス所ナク常ニ職業ノ種類ヲ問ハス一般ニ營業者カ用フル所ノ家屋ノ家賃價格ノ十分一ヲ徵課セリ

千八百四十四年ノ條例ヲ以テ大ニ營業稅ヲ改正シ百般ノ職業ヲ分テ甲乙丙ノ三種トセリ甲種ハ重ニ商店ニ於ケル營業ニシテ營業ノ盛衰ハ買手ノ多少ニ由ル故ヲ以テ營業ノ大小多クハ其地ノ人口ノ多寡ニ由ル者トス乙種ハ其地ノ人口ニ基キテ租稅ヲ課スル者ニシテ其職業ノ大小ト性質ニ據

リテ一般ノ稅率ヲ課スヘカラサル者トス丙種ハ邑ノ人口ヲ問ハスシテ租稅ヲ課スル所ノ職業トス之ヲ約言スレハ甲種ハ一般ノ小賣商乙種ハ卸賣商仲買商銀行家等丙種ハ製造家トナス斯ノ如クシテ定額稅ノ主義ヲ修正シ器械又ハ勞力者ノ數ニ應シテ之ヲ增加シ居家商店ノ家賃價格ニ應シテ賦課スル所ノ比例稅ニ於テハ百業同率ノ制ヲ廢シ重ニ家賃價格ノ二十分一トナシ或ル場合ニ於テハ十五分ノ一トシ工業ニハ二十五分ノ一四十分ノ一若クハ五十分ノ一トナセリ被稅ノ限リニアラサル者ハ第四種即チ丁種ニ列セリ

千八百五十年五月十八日千八百五十八年六月四日ノ二條例ヲ以テ從來設置セシ部類ノ發達改正ヲナセリ斯ノ如ク政府カ年ヲ逐テ次第ニ租稅法ヲ繕密ニセシハ之ヲ以テ該稅ノ負擔ヲ平均セシメンヿヲ欲セシニアリ

右ニ述ル所ヲ以テ讀者ヲシテ營業稅法發達ノ思想ヲ得セシムルニ足ルヤ未タ知ルヘカラス該稅法ハ年ヲ逐フテ益繕密トナリ殆ト明示スル能ハサルニ至レリ然ルニ若シ該稅ヲシテ被稅者ノ財力即チ被稅者カ得ル所ノ利

益否ナ營業ノ景況ニ由テ得能フ所ノ平均利益ニ比例セシメント欲セハ該稅ノ性質トシテ此纏密ニ至ラサルヘカラス

佛普ノ戰爭以後數回ノ條例ヲ以テ營業稅法ヲ改修補正セリト雖尙未タ不平均ヲ免レサルヲ見ルヘシ是故ニ若シ該稅ヲ課スルヿ重キニ過キサレハ蓋シ人心ノ憤怨ヲ來タスニ至ラサルヘシト雖大ニ配賦額ヲ增加セハ被稅者ハ不平均ノ苦ヲ覺エ或ハ堪エ難キニ至ルヿアラン千八百七十二年三月二十九日六月十六日二十三日ノ三條例ニ由テ近年營業稅ノ負擔ヲ增加セシハ衆人ノ知ル所ナリ當年ノ議員ハ右ノ三條例ヲ議スルニ當リ各々別ニ之ヲ議シ其集合シテ生スル所ノ効驗如何ヲ豫知セサリシ者ナリ

三月二十九日ノ條例ニ由リテ數箇ノ營業處若クハ商店ヲ有シ從前本店ニハ租稅ノ全額ヲ拂ヒ支店ニハ半額ヲ拂ヒシ者ハ本支ノ別ナク皆全額ヲ拂ハサルヘカラサルニ至レリ又同條例ヲ以テ生產ニ使用セル勞力者若クハ器械ノ數ニ應シテ課セシ所ノ工商ノ定額稅ノ最高點ヲ廢セリ右二條ノ改正ヲ致セシハ不公平ヲ修正スルノ精神ニ出テタルヤ疑ヲ容レサルナリ加フルニ千八百七十二年三月二十九日ノ條例ヲ以テ丙種ノ被稅者(或ル者ヲ除キ)ノ定額稅ニ五分ノ一ヲ增加シ又數種ノ被稅者ノ比例稅ヲ增加シ家賃價格ニ應シテ十分ノ一ヨリ十五分ノ一若クハ十五分ノ一ヨリ二十分ノ一トセリ是故ニ右ノ改正ハ頗ル切要ナル者ニシテ輕視スヘキニアラス千八百七十二年六月十六日ノ條例ヲ以テ特ニ保護スヘシト見認メタル營業ヲ除キ一切ノ營業ニ中央政府ノ副稅六十「サンチーム」ヲ加ヘリ

本文國庫ニ收入スヘキ六十「サンチーム」ノ副稅ハ後チ減シテ四十三「サンチーム」トセリ

第三ノ條例即チ千八百七十二年六月二十三日ノ條例ニ於テ印紙稅ヲ廢シ代フルニ營業副稅ヲ以テシ再ヒ三「サンチーム」十分ノ八ヲ以テ副稅ニ加ヘリ

右三條ノ集合效驗ハ頗ル急激ナリマチユー、ボデー氏ハ例ヲ擧ケテ其景況ヲ示セリ

最モ要用ニシテ租稅增加ノ最モ甚キ丙種ノ一營業ヲ擧テ紡績器械等ノ巨大ナル蒸滊器械ヲ製造シ四人ノ助手ヲ有シ千人ノ勞力者ヲ役シ十萬五千

「フランク」ノ家賃價格(内五千「フランク」ヲ居住家屋ノ家賃價格トシ)ニ比例稅ヲ拂フ者アリトセン然ル時ハ千八百七十二年ニ當リテ拂ヒシ所ノ稅額ハ左ノ如シ

定額稅(最高點)	五〇〇「フランク」
比例稅 五千「フランク」ノ二十分一 十萬「フランク」ノ五十分一	二二五〇「フランク」
小計	二七五〇「フランク」
副稅(十「サンチーム」ノ八)	二九七「フランク」
小計	三〇四七「フランク」
助手四人	四〇〇「フランク」
副稅(十「サンチーム」ノ八)	四三「フランク」二〇「サンチーム」
小計	四四三「フランク」二〇「サンチーム」
國稅總計(地方費ニ給スル正稅 八「サンチーム」ノ收入ヲ除キ)	三四九〇「フランク」二〇「サンチーム」

千八百七十三年ニ拂ヒシ稅額ハ左ノ如シ

定額稅	
一般ニ課スル者	三〇「フランク」
勞力者千人 一人ニ付三「フランク」六十「サンチーム」	三六〇〇「フランク」
小計	三六三〇「フランク」
比例稅(從前ノ如ク)	二二五〇「フランク」
小計	五八八〇「フランク」
副稅 十「サンチーム」ノ八	
副稅 三「サンチーム」ノ八	
副稅 六十「サンチーム」	
	七十四「サンチーム」六
小計	四三八六「フランク」四八「サンチーム」
助手四人	一〇二六六「フランク」四八「サンチーム」
副稅(七十四「サンチーム」ノ六)	二九〇四「フランク」
小計	二一六六「フランク」三八「サンチーム」
	五〇七〇「フランク」三八「サンチーム」

國稅總計(地方費ニ給スル正稅八「サンチーム」ノ收入ヲ除キ)

一五三三六「フランク」八六「サンチーム」

右ノ表ニ據リテ之ヲ見レハ千八百七十二年以前ハ三千四百九十「フランク」ヲ拂フ者ニシテ國稅ノ負擔四倍餘ノ增加ニ至リシ者ナリ斯ノ如クナルヲ以テ營業上ニ影響ヲ來タスヿ小少ナラス營業者カ負擔ノ輕重ヲ平均シ其效驗ノ甚キヲ減セントスシテ該稅ノ改正ヲ請求セシヤ敢テ怪ムニ足ラサルナリ

斯ノ如ク陸續數回ノ條例ヲ以テ營業稅法ヲ繞密ニシ殆ト明示スルヲ得サルニ至ラシメタリト雖之カ負擔ヲシテ遂ニ平均ナラシムルヿ能ハス余輩ハ今ヨリ方今其不平均ノ甚キ者ヲ修正除去セントスル所ノ議案ノ如何ヲ研究セン

マチュー、ボデー氏ハ營業稅部類ノ稅名ヲ改メ之カ義解ヲ以テ新法草案ノ初メニ置ケリ其第二條ニ曰ク

營業稅ハ營業免許條例ノ卷末ニ附スル所ノ表ニ則トリ各職業ニ課スル所ノ職業稅及ヒ免許營業者カ使用スル家屋ノ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ヲ以テ成ル者トス

右ノ言タル至適至當ト云ヒ難シ如何トナレハ第四種ニ屬スル所ノ職業ハ職業稅ヲ負擔セスシテ特ニ家賃價格ニ課スル所ノ比例稅ヲ拂フニ止レハナリ然ルニ此特例ハ其關スル處小ニシテ立案者モ亦之ヲ顧ミサル者ナリ本條ニ於テ舊法ニ異ナル所ノ者ハ革命政府ノ第七年以後用ヒ來リシ所ノ定額稅ノ名ニ更フルニ職業稅ノ名ヲ以テスルヿ是ナリ方今ニ於テハ定額稅ニシテ往々製造器械勞力者被役者等ノ數ニ應シテ增減ヲナシ實際定額稅ニアラス殊ニ該稅ノ最高點ヲ廢シテヨリ定額稅ノ名益々其實ニ適セス之ヲ以テ新法案ニ於テハ更フルニ職業稅ノ名ヲ以テセリ

マチュー、ボデー氏ハ右ノ職業稅ハ數種ノ性質ヲ含有スルヲ說ケリ之ニ據ル時ハ甲種即チ一般ノ小賣營業ニ於ケル職業稅ハ職業ノ階級幷ニ營業地ノ邑ノ人口ニ應シテ稅率ニ輕重アリ乙種即チ手代銀行家株式仲買等大商賈ノ職業稅ハ或ハ人口ノ多寡及ヒ營業ノ大小ヲ表スル所ノ外標ニ據リテ累

進率ヲ定メ或ハ特ニ邑ノ人口ニ基キテ税率ノ軽重ヲ定ムル者トス丙種即チ製造家及ヒ他ノ小數ノ營業ニ於ケル職業税ハ或ハ生産ニ用フル器械勞力者等ノ數ニ應シテ輕重スル所ノ税アリ或ハ同時ニ動搖スヘキ性質ト一定動カサル性質ヲ有スル所ノ税アル者トス

斯ノ如ク職業税ノ種類數多ニシテ簡明ニ之カ解ヲ下タスヿ甚タ難シ之ヲ以テマチユー、ボデー氏ハ左ノ語ヲ以テ其解ヲ結ヘリ

之ヲ約言スレハ職業税ハ免許營業者ニ課スル所ノ者ニシテ家賃價格ニ課スル所ノ比例税ノ外一切ノ定額若クハ不定ノ租税ヲ以テ成ル者トス

氏ノ言ヲ以テ之ヲ見レハ營業税ノ繞密ニシテ殆ト明示スル能ハサル者ナルヲ知ルヘシ

凡ソ義解ハ摘要ニシテ事ヲ論スルニ義解ニ基キ之カ得失ヲ決スルニ足ラス宜ク之ヲ玩味研究シテ其淵源ヲ探求スヘシ余輩ハ今ヨリ一歩ヲ進ンテ之カ討究ヲナサント欲ス

右ノ營業税改正案ニ據レハ正税ノ全額ハ皆ニ依リテ增減セス特ニ方今ノ負擔重キニ過クト思フ所ノ職業ハ之ヲ輕減シ輕賦ノ恵ヲ受クト考フル者ハ之ヲ增課スルニ止マル故ニ概シテ之ヲ見レハ被税者ニ於テ負擔ヲ輕減スルニアラス政府ニ於テモ歳入ヲ減縮スルニアラスシテ改正委員ハ租税賦課ノ平均ヲ計リシニ過キサル者ナリ改正案ニ於テ某營業ノ負擔ヲ減セシハ實ニ六百四十七萬三千「フランク」其增加セシハ六百五十六萬九千「フランク」ナルヲ以テ增減殆ト相償ヒ僅カニ九萬六千「フランク」ノ增加ヲ見ル者ニシテ該税ノ全收入高ニ比スレハ千ニ付一餘ノ割合ニ過キサル者ナリ

斯ノ如ク其全体ニ於テハ增減相償フト雖種別ノ問ニ於テハ然ラス稍々著シキ負擔ノ輕減ヲ蒙ユル者アリ或ハ却テ其增加ヲ苦ム者アリ

方今佛國營業税ノ被税者ヲ分テ甲乙丙丁ノ四種トナスハ已ニ前章ニ云フ所ノ如シ甲種ハ則チ一切ノ小賣營業ニシテ最モ大部分ニ居ル其被税者ノ數ハ百三十萬二千百三十九人ニシテ全數ノ五分ノ四餘ニ達シ其正税收入高ハ五千八十一萬六千「フランク」ニシテ營業税總收入高ノ三分ノ二ニ過キタリ而シテ又甲種ヲ細別シ營業ノ大小營業地人口ノ多寡ニ從ヒ分テ八級

トセリ第二種即チ乙種ハ巨商大賈銀行家等ニシテ被税者ノ數ハ僅カニ一萬六千七百十八正税ノ收入高五百七十八萬二千三百五十二「フランク」ニ過キスシテ被税者ハ全數ノ百分一ニ達セス收入ハ凡ソ總額ノ十二分ノ一ニ過キサル者トス丙種ハ製造家等ニシテ被税者二十二萬二千五十六人收入高千五百七萬九千二百二十二「フランク」ナリ丁種ハ前三種ノ如ク明示スル能ハサル所ノ者ニシテ特ニ前三種ト均シク税スヘカラスト見做ス所ノ某營業ヲ以テ該種ヲ成ス之ニ屬スル者ハ五萬百五十七人ニシテ正税二百五萬二千七百五十五「フランク」ヲ入ル

由是觀之ハ中小ノ商業ハ殆ト都テ甲種ニ屬シ巨大ノ商業工業ハ殆ト皆他ノ種類ニ屬スルヲ知ルヘシ改正委員ノ意ハ甲種營業者ノ負擔ヲ減シ之ヲ以テ他種ノ營業者ニ增課スルニアリ之ヲ以テ甲種ニ於テ增加セシ高ハ僅ニ百十七萬千「フランク」ニシテ減少高ハ四百六十一萬八千「フランク」ニ達セリ尤モ現今甲種ニ屬スル所ノ職業ヲ以テ乙丙ノ二種ニ移セシ者アルカ故ニ其減少高ハ大ナルヘシト雖尚該種ノ營業ハ全体ニ於テ凡ソ二百萬「フランク」即チ平均四分ノ減少ニ至ルヤ疑ヲ容レサルナリ此減少タル大ナリト云ヘカラスト雖小商業ニ於テハ頗ル負擔ヲ減スルノ思アルヘシ如何トナレハ右ノ減少ハ甲種ノ末級即チ小商ニ於テ最モ大ナレハナリ

甲種八級營業者ノ數及ヒ各級ノ正税收入高ハ左ノ如シ

第一級	四三、〇八一	七、六〇一、一一四「フランク」
第二級	一四、六四〇	二、四三六、九八〇「フランク」
第三級	五五、六一八	五、七八三、四五七「フランク」
第四級	二〇三、二七三	一一、三一五、八一一「フランク」
第五級	二四二、一二三	八、八〇一、七四〇「フランク」
第六級	四六九、〇〇七	一一、二五七、四一四「フランク」
第七級	二〇二、八三五	二、九七八、三六四「フランク」
第八級	七一、五六二	六四一、一三七「フランク」
合計	一、三〇二、一三九	五〇、八二六、〇一六「フランク」

右ノ表ニ據レハ甲種第一級ニ於テハ正税ノ負擔平均一人ニ付凡ソ百八十

「フランク」ナリト雖第八級ニ至リテハ平均一人ニ付九「フランク」ニ過キサルヲ見ルヘシ

改正委員ハ甲種第一級ニ屬スル所ノ某卸賣營業ニシテ特別ニ大ナル者即チ金剛石賣買商、手形割引商等ヲ移シテ乙種ニ置ントス故ニ新法案ニ據レハ甲種ノ第一級ハ特別ニ大利アル所ノ某職業ヲ除キ卸賣商ヲ以テ成ル者ニシテ該級ニ於テハ租稅ノ基礎ヲ變更スル所ナシ第二級ハ半ハ卸賣商ヲ以テ成ル者ニシテ改正案ニ於テ稅率ヲ變革スル所ナシ只少シク該級ニ屬スル職業ヲ進退シ或ハ之ヲ上級ニ編シ或ハ之ヲ下級ニ加フ其他ノ六級ニ於テモ皆多少從來所屬ノ職業ヲ出入シ其位地ヲ改ムル其大ニ稅率ヲ改ムル者ハ第四第六ノ二級トス第四級ニ屬スル營業者ニシテ二千一八ヨリ五千人ニ至ル迄ノ人口ヲ有スル邑ニアル者ハ其職業稅減シテ十八「フランク」ヨリ十五「フランク」ニ至ル第六級ノ營業者ハ其減少尙此ヨリ大ナリ比例稅ニ至リテハ方今ハ家賃ノ二十分一ナリト雖改正案ニ據ル時ハ三十分一ヲ過キサル者トス最下ノ二級第七級第八級ハ其外形ニ於テ變更スル所アリト

雖實際ニ於テハ毫モ異ナル所ナシ如何トナレハ現今右二級ノ被稅者カ負擔スル所ノ職業稅ヲ輕減スト雖新タニ方今負擔セサル所ノ比例稅ヲ課スルヲ以テ增減相償ヘハナリ

之ヲ約言スレハ新法案ニ於テ利スル所ノ者ハ獨リ甲種ノ營業者即チ中小ノ商賈ニアリ又其甲種中ニ於テ凡ソ二百萬「フランク」ノ輕減ヲ利スル者ハ獨リ第四第六ノ二級ニアリ方今右二級ノ營業者ハ實ニ六十七萬二千二百八十四人ニシテ二千二百五十萬「フランク」ヲ拂フヲ以テ改正案ノ減少高ハ一人ニ付凡ソ三「フランク」徵收高ニ對シテハ其十分一ニ當ル者ナリ之ニ副稅ヲ加フル時ハ稅額ヲ倍スルヲ以テ第四第六二級ノ被稅者ハ改正案ニ於テ各々平均六「フランク」ノ負擔ヲ減スヘキ者ナリ

乙種ハ手代仲買運輸營業者銀行家株式仲買等一切ノ巨商大賈ニシテ職業ノ種類都テ二十二營業者一萬六千七百十八租稅ノ收入高殆ト六百萬「フランク」トス改正委員ハ多少該種ニ於テ租稅ノ額ヲ增加シ甲種ニ於テ減少セル者ヲ償ハンヿヲ計レリ故ニ該種ニ於テ減少スヘキ高ハ僅カニ三十萬七

千「フランク」ニシテ増加スヘキ高ハ百二十四萬「フランク」ニ達シ差引純増加高九十三萬三千「フランク」トナルヘシ然ルニ甲種ヨリ乙種ニ轉スル所ノ職業アルカ故ニ之ヲ減スレハ實際負擔ヲ増加スヘキハ僅ニ五六十萬「フランク」即チ現今收入高ノ九分乃至一割ニ過キサル者ナリ豈ニ苛刻ナリト云フヘキモノナランヤ

製造家ヲ以テ成ル所ノ丙種ニ於テモ均シク負擔ヲ増加シ増加高ノ減少高ニ超ユル者凡ソ百八十萬「フランク」即チ現今正税收入高ノ殆ト一割二分ニ當ル

改正案ニ於テ最モ負擔ヲ増加スル者ヲ丁種トナス方今該種ノ正税收入高ハ二百五萬二千「フランク」ニシテ其増加スヘキ高ハ八十萬「フランク」ナルヲ以テ實ニ四割ニ達ス已ニ陳セシ如ク該種ハ種々ノ事情ヨリ甲乙丙三種ノ職業ト均シク税スヘカラスト見做シタル所ノ某職業ヲ以テ成ル者ニシテ敢テ判然ト何職業ハ此種類ニ屬スト云フヲ得サル者ナリ該種ニ屬スル所ノ某職業ハ一切職業税ヲ負擔セス只負フ所ノ者ハ比例税ニ過キス之ヲ以テ改正案ニ於テ大ニ其比例税ヲ増加センヿヲ計ル

千八百七十三年ノ改正委員ノ議案ニ據ル時ハ甲種即チ中小ノ營業ニ於テ負擔ヲ減シ他ノ三種即チ巨商大製造家ノ負擔ヲ増加スルカ故ニ多少營業税ノ不平均ヲ減却スルヤ明カナリ然ルニ輕減ノ利ヲ受ル者ハ甲種ノ全級ニ及フニアラス僅ニ其一二級ニ過キサル者ニシテ其利タル甚タ小ナリ是故ニ右ノ改正案ハ未タ以テ衆望ヲ滿足セシムルニ足ラスト雖亦一歩ノ改良ト云ハサルヲ得ス

マチュー―ボデー―氏ハ一例ヲ丙種ノ蒸汽器械製造家ニ取リ千八百七十二年ニ於テハ正税副税トシテ中央政府ニ三千四百九十「フランク」二十「サンチーム」ヲ拂ヒシ者ハ定額税即チ職業税最高點ノ廢止六十「サンチーム」ノ副税設置及ヒ他ノ改革ノ爲メニ千八百七十三年ニ於テ中央政府ニ拂フ所ノ者一萬五千三百三十六「フランク」八十六「サンチーム」即チ前年ニ比シテ四倍ノ多キヲ拂フニ至ルヿヲ説ケリ爾後六十「サンチーム」ノ副税ハ減シテ四十三「サンチーム」トナリシカ故ニ改正案ニ由リテ新法ヲ行フ時ハ右ノ製造家ハ一

萬千四百五十九「フランク」二十五「サンチーム」ヲ拂フヘシ千八百七十三年ノ景況ニ比スレハ負擔ヲ輕減スル者ナリト雖佛普ノ戰爭以前ニ比スレハ尚三倍ノ多キヲ加フト云ヘシ

斯ノ如ク或ル營業者ハ商業ノ困難市場ノ不景氣ナルニ當リ物品ノ買手ヲシテ負擔ヲ分タシムルヿ能ハサル時ハ三倍餘ノ直稅ヲ拂フヘシ加之ス數種ノ間稅新タニ加ハリ四方ニ營業者ヲ攻ムル者アルニ於テヲヤ

本文ハレルワ、ポリユー氏カ千八百七十三年十二月二十日二十三日ノ刊行佛國經濟雜誌ニ掲載セシ論文ナリ

右ニ論述スル所ヲ以テ之ヲ見レハ佛國ノ營業稅ハ左ノ四條ノ意ヲ以テ賦課スル者ナルヲ知ルヘシ

第一　營業ノ利益ハ衆業皆必スシモ一樣ナラス一見シテ利益ノ多少著明ナル所ノ職業多シ即チ銀行家ノ利益ハ小木匠ノ利益ヨリ多ク乾物商ノ利益ハ靴直シ職ノ利益ヨリ多キハ衆人皆敢テ疑ハサル所ナリ然ラハ則チ利益ノ多少ヲ推定シテ營業ノ階級ヲ定ムルハ決シテ理ナシト云ヘカラス

第二　同シ營業ニ於テハ通例營業地ノ人口ノ多寡ニ由リ利益ニ大小アリ例ヘハルアン府ノ乾物商ハイヴェトー邑ノ同業者ニ比スレハ利益多カルヘク又イヴェトーノ乾物商ハ一小村ノ同業者ヨリ利益多カルヘシ故ニ小賣營業中ニ於テハ人口ノ多寡ヲ計リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ可ナリ然ルニ工業ニ至リテハ大ニ之ニ反ス是故ニ佛國ノ法律ニ於テモ之ヲ以テ工業ニ及ホサス

第三　工業若クハ商業ノ利益ハ營業場處ノ良否器械ノ多少使役者ノ衆寡ニ由リテ大小アルヲ常トス即チ紡錘十萬箇ノ製造處ヲ有セル紡績家ハ紡錘一萬箇ノ製造處ヲ有セル同業者ニ比スレハ博利ノ機會多カルヘク巨大ノ商店ヲ有スル乾物商ハ小店ヲ持スル同業者ニ比スレハ博利機會多カルヘク百人ノ被役者ヲ使役スル所ノ呉服商ハ十人ヲ使役スル同業者ニ比スレハ博利ノ機會多カルヘシ故ニ營業ノ大小ニ由リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ最モ當然ノ理ナリ且ツ製造業ノ如キハ利益ノ大小アル殆ト特ニ業ノ大小ニ由ル

第四　營業利益ノ大小ハ數々營業者ノ住家ノ家賃ト關係ヲ有スル者トス如

何トナレハ營業者ハ通例利益ノ大ナルニ從テ益良好ナル家屋ニ住スル者ナレハナリ此事タル概シテ虚妄ナルニアラサレトモ四者ノ中最モ精密ナラサル者トス何ヲ以テカ之ヲ云フ曰ク營業者カ壯館美室ニ住スルハ前日貯積セシ財産ヲ有スルニ由ルヿアルヘク本人ノ嗜好家屬ノ多少等ニ由ルヿアルヘケレハナリ加フルニ已ニ一般ノ家屋税ヲ課シ而シテ又別ニ住家ノ家賃ニ比例シテ營業税ヲ課スルハ豈ニ當然ナル者ナランヤ

是等ノ情狀ヲ量リテ利益ノ大小ヲ推定スルハ頗ル繞密ニシテ或ル格段ナル場合ニ於テハ數々適實ナラサルヘシト雖營業税ヲ課スルニ被税者ノ申告ニ由ラス又人民ノ私事ニ關渉セサランヿヲ欲セハ右ノ推定法ニ由ルノ良キニ如カサルヘシ已ニ論及セシカ如ク營業税ハ營業者ノ實益ニ課スルヲ力ムルヨリ寧ロ營業ノ景況方法ヲ見テ理ニ於テ得ヘキ所ノ利益ニ課スル者タルヲ忘ルヘカラス故ニ假令ヒ被税者ノ實益ハ其平均利益即チ推測利益ニ及ハサルモ政府ハ敢テ之ヲ輕減セス之ニ反シテ其實益ハ推測利益ニ過クルモ敢テ之ヲ增加セサルナリ

斯ノ如クニシテ佛國ノ營業税ハ非常ニ重ク正税副税トシテ一ケ年七萬五千「フランク」若クハ十萬「フランク」ヲ拂フ者アリ然リト雖佛國ノ營業者ハ能ク之ヲ忍ヒ未タ嘗テ該税ヲ廢棄シテ之カ負擔ヲ免ンヿヲ力メシヲ見ス此點ニ於テハ佛國ノ營業者ハ大ニ英國ノ同業者ニ異ナル者アリ英國ノ歳入税ハ割合ニ輕ク其營業者カ拂フ所ハ佛國營業者カ負擔スル所ノ營業税ノ(正税副税ヲ合セテ)半額若クハ三分ノ一ニ過キスト雖尚力ヲ盡シテ之ヲ廢棄センヿヲ欲ス英佛兩國ノ民ニ斯ノ如キ差違アル所以ノ者ハ蓋シ英國ハ久ク太平ノ澤ニ浴シ租税ノ改正輕減殆ト意ノ如ク常ニ或ハ輕減シ或ハ全廢スルヲ得タルヲ以テ人民之ニ慣レ隴ヲ得テ又蜀ヲ望ムノ心ヲ生セシニアリ佛國ハ之ニ反シテ負擔常ニ增加シ人民之レニ慣レ敢テ怪マサルニ至レリ又利益ヲ申告スルヲ忍フヿハ租税ノ增加ヲ負擔スルヨリ難キニアルカ

然ルニ佛國營業税ノ法ニ於テハ負擔ノ不平均甚シク人民カ能ク之ニ堪ユルハ其ニ愕クニ堪エタリ某職業ニ於テハ其憑據スル所ノ利益ノ外標甚タ完全ナラス例ヘハ銀行營業ノ如キハ其場處ノ大小美惡被役者ノ衆寡ハ營業者ノ

實益ノ多少ヲ裁スルニ足ラス仲買商ノ如キモ殆ト相同ク其場處ト被役者ヲ見テ遽カニ之カ實益ヲ量ルヿ能ハス故ニ是等ノ營業者ノ不平均ヲ免レサル者ト云ヘシ茲ニ尙此ヨリ甚シキ不平均アリ組合營業ニシテ數人相集リテ一業ヲ營ム時ハ一人ニシテ業ヲ營ムト營業ノ大小相同シト雖其負擔却テ重キヿ是ナリ請フ之カ例ヲ示サン

茲ニ一個ノ船主アリトセン方今佛國營業稅ノ制度ニ據レハ船主ノ負擔ニハ先ツ比例稅アリ該稅ハ營業場處ノ家賃價格十五分ノ一トス而シテ若シ其住居同地內ニアル時ハ住家ノ家賃ニ及フ者トス又所有ノ帆前船航洋船ハ一噸ニ付四十八「サンチーム」ヲ拂フ然ルニ右ノ船主若シ一人ノ助手ヲ有スル時ハ每噸二十四「サンチーム」ノ增稅ヲ拂ヒ合セテ一噸ニ付七十二「サンチーム」ヲ拂フ者トナリ二人ノ助手ヲ有スル時ハ一人每ニ各々十六「サンチーム」ノ增稅ヲ拂ヒ合計一噸ニ付八十「サンチーム」ヲ拂フ即チ船主カ獨力ヲ以テ營業スル時ニ比スレハ殆ト七割ノ增稅ヲ拂フ者ナリ然ラハ則チ佛國ノ營業稅ハ組合營業ニ重ク單力營業ニ輕キモノナリ即チ財力薄ク獨力ニシテ業ヲ營ム能ハサル者ニ重課シテ財力足リ獨力ニシテ業ヲ營ムヿヲ得ル者ニ輕課スルナリ斯ノ如キ不正ナル租稅法ハ習慣ニアラサルヨリ何ソ能ク之ヲ行フヿヲ得ンヤ此制度タル蠻野ノ遺風ニシテ自由競爭ヲ妨碍スル者ナリ前章ニ於テマチニ—ホデ—氏ノ報告中ニ此類ノ例証ヲ擧ケ千人ノ勞力者ヲ使役シ十萬「フランク」ノ家賃ナル製造所ヲ有シ居家ノ家賃五千「フランク」ナル者ニ住スル所ノ器械製造家ハ獨力營業ナレハ千八百七十三年ニ於テ國稅トシテ營業稅一萬二百六十六「フランク」ヲ拂ヒ若シ二人ノ助手ヲ有スレハ一萬五千三百三十六「フランク」八十六「サンチーム」ヲ拂ヘリ即チ營業ノ大小利益ノ多少ニ異ナル所ナクシテ組合ヲ以テスレハ五割ノ增稅ヲ拂ヒシ者ナリト云ヒシハ吾人ノ共ニ記スル所ナリ故ニ此制タルヤ逆累進稅トモ稱スヘシ今試ニ家屋稅ニ於テ數家族ノ一家屋ニ住スル時ハ其稅五割ヲ增課スル者トセハ富民カ特惠ヲ被ルヿヲ慍リ政府ノ措置不正無法ナルヲ責ルモ敢テ非理ノ不平ヲ唱フル者ト云フヲ得サルヘシ然ラハ則チ地租ニ於テハ不正トスル所ノ者ヲ以テ數年以來營業稅ニ行フ者ニアラスヤ此法タル只ニ道理ニ背戾スルノミナラス營業上

良組織ノ發達ヲ妨クルモノナリ航海營業者ノ言ヲ聞クニ右ノ法律ノ爲メニ船主ハ船長ト組合トナル能ハスシテ其不便少ナカラスト云フ

佛國ノ營業稅ニ於テハ尙他ノ不平均少ナカラス諸職業ノ階級分定ノ宜キヲ得サルカ爲メニ利益ノ機會大小相同キ者ニシテ甲業ハ乙業ノ三倍若クハ四倍ヲ拂フ者アリヂュプイデロームヽ氏ノ航海營業調査報告ヲ見ルニ四萬噸ノ船隊ヲ造ルニ一千萬「フランク」ノ資本ヲ要スル者トス若シ其所有主一人ナレハ正稅一萬九千二百「フランク」ヲ拂フ之ニ反シテ銀行營業ニ於テハ均シク一千萬「フランク」ノ資本ニテ正稅僅カニ三千二百「フランク」ヲ拂フト云フ然ラハ則チ航海營業ハ銀行ニ六倍ノ租稅ヲ負擔スル者ト云フヘシ

若シ營業稅ノ不平均ヲ減セント欲セハ階級ノ分定ヲ改正シ助手ノ爲メニ課スル所ノ增稅ヲ廢セサルヘカラス而シテ營業者ノ居室ニハ已ニ動產稅ノアルアリ故ニ其居室ノ家賃價格ニ租稅ヲ課セサルヲ良トス概シテ財產家及ヒ他ノ資本家(抵當ヲ以テ資金ヲ貸附ル類)ニハ租稅ヲ課セサルニ獨リ工商ノ職業若クハ高尙ナル職業ニノミ租稅ヲ課スル時ハ豈ニ論議ヲ免ルヲ得ンヤ

不完全ナル近年ノ改正(定額稅否ナ職業稅最高點ノ廢止)ニ至ル迄佛國ノ營業稅法ハ不正甚シク大ニ貧民ヲ苦メ富民ヲ惠メリ方今ト雖其獎尙未タ止マスシテ富民ニ輕ク貧民ニ重シ斯ノ如キ形況ニ於ケル自然ノ勢トシテ今日ハ漸ク輿論ノ激動ヲ起シ其獎ヤ却テ反對ノ極點ニ偏セントスルカ如シ

二十年以來巴里府ニ於テ數箇ノ巨大ナル商店ノ設立行ハレ數種ノ物品ヲ販賣スルハ衆ノ皆知ル所ナリ是等ノ商店ノ發達ハ佛國經濟上ノ組織ニ於テ一種著明ナル現象トス小商業者ハ之ヲ見テ甚タ快シトセス蓋シ彼輩カ不平ヲ訴フルハ理ナキニアラスト雖政府ノ力ヲ借リ法律ヲ以テ是等ノ大商店ヲ破滅セントスルハ其キニ過クト云ヘシ其目的タル小賣店ニシテ四種若クハ五種以上ノ物品ヲ販賣スル者ハ特ニ營業稅ヲ重課シ以テ內地ノ商業ヲシテ一定ノ方法ニ歸セシメントスルニアリ是レ稅關ニ於ケル保護ノ制ニ倣ヒ內地ニ保護ノ制度ヲ設クル者ト云ヘシ交換ノ自由國富ノ發達ヲ妨クルヿ恐クハ該制度ノ如ク甚キ者アラサルヘシ只彼輩カ請求スルヲ得ルハ大商店ヲシテ利益ノ割合(假令ヒ其實益ニ比例スル能ハサルモ當然ノ利益ニ比例シテ)ニ營

業税ヲ負擔セシムルニアリ方今ニ於テハ小賣商ハ家賃ノ大小ト被役者ノ多少ニ比例シテ該税ヲ課スル者トス若シ之ニ加フルニ取引高ノ税ヲ以テスルカ止ヲ得サレハ被税者ノ申告ニ由リテ歳入税ヲ課セハ多少營業税ノ不平均ヲ修正スルヲ得ン尤モ取引ノ高ヲ酌量シテ營業税ヲ課スル時ハ大商店ノ負擔ハ小商店ニ比シテ割合ニ重カルヘシ如何トナレハ取引高ト利益ノ比例ハ大商店ニ小ニシテ小商店ニ大ナルヘケレハナリ然ルニ他ニ大商店ニ輕ク小商店ニ重キヲ致ス所ノ者アリテ之ト相償補スヘシ即チ家賃ノ如キ是ナリ利益ト家賃ノ比例ハ大商店ニ大ニシテ小商店ニ小ナルハ敢テ疑ヲ容レサルヘシ

前日ハ營業税ヲ以テ獨リ製造家商賈ノミニ課セン者ナレトモ後チ延テ代言人醫師建築家等ノ高尚ナル職業ニ及ホセシハ宜キヲ得タル者ト云ヘシ然リト雖悉ク高尚ナル職業ニ課セントスルハ難シ之ヲ以テ只代言人醫師建築家ニ課スルニ營業税ヲ以テセリ

凡ソ營業税ヲ課スル時ハ營業者ノ利益ヲ減シテ實際ニ之ヲ負擔スル者ハ商賈若クハ製造家ニアリヤ將タ物品ノ價ヲ騰貴シテ實際ニ於テハ消費者ヲシテ之ヲ負擔セシムルヤヲ採究スルハ頗ル有益ナルヘシフランクリン氏嘗テ云ヘルアリ商賈ハ皆其掃フ所ノ租税ヲ以テ物價ニ加フト果シテ然ルヤ否ヤ請フ之ヲ論究セン

營業税ノ實際負擔ノ歸スル所ハフランクリン氏ノ言ヘルカ如ク簡單ナル者ニアラス場合ニ由リテ大ニ之ヲ異ニスヘシ茍一各國皆營業税ヲ行ヒ税率悉ク同一ナラシメハ營業税ハ一般ニ工商ノ營業費ヲ增加シ物價ヲ騰貴シ消費者ヲシテ之ヲ負擔セシムルニ至ルヘシト云フモ可ナリ然ルニ斯ノ如キ想像ノ場合ニ於テモ必ス常ニ消費者ヲシテ負擔セシムヘシト云ヒ難カルヘシ例ヘハ若シ國家ノ財難商業ノ不景氣ナルニ當リテ營業税ヲ增加スルヲアレハ假令遂ニハ消費者ニ負擔ヲ讓ルヲ得ルモ暫時ノ間ハ營業者自ラ之ヲ負擔セサルヘカラサルヤ敢テ疑ヲ容レサルナリ

然ルニ營業税ハ萬國ノ皆必スシモ行フ所ニアラス之ニ類似ノ租税ヲ以テ商賈製造家ニ課スル者アリト雖皆其税率ヲ同フセス故ニ營業税ヲ以テ常ニ消

費者ノ負擔スル所トナルヘシト云フハ當レリト云フヘカラス凡ソ外國品ノ輸入ヲ許シ保護稅ヲ行ハサル國ニ於テハ營業稅ヲ負擔スル者ハ製造家ニシテ買手ニアラサルヤ明カナリ若シ之ニ反シテ輸入品ニ課スルニ保護稅ヲ以テスル時ハ內國ノ製造家ヲシテ營業稅ノ負擔ヲ脫スルヲ得セシムヘシ甲乙ノ國ヲ問ハス商賈製造家ノ物品ヲ輸出スル者ハ實際營業稅ヲ負擔シ之カ爲メニ利益ヲ減スヘシ只消費者ニ營業稅ヲ負擔セシメ數歲月ノ中ニハ自ラ其負擔ヲ免ルヲ得ヘキ者ハ獨リ小賣營業者ノミ然ルニ此輩トテモ決シテ全負擔ヲ以テ消費者ニ讓ルヿヲ得サルヘシ例ヘハ巴里府ノ如ク外國旅客ノ群集スル所ニ於テハ物品ノ價ヲシテ外國ノ市府ニ於ケル同物品ノ價ト大異同ナカラシムルニアラサレハ販賣高ヲ減スヘキカ故ニ小賣營業者ハ多少外國ノ價ヲ顧ミテ斟酌セサルヘカラス然ルヲ今一朝新稅ヲ課スルヿアレハ是等ノ營業者ハ販賣高ヲ減スルニアラサレハ物價ヲ騰貴スルヿヲ得サルヘシ斯ノ如キ場合ニ於テハ小賣營業者ハ假令ヒ租稅ノ全額ヲ負擔セサルモ實際其一大部分ヲ負擔スヘシ實ニ營業稅ハ營業ノ難ヲ增シ利益ヲ減シ多少營業ノ新開ヲ妨ケ內國ニ於テ商賈ノ競爭ヲ減縮スルノ傾向アル者ナリ

斯ノ如ク小賣營業ハ通例數歲月ノ中ニハ營業稅ノ大部分ヲ以テ消費者ニ負擔セシムルヲ得ヘシト雖之ヲ以テ一般ニ他ノ營業者ニ及ホシ營業稅ノ爲メニ利益ヲ減スル者ニアラスト云フ能ハサルヘシ殊ニ製造家ノ如キハ內外市場ニ於テ外國ノ製造家ト競爭セサルヘカラサル者ナリ故ニ營業稅實際ノ負擔ノ歸スル處ヲ論セント欲セハ宜ク其場合ニ由テ之ヲ問フヘシ

外國營業稅ノ賦課法ハ既ニ論セシ如ク取分法ニシテ被稅者ノ調査租稅原簿ノ調製ヲナス者ハ中央政府ノ吏員ニアリテ地方ノ配賦吏員ハ之ニ關セス然レトモ市長ハ之ニ參與シ討論スルヲ得ル者トス其配賦法ニ勝ルヤ否ヲ待タサルナリ

佛國營業稅ノ收入ハ其方法ノ不完全ニシテ不平均ノ甚シキモ尙頗ル大ニシテ英國歲入稅ノ丁種即チ職業商業ノ利益ニ課スル所ノ租稅ノ收入ニ勝ル而シテ被稅者モ亦能ク忍テ之ヲ負擔ス如何トナレハ租稅ノ負擔ハ不平均ナリト雖其キニ過キサルカ故ニ方今ノ人情トシテ私事ヲ探求セラルカ如ク之ヲ

嫌厭スルヿ甚シカラス且ツ佛國人民ハ政治上ニ於テハ温順ナラサルモ財政上ニ於テハ頗ル堪忍ノ氣アルヲ以テナリ

營業税ヲ課スルニ取引高ヲ斟酌スル者トセハ可ナラン取引高ノ税ノ事ハ嘗テ佛國ニ於テ之ヲ以テ粗生品ノ税ニ代ヘンヿヲ論セシ者アリシニ議院ニ於テ僅々タル多數ノ爲メニ遂ニ廢案トナリシ者ナリ當時チエールル氏ブーエ、ケルチエ氏ハ非常ノ奮發ヲ以テ粗生品税ノ廢スヘカラサルヲ論セシハ吾人ノ共ニ記スル所ナリ

抑取引ノ高ハ營業者ノ實益ヲ表スルニ足ラサルモ相當ノ利益ヲ表スル者ニシテ紡績業ニ於ケル紡錘ノ數織物業ニ於ケル器械ノ數船舶ノ噸數商店ノ家賃ト共ニ商賈製造家ノ利益ヲ推定スル一助トナスヲ得ヘシ或ハ以爲ラク商家ノ取引高ヲ知ルハ敢テ難事ニアラス商賈製造家等ニ取引高ノ申告ヲ請求スルモ大害アルモノニアラス彼輩ハ別ニ帳簿ヲ製シテ之ヲ記載セハ可ナルヘシ其取引高ヲ示メストテ敢テ其信用ヲ傷ケラル者ニアラス又一個ノ自由ヲ妨ケラル者ニアラサルヘシト或ハ又曰ク賣買取引ノ高ニ租税ヲ課セハ僅々タル税率千分ノ一若クハ千分ノ二ヲ以テ一億「フランク」ノ收入ハ得難キノ額ニアラスト右ノ諸説ハ取引高ノ税カ議院ノ論題タリシニ當リテ論者ノ主唱セシ所ノ者ナリ

實ニ取引ノ高ハ商賈製造家ノ利益ヲ表スルヿ方今營業税ニ用フル所ノ他ノ外標ノ如ク著シキ者ニアラス故ニ取引ノ高ニ基キ新タニ一税ヲ課セント欲スルハ大ニ誤レリト云ヘシ若シ別ニ取引高ノ税ヲ置ント欲セハ先ツ營業ノ種類ニ由リ利益ノ割合ヲ量リテ商賈製造家ノ階級ヲ分タサルヘカラス例ヘハ驕奢物ノ生産者ハ通例得ル所ノ利益ノ割合大ニシテ其物價ノ二割若クハ三割ヲ得ルヿ少ナカラス然ルニ消費ノ廣大ナル普通物品ノ生産者ニ至リテハ之ニ異ナリ是等ノ物品ハ原價ト賣價ノ差甚タ小ナル者ニシテ其大利ヲ得ル所以ノ者ハ賣買取引ノ多量ナルニアリ卸賣商ノ小賣商ニ於ケルモ亦然リ其利益ハ遙カニ小賣商ヨリ薄シ又殊ニ銀行家仲買等ノ利益ハ取引ノ高ニ比例スレハ非常ニ菲薄ナリトス是ヲ以テ取引高ノ税ヲ置カント欲スルニ當リテハ(固ヨリ毫モ不平均ナキヲ期スヘカラスト雖甚シキ不公平ナク)營業職業

ノ級ヲ分チ各々税率ヲ異ニセサルヘカラスト雖殆ト能クナシ得ヘキノ業ニアラサルカ如シ或ハ銀行家(其營業資本ノ高ニ應シテ税ヲ課セリ)仲買等ハ該税ヲ課セサルヘシトセリト雖階級ノ數非常ニ多カラサルヘカラスシテ税率ヲ定ムルニ至リテ其重キニ堪ヘサル者ナカラシメント欲スルモ殆ト得ヘカラサラン

其收入高ニ至リテモ亦論者カ期望セシ如ク大ナラサルヘキヤ疑ヲ容レサルナリ佛國ニ於テ賣買取引ノ高ハ論者ノ言ノ如ク巨額ニ達セサルヘシ況ヤ農産品ノ小賣高ヲ除算スルニ於テヲヤ取引高千分ノ一若クハ千分ノ二ノ税ハ通例一割乃至二割ノ利益ヲ得ル所ノ製造家ニアリテハ輕シト雖僅カニ五分乃至一割ノ利益ヲ得ル所ノ卸賣商ニアリテハ已ニ漸ク重シ仲買等ノ如キ二分三分ノ利益ヲ得ルヲ常トスル者ニ至リテハ其重キニ堪ヘサルヘシ例ヘハ是等ノ營業者ニ取引高ノ千分ノ二ヲ税ストスレハ輕キハ所得ノ一分重キハ一割トナルヘシ故ニ斯ノ如キ重課ナカラシメント欲セハ其税率平均一萬分ノ五ニ過クヘカラス然ラハ則チ其收入ハ三千萬乃至四千萬「フランク」ニ過キ

サルヘシ之ニ反シテ營業税ヲ增課セハ斯ノ如キ大不便ナクシテ三四千萬「フランク」若クハ其餘ニモ收入ヲ得ヘキナリ

又取引高ニ租税ヲ課スルトキハ同品同位ノ生産物ニシテ租税ノ負擔ニ輕重ヲ異ニスルノ患アリ即チ一物品ノ製造ヲナスニ終始一製造處ニ於テスルト數個ノ製造家ヲ經ルトニ於テ負擔スル所ヲ異ニスヘシ例ヘハ茲ニ一ノ巨大ナル織物製造處アリ直チニ自ラ外國ヨリ綿ヲ輸入シ之ヲ紡キ之ヲ織リ之ヲ染メテ販賣セハ租税ヲ負擔スルヿ一回ニ止マル然ルニ一物品ノ大成ニ至ルマテ數回小製造家ノ手ヲ經ル時ハ大ニ負擔ヲ異ニスヘシ我佛國ノ如キハ中小ノ製造家甚タ多ク紡績家ハ專ラ紡績ヲ業トシ自ラ合衆國ニ通シテ綿ヲ輸入セス其用フル所ノ綿ハハ|ブルノ仲買商ニ依リテ之ヲ買フ故ニ右ノ綿ハ其賣買ノ時ニ於テ一回租税ヲ負擔ス又右ノ紡績家ハ自ラ木綿ヲ織ラスシテ絲ヲ織物家ニ賣ル此ニ於テ第二回ノ租税ヲ負擔ス織物家ハ木綿ヲ染メスシテ之ヲ染師ニ賣ル此ニ於テ第三回ノ租税ヲ負擔ス染師ハ後之ヲ卸賣商ニ賣ル此ニ於テ第四回ノ租税ヲ負擔ス斯ノ如ク同一ノ物品ニシテ事業ノ取扱ヲ分

ツ時ハ政府ニ四回ノ收入アリ之ヲ一處ニスレハ收入一回ニ止マル然ラハ則チ巨大ノ營業者ニ特惠ヲ與ヘテ小營業者ヲ苦シムル者トナルヘシ斯ノ如キ效驗ハ間稅ノ通病ニシテ殆ト避クヘカラサル者メルハ既ニ論スル所ノ如シ決シテ取引高ノ稅ノミニ止ラサルナリ殊ニ此事タル製造品ニ課スル所ノ稅ニ於テ尤モ甚シトス元來自然ノ性質トシテ巨大ノ營業ハ小營業ニ望ムヘカラサル所ノ便益ヲ有スル者ナリ

斯ノ如ク取引高ノ稅ハ不便多シト雖營業稅ヲ課スルニ當リテ某營業例ヘハ小賣營業殊ニ呉服商ノ如キニ於テハ取引高ヲ以テ營業利益ヲ量ルノ一具トナスヲ得ヘシ

又營業利益ニ課スル所ノ租稅ニ加フルニ諸國ニ於ケルカ如キ動產稅即チ株式負債証書手形類若クハ普通會社ノ利益ノ配當高ニ課スル租稅ヲ以テスルモ可ナリ是等ノ動產ニ稅スルハ頗ル便利ニシテ收入必ス多ク又開明國ニ於テハ年ニ收入ヲ增加スヘシ然リト雖之ヲ輕課スルニアラサレハ不便モ亦多シ

政府カ他ノ財產例ヘハ內國政府ノ公債証書及ヒ外國ノ公債証書若クハ一個人ノ商會或ハ合名會社ノ利益若クハ不動產書入質貸附証書若クハ無抵當貸附証書ニ歲入稅ヲ課セサルニ當リテ獨リ前ニ所謂ル動產稅ヲ課スルハ當ヲ得タル者ナルヤト云フ者アラン公平ノ理ヲ以テ之ヲ見ル時ハ特ニ動產稅ヲ課スヘカラサルヤ明カナリ元來世人ハ通例動產ハ現ニ每年ノ配當金利益ノ高ヲ減スル所ノ租稅ノ外他ニ租稅ヲ負擔セサル者ト信スレトモ大ニ誤レリト云ヘシ如何トナレハ動產ハ只ニ某會社ノ一部分ヲ所有スルヿヲ表スル者ニ過キスシテ其會社ハ已ニ無數ノ租稅例ヘハ地租(若シ其會社ニシテ不動產ヲ有スレハ營業稅若シ商工ノ業ヲ營ム時ハ)及ヒ記錄印紙ノ諸稅ヲ負擔スル者ナレハナリ

然ラハ則チ動產ノ歲入ニ課スル所ノ租稅ハ一會社カ已ニ他ノ被稅者ト均ク負擔セシ租稅ノ外ニ課スル所ノ租稅ナリ試ニ亨麻紡績ヲ業トスル無名會社アリトセン該會社ハ一人ニシテ同額ノ資本ヲ以テ同業ヲ營ム者ト均ク諸稅ヲ負擔シ加フルニ歲入稅トシテ其純利益ニ課セラルヽ所ノ負擔アリ然ルニ

此租税ニ至リテハ諸國殊ニ佛國ニ於テ獨力ノ紡績家ハ負擔セサル所ノ者ナリ今茲ニ製造家ヲ引証シテ論スル所ノ者ハ銀行營業ニ於ケルモ異ナル所ナシ例ヘハ巴里府ノ「コントワル、デスコント」ノ如キ無名會社カ拂フ所ノ諸税ハロツシルド銀行ノ如キ獨力ノ大銀行ト毫モ異ナル所ナシ然ルニ「コントワルデスコント」ハ又其他純利益ニ租税ヲ拂ハサルヘカラスト雖是レ强敵手ナルロツシルド銀行ノ負擔セサル所ナリ由是觀之ハ別ニ動産税ヲ行フ時ハ組合營業ヲナス者即チ中小ノ營業者ニ課スト雖巨大ノ資本家ニシテ會社條例ノ及ハサル者ニ課セサルノ大不便アリ然レトモ一般ノ歳入税ヲ行フ所ノ國ニ於テハ敢テ此不便ナカルヘシ

動産ノ歳入ニ課スルニ特別ノ税ヲ以テスルヲ當然ナリトスル者ノ説ニ曰ク動産ノ所有者ハ遊食ノ資本家ニシテ自ラ營業ヲ事トセス手ヲ拱シテ會社ノ主事頭取等カ得ル所ノ利益ノ配當ヲ以テ滿足スル者ナリ加フルニ動産ノ所有者ハ損失ヲ受クルヿアリト雖限度アリ所有産ノ全力ヲ擧テ一會社ノ爲メニ責任ヲ負ハサルモ可ナリ假令ヒ其會社ノ破産スルヿアリト雖己レノ面目ニ關スルヿナク又該會社ニ投セサル所ノ資本ヲ失フノ患ナシト此言タル多少理ナキニアラス故ニ會社ノ利益ニ租税ヲ課スルヿ獨力營業ノ所得ヨリ少シク重キモ敢テ恕スヘカラスト云フニアラス或ハ又曰ク獨力ノ營業者ハ營業税トシテ其營業處若クハ器械ニ租税ヲ拂フノミナラス其居家ノ家賃ニ營業税ヲ拂フト雖無名會社ニ至リテハ其器械若クハ營業處ニ營業税ヲ拂ヒ株主ノ家賃ニ租税ヲ負ハサルナリト此言モ亦理アリ然レトモ一方ヨリシテ之ヲ云ヘハ之ニ對フル辭ナキニアラス即チ會社ハ資本ニ於テ株式或ハ負債証書ノ印紙税ヲ拂フヿ多シト雖獨力營業者ニ至リテハ毫モ之ヲ負ハサルヿ是ナリ右ノ印紙税ハ証書額面ノ一分ニシテ一時ニ全額ヲ拂ハシムルアリ或ハ毎年一度之ヲ拂ハシムルアリ

動産ノ所有者ヲ稱シテ遊食ノ資本家ナリト云フト雖豈ニ獨リ動産ノ所有者ノミナランヤ政府ノ公債証書ノ所有者不動産書入質貸附証書ノ所有者差金會社ノ有限株主無抵當ノ貸附証書ノ所有者モ亦毫モ動産ノ所有者ト異ナル所ナシ然ラハ則チ道理ニ於テモ推理ニ於テモ是等ノ財産家ハ動産ノ所有者

ト均シク歳入税ヲ課スヘキナリ佛國ニ於テ動産ノ所有者ト均シク處スル者ハ獨リ差金會社ノ有限株主ノミ

元來佛國ニ於テハ政府ノ公債証書抵當貸金不動産書入質貸附証書無抵當貸附証書ノ所有者ニ歳入税ヲ課セス就中無抵當貸附証書ニ税セサルハ見易キノ理アリ如何トナレハ此類ノ証書所有者ニ税スルヿハ容易ナラサレハナリ只此輩ハ一般ノ歳入税ニ於テ税スルヲ得ヘキノミ政府ノ公債証書ニ歳入税ヲ課セサル者ハ一ハ偏見一ハ計算上ニ由ル世ノ偏見論者以爲ク政府ノ公債証書ニ至リテハ政府自ラ負債主ニアラスヤ然ルニ租税ノ名ヲ以テ其拂フヘシト約束セシ利子ノ高ヲ減スルハ政府ノ權ヲ濫用シ不信ヲ天下ニ示メス者ナリト論者ノ言迷ヘルモ亦甚タシ奏余輩ハ本書國債ノ部ニ於テ之ヲ論究シ其迷妄ヲ挫折セントス然リト雖利益上ヨリ少シク考フル時ハ政府ハ必スシモ其公債証書ニ動産ノ歳入税ヲ課セサルモ可ナリ政府ノ公債証書ハ租税ナキヲ以テ他ノ有税証書ニ比較シテ税額ノ割合ニ賣買價格貴シ故ニ政府ハ負債ノ交替ヲナサハ利子ノ百分ノ一若クハ千分ノ五ヲ減スルヲ得ヘシ此方法ニ就テハ詳ニ國債ノ部ニ論スヘキヲ以テ今茲ニ辨論セスト雖政府ノ爲メニハ遙カニ租税ヲ課スルヨリ利アリ佛國ノ三分利付公債証書ノ如キ遙ニ平價以下ニテ發行セシ者ニシテ容易ニ平價ニ達スヘキ見込ナキ公債証書ト雖租税ヲ課セサルニ利アリ如何トナレハ政府ノ公債証書所有者ヲシテ佛國政府ハ決シテ其公債証書ニ租税ヲ課セサル者ナリト信セシムルヲ得レハナリ佛國ニ於テハ習慣ノ久シキ政府ト公債証書ノ所有者ノ間ニ默約ヲ生シ政府ニ於テハ自ラ發行セシ公債証書ニ租税ヲ課スヘカラサルカ如キ形狀トナリ若シ之ヲ破ル時ハ信義ヲ失フカ如キ姿トナレリ故ニ之ニ租税ヲ課セント欲セハ一般ノ歳入税ヲ以テ申告法ニ據リ間接ニ之ヲ施コスニアラサレハ紛議ヲ免レサルヘシ

佛國ニ於テ不動産書入質貸附証書ニ租税ヲ課セサルハ毫モ條理アルニアラス或ハ云フ是レ農業ヲ保護スルノ意ナリト然ルニ無名會社カ發行スル所ノ負債証書ハ工業ニ用フルアリ時トシテ農業ニ用ユルアリ法律上ニ於テハ工業ヲ措テ寧ロ農業ノ爲メニスヘシト云フヲ得ス加之ナラス不動産書入ノ貸

附ハ農業改進ノ目的ヲ以テスル者殆ント稀ナリ不動產書入ヲ以テ負債ヲ起ス者ハ我所有產ノ改進ヲナサント欲スルニアラスシテ已レノ不注意ヨリ信用買ヲナシタル物品代價ノ仕拂或ハ舊債ノ仕拂或ハ他ノ費用ニ供スルカ爲メニスル者ナリ斯ノ如ク通例不動產ノ書入ヲ以テ負債ヲナスハ其所有產ヲ會社ニ賣渡シテ之ヲ利用スルニアリ然ラハ則チ不動產書入質貸附証書ハ毫モ特權ヲ有スルノ理ナカルヘシ然ルヨ之カ租稅ヲ除スル時ハ甚キ不公平ヲ生スヘシ佛國ニ於テハ一個人ノ不動產書入質貸附証書ハ租稅ヲ課セスト雖「クレヂフォンシエ」ノ發行セル負債証書ニシテ只不動產抵當ノ貸附ヲ表スルニ過キサル者ハ歲入稅ヲ課ス是レ一個人ノ債主ヲ惠ミ貸附會社ヲ苦シムル者ト云ヘシ

加フルニ佛國ニ於テ不動產書入質貸附証書ノ歲入稅ヲ免除スルハ一時ノ情狀ヨリシテ此ニ至リシ者ナリ嘗テ千八百七十一年ノ國會ハ鄉村ノ議員多數ニシテ農民ニ私シテ製造地方ノ民ヲ苦ムルヿヲ厭ハス多數ノ力ヲ以テ農民ニ特權ヲ許スヱ至レリ又一ニハ佛國ノ大禍難ニ際シテ政府ハ大ニ國債ヲ募リ六分若クハ多キハ六分二五ノ利子ヲ拂ヒシカ故ニ不動產抵當ヲ以テ資本ヲ貸與スルヿハ概シテ好マサルヿトナレリ其此ニ至リシ所以ノ者ハ他ナシ不動產ノ抵當ニ資本ヲ貸與スルモ得ル所ハ五分ニ過キスト雖政府ノ公債ヲ買フ時ハ至安ニシテ六分乃至六分二五ヲ得タルニ由ル然ルヨ當時ハ人之ヲ以テ罪ヲ租稅ニ歸セリ佛國ノ法政府ノ公債ハ六分二五若クハ多キハ七分五「モルガン」公債ノ如キ)ノ利子ヲ附スルヨ許スト雖一個人ノ負債ハ常事ニ於テ五分以上ノ利ヲ附スルヨ許サス故ニ斯ノ如キ大變況ナカラシメハ不動產書入質貸附証書ニ歲入稅ヲ課スルモ決シテ該負債ノ維持若クハ發達ヲ妨クルヿナカルヘシ

抑動產ノ歲入稅ヲ論スルニ當リテ研究セサルヘカラサル者ハ該稅實際ノ負擔是ナリ實際該稅ヲ負擔スル者ハ果シテ誰ソヤ該稅ノ爲メニ証書所有者ノ配當金若クハ年々ノ利子ヲ減シテ之ヲ負擔スル者ハ其所有者ニアルカ將タ該稅設置ノ際ニ於テ一時ニ証書ノ價格ニ於テ租額ノ倍乘高ヲ減シ之ヲ負擔スル者ハ當時ノ所有者ニアルカ又將來ニ負債証書ヲ發行セント欲スル者ハ

証書ノ價格租稅ノ爲メニ割合ニ若ルシキ減少ヲ致シテ自ラ歲入稅ノ全額ヲ負擔スヘキカ斯ノ如クシテ動產ノ歲入稅ハ內國ノ資本外移ヲ促カシ外國ノ資本來集ヲ妨クルノ患ナキヤ

該稅ノ負擔ハ場合ニ由リテ其歸着ヲ異ニスヘシ一國若シ一般ノ歲入稅ヲ行ヒ之ヲ輕課シ且ツ下等ノ歲入ハ若干額以下ニ稅セサル時ハ歲入稅ヲ負擔スル者ハ實地ニ利子及ヒ配當金ヲ受クル者ニアリト云フヲ得ヘシ斯ノ如クナレハ歲入稅ノ名ニ反カサル者ト云ヘシ方今英國ニ於ケルカ如キ是ナリ然ルニ歲入稅ノ及フ所ハ特ニ動產ニシテ他ノ財產(不動產書入質貸附証書無抵當貸附証書一個人ノ營業利益內外政府ノ公債証書)ニ及ハス殊ニ稅率重キ時ハ該稅ノ爲メニ現今將來ノ動產兩ツナカラ其價格ヲ減スヘシ而シテ其減少ハ殆ト租額ノ倍乘高ニ均シカルヘシ是故ニ其資營業ヲナス者ハ其發行スル所ノ負債証書ノ價格減少ノ爲メニ更ニ負擔ノ重キヲ若マサルヘカラス

右ニ言フ所ノ結果ハ寧ロ條理論ニシテ純ラ事實ニ徵スル者ニアラス之ヲ實際ニ見ル時ハ往々其結果ヲ折衷スルヿ少ナカラス例ヘハ佛國戰爭以後佛國

鐵道會社ノ負債証書ハ其歲入ノ三分ヲ稅シ三分利ノ公債証書ニハ租稅ヲ及ホサスト雖試ニ現今(千八百七十六年ノ初メ)鐵道會社負債証書ノ市價ヲ以テ三分利公債証書ノ市價ニ比スレハ其最良ナル兩証書市價ノ比例ハ戰爭以前ニ異ナルナキヲ見ルヘシ世或ハ其事實ヲ見テ歲入稅ハ以テ負債証書ノ價格ヲ減スルニ足ラストセン然ルニ是レ當然ノ見ニアラスト云ヘシ實ニ佛國人民ハ初メ鐵道會社負債証書ノ安全ナルヲ知ラサリシト雖困難ノ時ニ當リテ敢テ大ニ價格ヲ失ナハス又公債証書ハ政府ノ保護ニ止マレトモ鐵道會社ノ負債証書ハ政府保護ノ外尙營建築鐵道ノ純歲入ニハ特別ノ利ヲ有シ且ツ年ニ其收入ノ增加スルヲ見テ却テ安全ナル思ヒヲナシ所謂ル實驗ニ據リ此五年間ニ於テ鐵道會社ノ負債証書ハ政府ノ公債証書ト均シク安全ナリト思フニ至レリ從前ハ政府ノ公債証書ト鐵道會社ノ負債証書ノ間ニハ凡ソ〇分五ノ利子ノ差ヲ存スルハ當然ナリト思ヒシモ此ニ於テカ斯ノ如キ差違ヲ存スルニ足ラストナスニ至レリ故ニ此效驗ヲ見テ假令ヒ政府ハ鐵道會社負債証書ノ歲入ニ租稅ヲ課セサルモ該証書ノ價格ハ十五「フランク」若クハ二十「フラ

ンク」ヲ騰貴セサルヘシト云フヘカラス

特ニ動產ニ租稅ヲ課シ他ノ証書類ニ均シク租稅ヲ課セサル時ハ動產ノ價格ハ常ニ租額ノ倍乘高即チ其國ノ習慣ニ從ヒ動產ノ種類ニ應シテ租額ノ十五倍二十倍若クハ二十五倍ニ均シキ高ヲ減スヘク又租稅設置ノ後ニ出ツル所ノ動產ハ其初メニ於テ該額ニ均シク價格ヲ減スヘシ例ヘハ甲乙ノ二國アリ(佛國白耳義トシ)疆域相接シ開明ノ度富ノ大小信用ノ厚薄共ニ相同フシテ一ノ營業會社(假リニ鐵道會社トナシ)アリトセン是等ノ會社ハ均ク繁榮ニシテ同時ニ負債証書ヲ發行セン然ル時ハ白耳義鐵道會社負債証書ノ價格ハ必ス貴ク佛國鐵道會社負債証書ノ價格ハ必ス低カルヘシ如何トナレハ白耳義會社負債証書ノ歲入ハ租稅ナリ佛國會社負債証書ノ歲入ハ租稅ヲ負擔スヘケレハナリ故ニ佛國ノ鐵道會社ハ其証書ノ價格ヲ減スルヲ以テ敵手ニ對シテ不利ノ位地ニアリト云ヘシ余輩カ此ニ言フ所ノ者ハ只ニ鐵道會社ニ止マラス紡績業炭坑業製鐵業等如何ナル營業會社ニ於ルモ皆同理ニシテ佛國ニ於ケル會社ノ株主ハ直接ニ株主配當金ニ課シ租稅ヲ負擔スルノミナラス間接

ニ又租稅設置後ニ發行スル所ノ負債証書ノ利子ニ課スル租稅ヲ負擔セサルヘカラス

佛國ニ於テ動產ノ歲入稅ハ僅ニ三分ニシテ敢テ重シト云フニアラスト雖証書ノ讓與稅アルカ爲メニ之ヲ增加ス右ノ讓與稅ハ証書ノ所有主ヲ轉スル每ニ課スル所ノ者ニシテ年賦ニ之ヲ徵收ス故ニ實際ニ於テハ年々其利子若クハ配當金ノ高ヲ減スル丁大ニシテ動產所有者ノ負擔スル所ノ稅額ハ配當金利子ノ六分若クハ七分ニ達ス或ル鐵道會社ノ負債証書ハ利子ノ高十五「フランク」ニ付一「フランク」五「サンチーム」若クハ一「フランク」十「サンチーム」ヲ負フ此ノ如キハ七分乃至八分ノ負擔トナル無名會社株式ノ價格ハ殆ト其割合ニ減スヘキヤ疑ヲ容レサル所ナリ若シ既設ノ會社ニシテ負債証書ヲ發行スルニ當リ其價ヲ減シテ自ラ証書ノ利子ニ課スル租稅ヲ負擔スルニアラサレハ內地ノ資本ハ大ニ外國ニ轉移スヘシ

特ニ動產ノ歲入稅ヲ課スルニ當リ尙一點ノ論究スヘキアリ則チ內國ノ動產ニシテ外國人ノ所有タル部分并ニ外國發行ノ証書ニシテ動產稅ヲ課スル所

ノ國ニアル部分ニ該稅ヲ課スヘキヤ否ヤ是ナリ佛國ニ於テハ兩ナカラ之ヲ課スヘキ者トナシ無名會社ノ証書ハ其白耳義ニアル者日耳曼ニアル者以太利ニアル者ヲ問ハス悉ク動產ノ歲入稅ヲ課セリ佛國ノ証書ニシテ外國ニアル者ハ該稅ヲ課セサルヘシトナスハ宜キヲ得ル者ニアラス若シ之ヲ免除セハ內國ノ動產所有者ニシテ租稅ヲ免カル者多カルヘシ如何トナレハ外國市府ニ於テ証書ヲ出シ利子ノ仕拂ヲ請求セハ該稅ヲ避クルヿ容易ナルヘケレハナリ余輩ハ本書國債ノ部ニ於テ政府ノ公債証書ニ於テハ時トシテ外國ノ所有者ニ特惠ヲ與フト雖其獎ヲ避ケンカ爲メニ外國ニ於テ全額ノ仕拂若クハ金貨ニテ仕拂ヲ請フ者アレハ誓書ヲ要シ利札ノミナラス本証書ヲ示メサシムルヿアルヲ論スヘシ實際ノ經驗ニ由テ之ヲ見ルニ是等ノ方法ハ無益ニアラスト雖亦全ク奸曲ヲ禁スルニ足ラス

政府ノ公債証書ニ課スル租稅ノ事ハ國債ノ論題ニ屬スル者タルヲ以テ後篇ニ遺シ敢テ本篇ニ論究セサルヘシト雖尋常ノ動產ニ關スル者ハ此ニ之ヲ論セン凡リ動產ノ歲入ニ租稅ヲ課スル時ハ外國ニアル所ノ証書ト雖租稅ヲ除

クヘカラス又內國ニ流通スル所ノ外國証書モ均ク之ヲ稅スヘシ然レトモ其之ヲ發行セル國ニ於テ已ニ我カ課スル者ト均シク歲入稅ヲ課スル時ハ之ヲ稅セサルヲ要ス如何トナレハ若シ兩國政府ニ於テ交モ一ノ動產ニ租稅ヲ課セハ証書ノ所有者ハ毫モ得ル所ナカルヘケレハナリ例ヘハ以太利ニ於テハ動產稅トシテ一割三分二ヲ課ス故ニ三分利ノ負債証書五百「フランク」ノ歲入ハ十五「フランク」ノ名アリト雖實際ハ十三「フランク」二「サンチーム」ニ過キス若シ佛國政府ニ於テ又別ニ六分若クハ七分(歲入稅讓與稅ヲ合セタル稅率)ヲ課セハ益之ヲ減シ只ニ純歲入ハ十二「フランク」十「サンチーム」トナルヘシ是レ兩國政府相合シテ凡ソ歲入ノ二割ヲ徵收スル者ナリ豈ニ過重ト云ハサルヘケンヤ

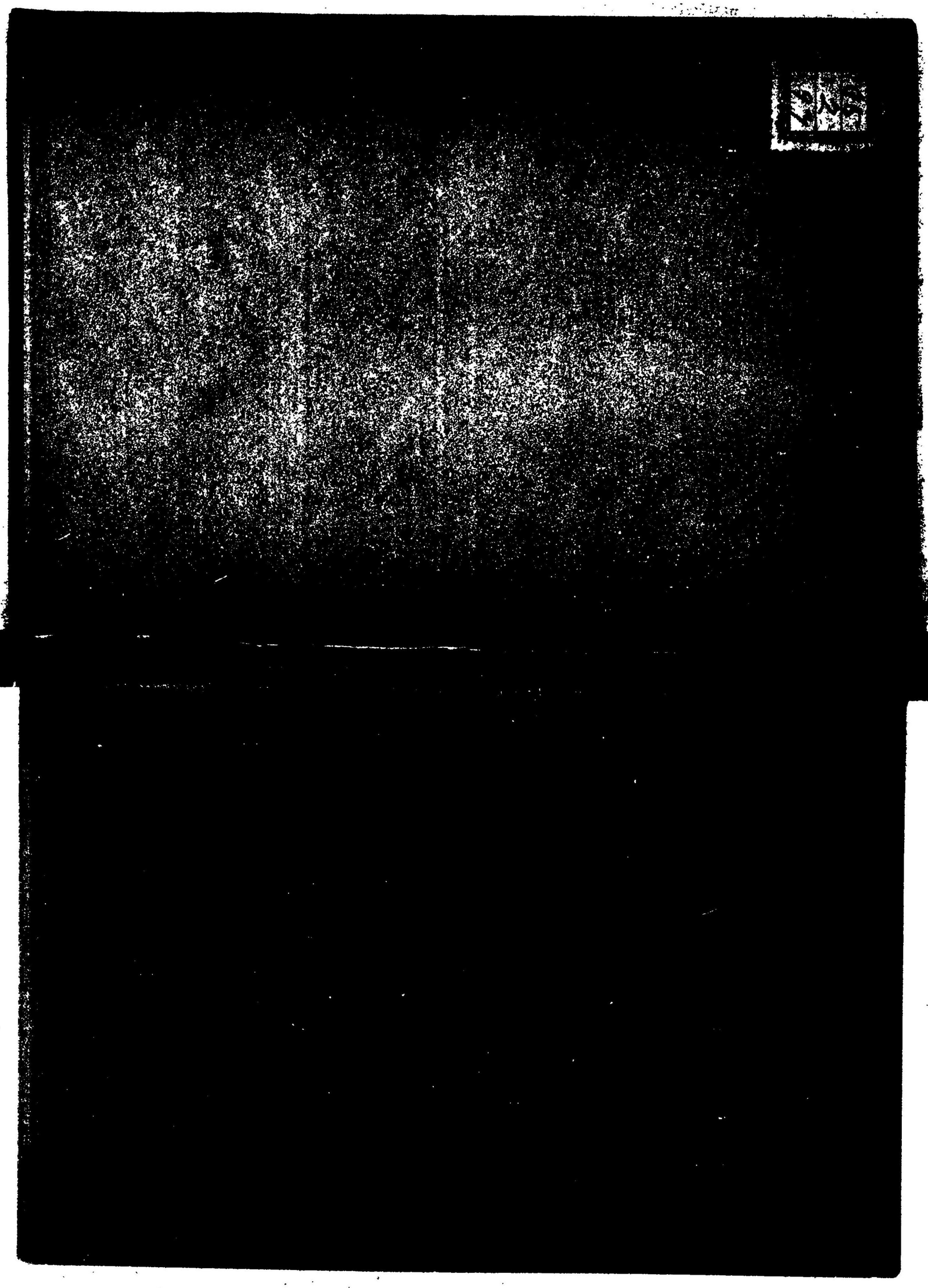
佛國ノ如ク特ニ動產ノ歲入ニ稅シ之ニ加フルニ讓與稅ヲ以テシ負擔ヲ重フスル時ハ一國ヲシテ國際ノ財產即チ萬國市場ニ賣買セラル所ノ財產ヲ所有セシムルヿヲ妨クルノ不便アリ目下スエズ堀割大業ノ株式ノ如キ是ナリ世人ハ此事業ヲ以テ全ク佛國人ノ手ニ成ルト稱スト雖是自ラ其實況ヲ知ラサ

ル者ト云フヘシ近年英國ハ埃及王カ千八百九十四年迄所有權ヲ抛チシ所ノ株式十七萬六千六百二箇ヲ購ヘリ二十二萬三千三百九十八株丼ニ該會社ノ手形負債証書及ヒ他ノ財産ハ可成丈ケ佛國ノ所有ニ存セシムルハ邦家ノ利ナリ然ルニ是等ノ証書ノ大數ヲシテ漸次英國若クハ荷蘭ニ歸セシムルニ二大原因アリ第一英蘭二國ニ於テハ資本ノ利子佛國ニ於ケルヨリ低シ故ニ動産ノ市價佛國ニ於ケルヨリ大ナリ此形情タル故意ヲ以テ左右スルヲ得ヘキ者ニアラス又如何トモスル能ハス然リト雖尚茲ニ佛國法律ノ爲メニ同一ノ效驗ヲ生スル者アリスエズ堀割會社ノ証券ハ佛國ニ於テ歳入税ヲ課シ又讓與税トシテ年賦ニ其配當金若クハ利子ニ課スルヲ以テ負擔頗ル重シ元來スエズ堀割會社ハ法律上ニ於テ埃及ノ會社ニシテ佛國ノ會社ニアラサルカ故ニ諸外國ニ流通スル所ノ該會社ノ証券ハ是等ノ二税ヲ負擔セスト雖佛國ニ於テハ二税ヲ合セテ實際歳入ノ八分ヲ負擔ス然ラハ則チ英國人民荷蘭人民カ來リテ之ヲ買去ルモ亦宜ヘナラスヤ

英國ニ於テハ動産ノ歳入ニ税アリト雖其タ輕ク方今ハ百分ノ一ニ達セス

加フルニ一般ノ歳入税ノ一部ニシテ歳入二千五百「フランク」ニ達セサル者ハ之ヲ除ク

佛國動産ノ歳入ニ課スル所ノ税率ハ三分ニシテ千八百七十五年ノ收入高ハ實ニ三千四百五十萬「フランク」トス凡ソ毎年百五十萬「フランク」ノ增加アリ實ニ動産ノ歳入税ハ良税ニアラス特ニ之ヲ課スヘカラス假令ヒ之ヲ課スルモ一般ノ歳入税ニ於テスヘシ然ルニ國庫ノ空乏ナル者ハ其不便ヲ厭ハスシテ動産ノ歳入ニ特別ノ税ヲ課スル者アリ假令ヒ之ヲ行フモ能ク其短處ヲ解シ誤テ動産ノ所有主ヲ以テ地主ト同一視スル勿レ動産ハ則チ所有産若クハ資本ノ証表ニシテ已ニ國内ノ諸税ヲ負擔スル者ナリ豈ニ不動産ト同視スヘキモノナランヤ

正　誤

八十丁	三行	偏重ハ偏重ノ誤	
三百二十七丁	三行	三十「フラシク」ハ三十「フランク」ノ誤	
三百五十一丁	末行	新說ハ新稅ノ誤	
三百五十三丁	十一行	(プレチマン氏ノ行ハ(プレチマン氏ノ稿ノ誤	
四百五十六丁	三行	佛國人ノ口ハ佛國ノ人口ノ誤	
五百四丁	五行	相對スハ相對比スノ誤	
五百九丁	九行	方法ヲハ方法ノ、誤